



HONDA

Fit Hybrid

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

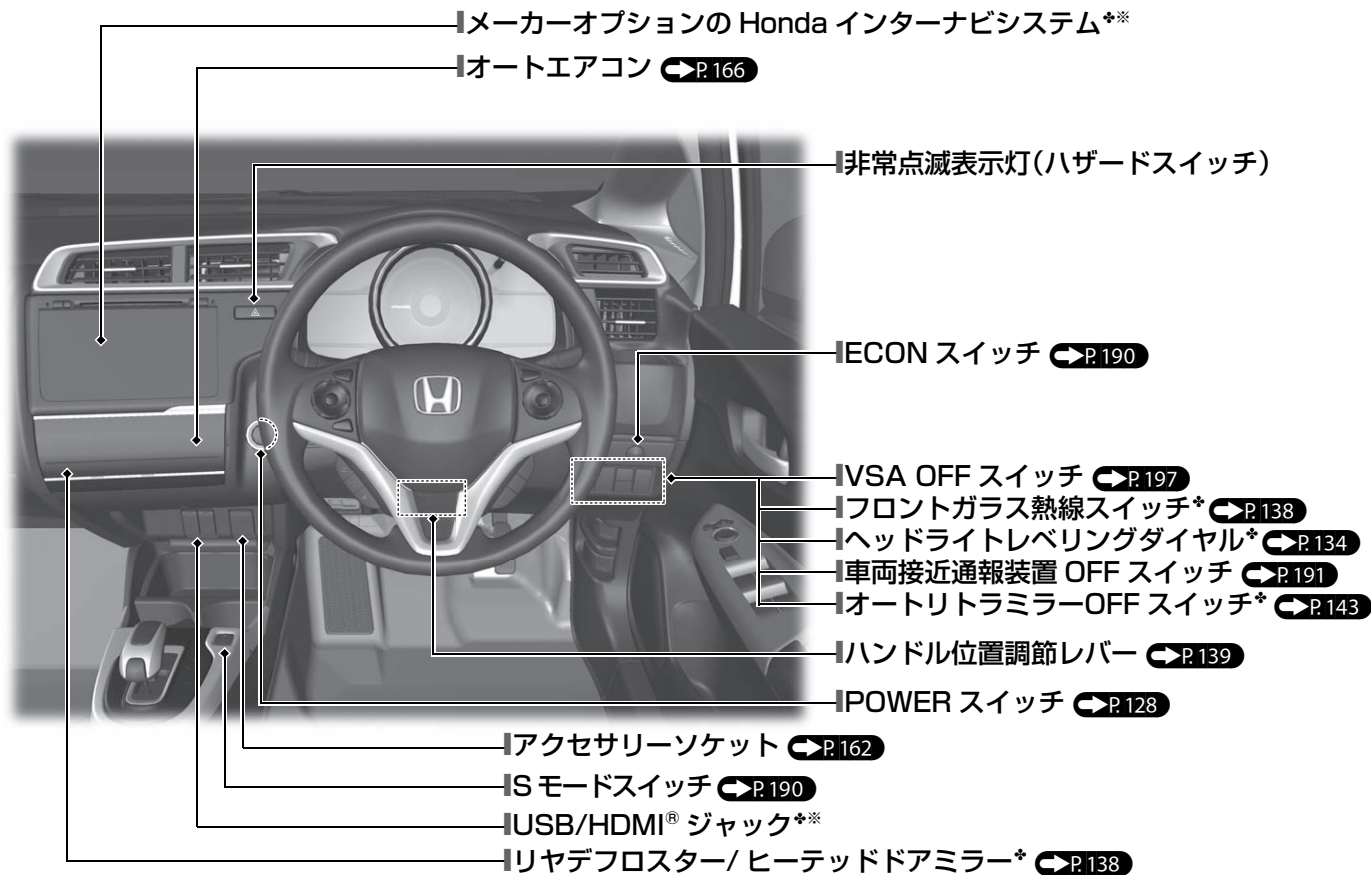
メンテナンス

万一の場合には

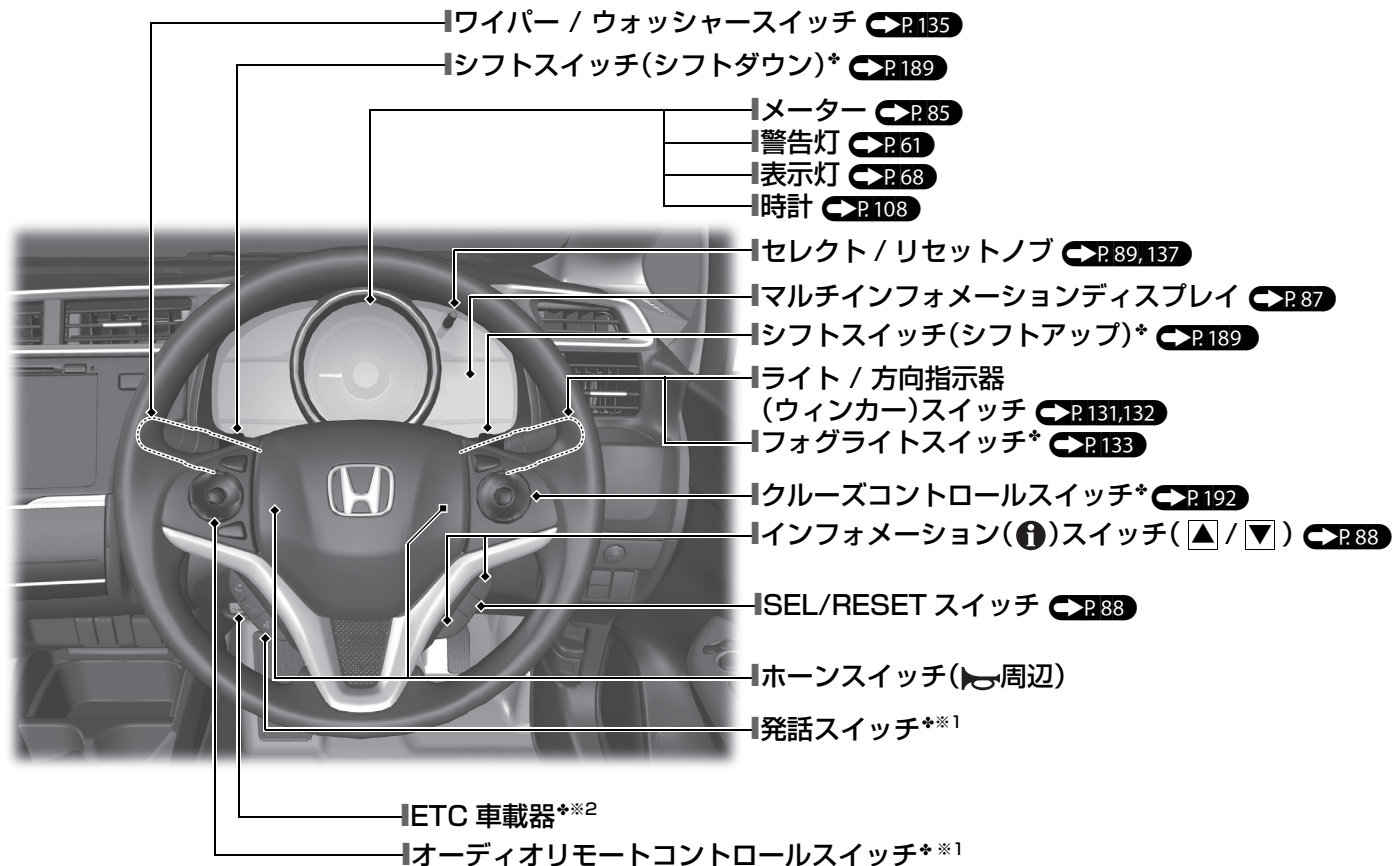
資料

索引

ビジュアル目次



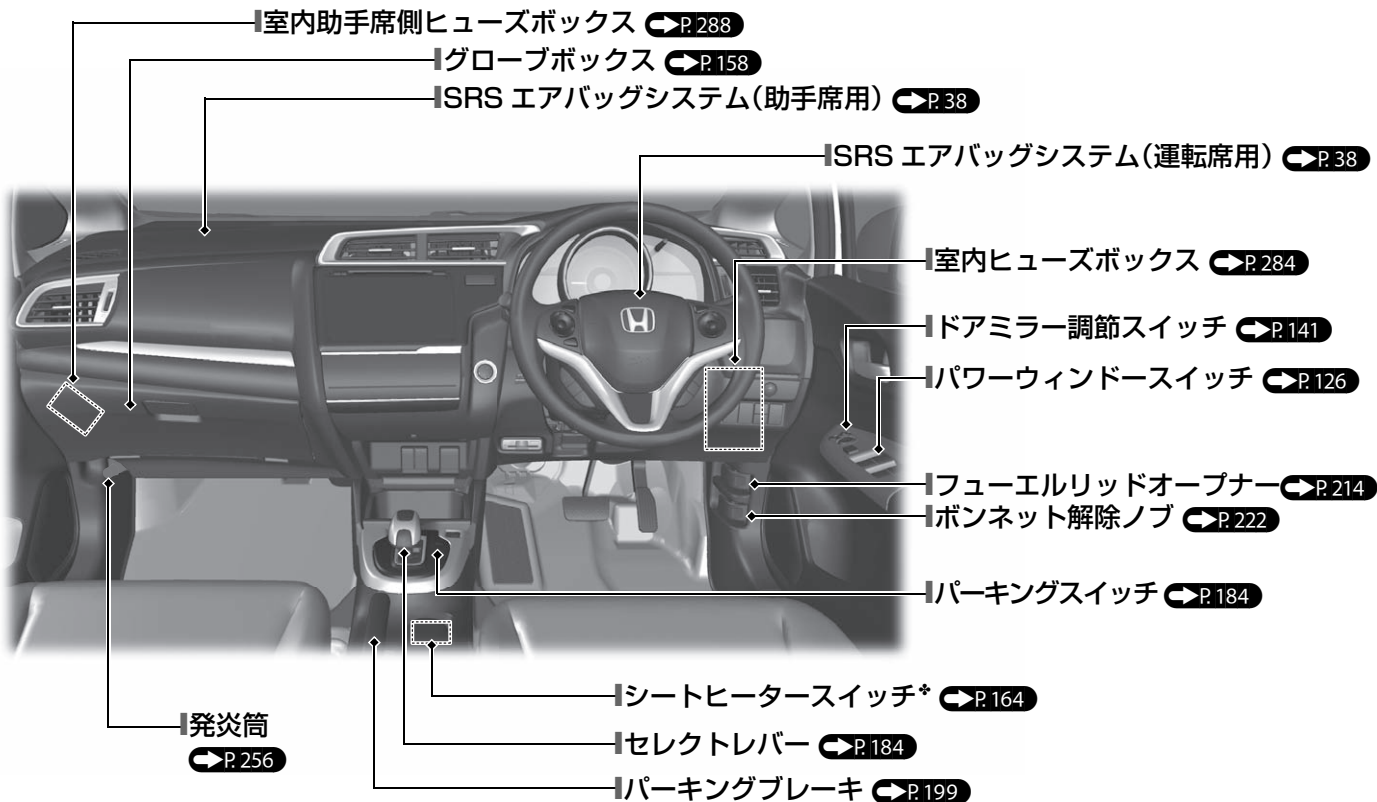
※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

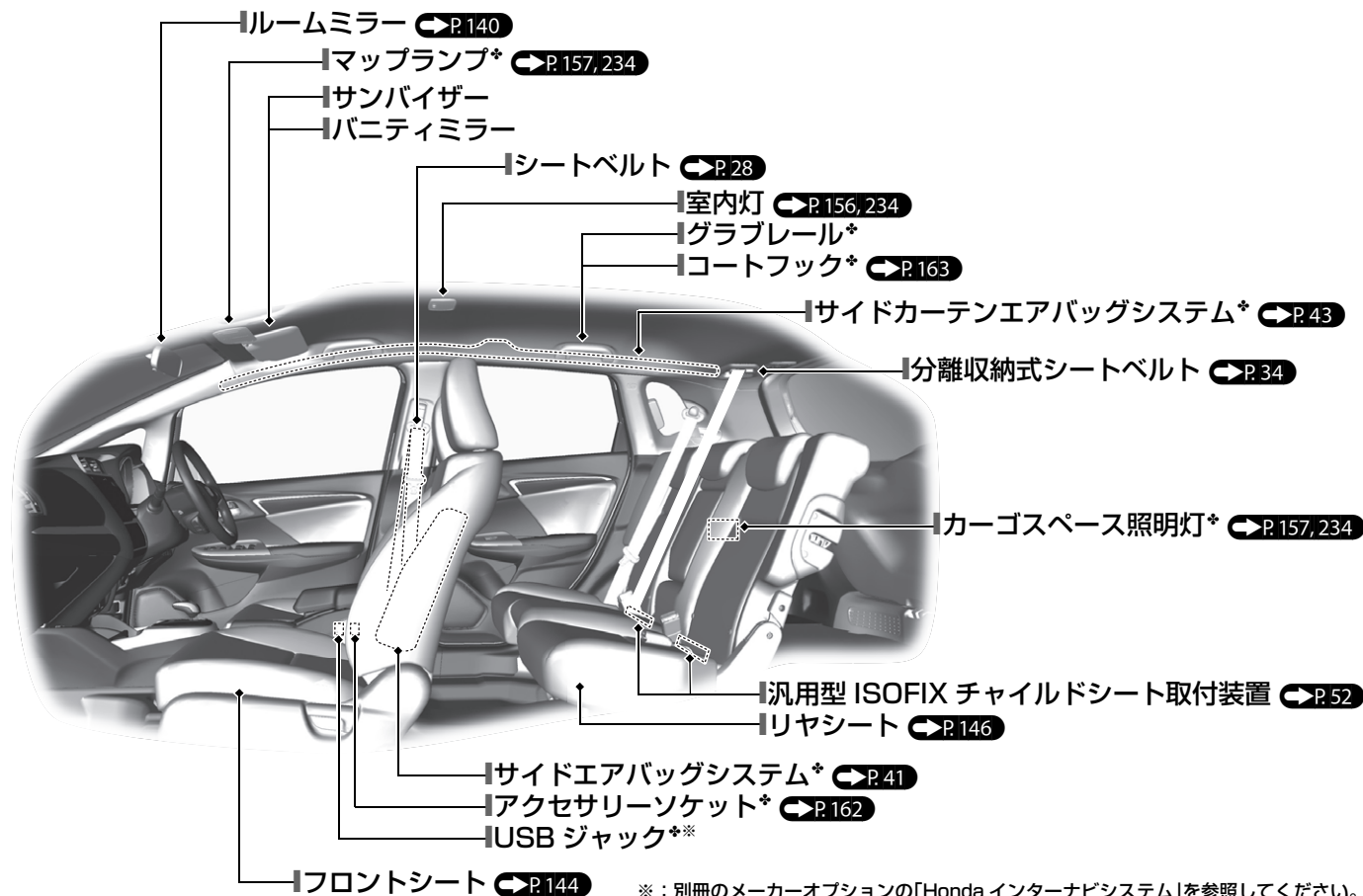


※1：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。
 ※2：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

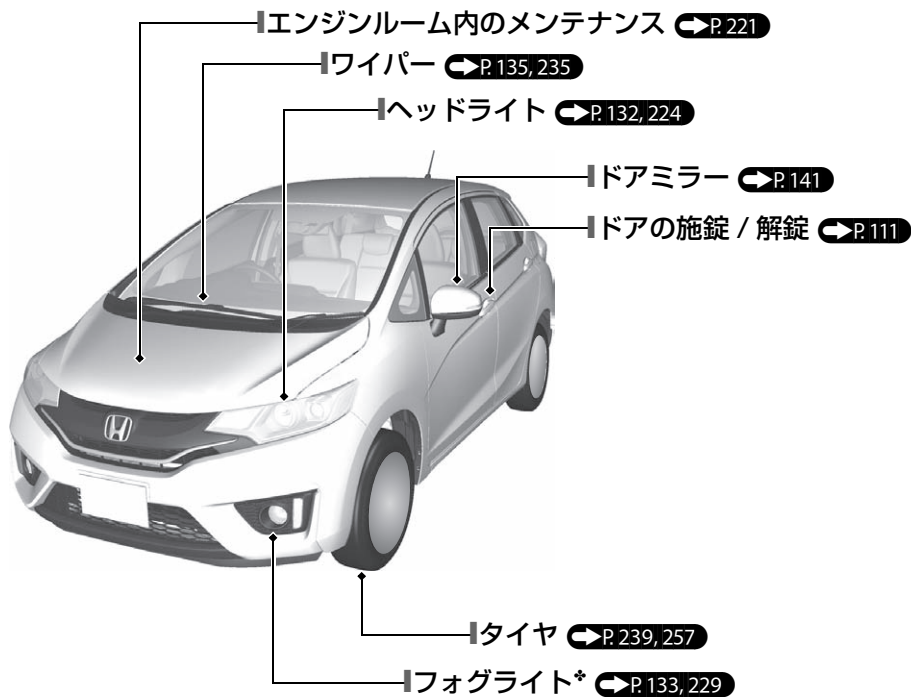
ビジュアル目次

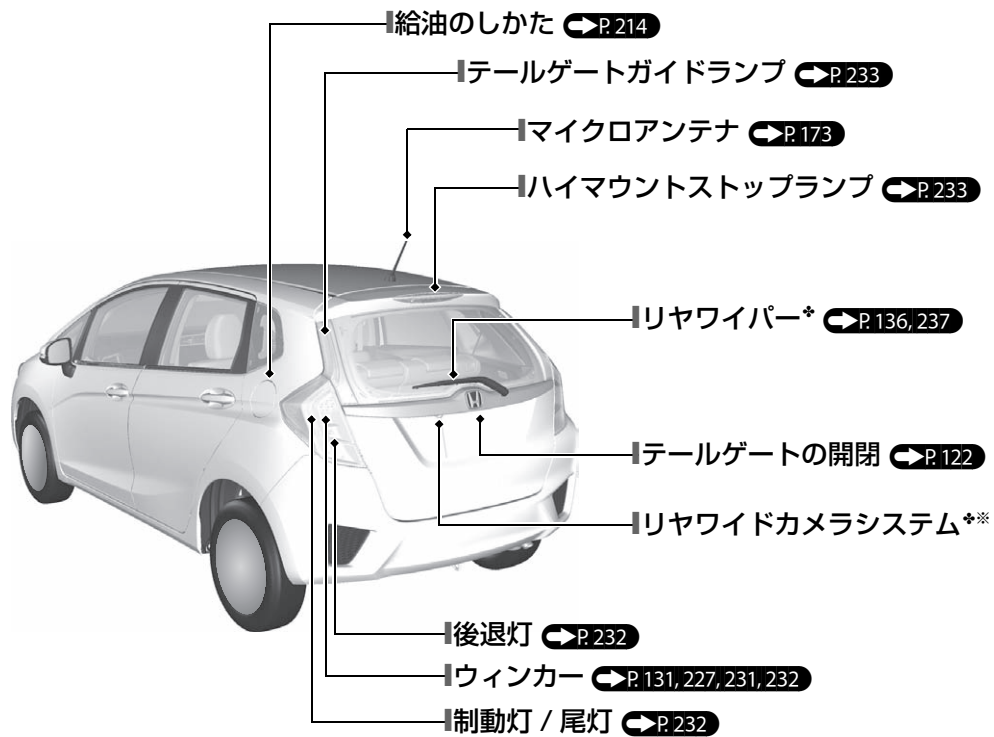




この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次





※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

エコアシストシステム

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。運転操作の状態に応じて、メーターの色が変化します。
- メーターの色
 - 緑色：省燃費状態
 - 青緑色：ゆるやかな加減速状態
 - 青色：急加減速状態
- Sモード時は、常に青色になります。ブレーキペダル、アクセルペダルの操作方法により、メーターの色が変わります。

ECON 表示灯 P.71

- ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。
- ECON スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを数秒間表示します。



ECON スイッチ P.190

- ECON スイッチを押すことで、ハイブリッドシステムやエアコンを、より省燃費運転となるように制御します。



ECO ドライブディスプレイ P.91

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

- 急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
- 円の中心に車両アイコンが維持できるように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。運転操作の状態に応じて、背景の色が変化します。



ECO スコア

- パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。

ECO スコア

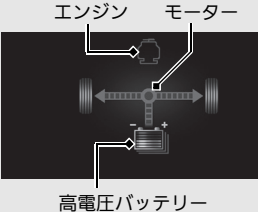
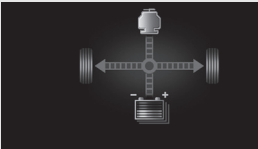
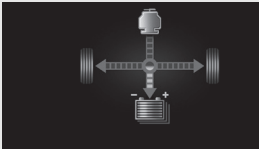
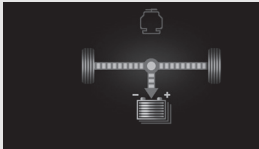


生涯得点
(ライフタイムポイント)

スポーツ ハイブリッド i-DCD (インテリジェントデュアルクラッチ ドライブ)


スポーツ ハイブリッド i-DCD は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。

▶ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 ▶ P.96

走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行(直接駆動)	回生
走行状態	発進加速・低速および中速クルーズ時 ・モーターの動力のみで走行 ・モーターだけでの走行になると、メーター内のEV表示灯が点灯します。 ▶ EV表示灯 ▶ P.70	しっかりとした加速時 ・エンジンとモーターの動力で走行	ゆるやかな加速・高速クルーズ時 ・エンジンの動力のみで走行 ・車の状態に応じて、モーターを発電機として作動させ、高電圧バッテリーに充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき ・モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター	 <p>エンジン モーター 高電圧バッテリー</p>			
モーター	作動	作動	発電	回生
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	放電	充電 / 放電	充電

省燃費運転の方法

燃費をよくするため、次の点に気をつけて走行してください。

- 不必要な急加速、急減速を避ける
- メーターに表示される燃費表示を参考に走行する 

バッテリーのタイプ

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、発電した電気を高電圧バッテリーに充電します。この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをします。

エンジンの自動停止・始動

車の状態に応じて、エンジンが自動的に停止、始動します。停車中は、エンジンが停止状態から始動することがあります。ただし、以下の状態では自動的に停止しないことがあります。

- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- オートエアコンの温度を過度に高く設定しているとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

これらの状態以外でも、外気温や車の走行状態によりエンジンが自動的に停止しない場合があります。

ハイブリッド車について

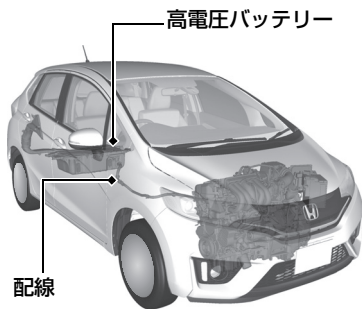
高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

ハイブリッド車特有の音について

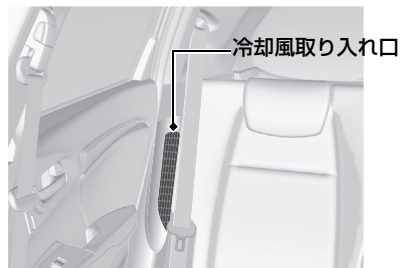
車の始動時や走行中に、次のような箇所から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

音が聞こえるとき	状況
エンジンの始動 / 停止、低速走行時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時・停車時	エネルギーを回生するために、モーター回生作動音がエンジンルーム内から聞こえます。また、低速走行でブレーキを踏んだとき、アクセルペダルを踏んでいるときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがあります。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

- ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

- ▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

- ▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

- ▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

(株)ホンダトレーディング 0120-910574(フリーダイヤル)

安全なドライブ ▶P.26

運転を始める前の確認 ▶P.27

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

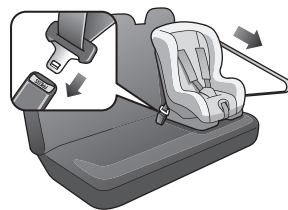
シートベルト ▶P.28

排気ガスについて ▶P.59

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動させないでください。

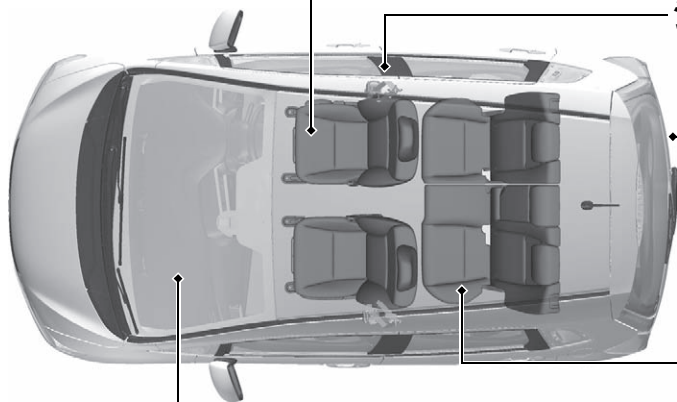
お子さまの安全 ▶P.47

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ▶P.38

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。
















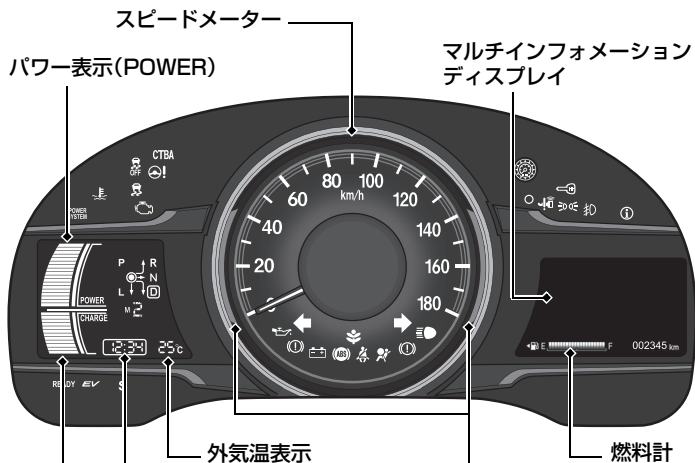
計器の見かた ➡ P.60

警告灯 ➡ P.61 表示灯 ➡ P.68 メーター ➡ P.85

マルチインフォメーションディスプレイ ➡ P.87




警告灯 / 表示灯

-  EPS システム警告灯
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯*
-  Honda スマートキーシステム警告灯
-  VSA OFF 警告灯
-  VSA 警告灯
-  インフォメーション表示灯
-  PGM-FI 警告灯
-  高水温警告灯(レッド)
-  低水温表示灯(ブルー)
-  油圧警告灯
-  12V バッテリー充電警告灯
-  ECON 表示灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)

















チャージメーター表示
(CHARGE)

ライト表示灯

-  ハイビーム表示灯
-  ライト点灯表示灯
-  フォグライト点灯表示灯*

警告灯 / 表示灯

-  方向指示器 / 非常点滅表示灯
-  エアバッグシステム警告灯
-  イモビライザーシステム表示灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  シフトポジション表示灯
(トランスミッション警告灯)
-  ABS 警告灯
-  ブレーキシステム警告灯
(オレンジ)
-  POWER SYSTEM パワーシステム警告灯
-  EV 表示灯
-   (7速シーケンシャルシフトモード)表示灯*
シフトインジケーター*
-  READY READY 表示灯
-  S S モード表示灯
-  CTBA シティブレーキアクティブシステム表示灯*

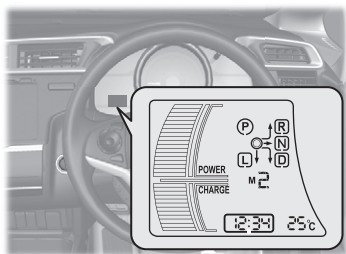
各部の操作 ▶ P.107

時刻を合わせる ▶ P.108

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

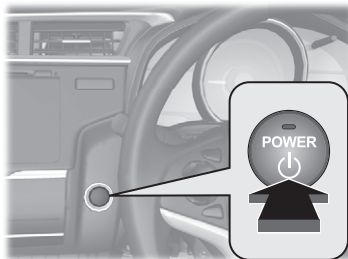
Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車



POWER スイッチ ▶ P.128

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



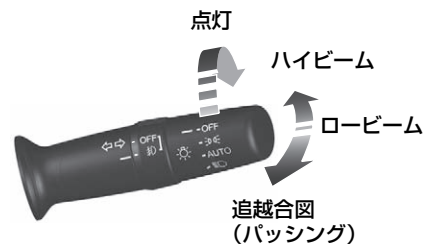
ウィンカー ▶ P.131

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト ▶ P.132

ライトスイッチ



ワイパー **➡P.135**

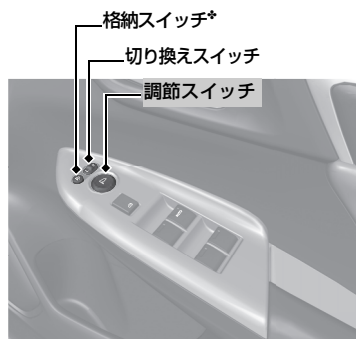
ワイパー / ウォッシャースイッチ



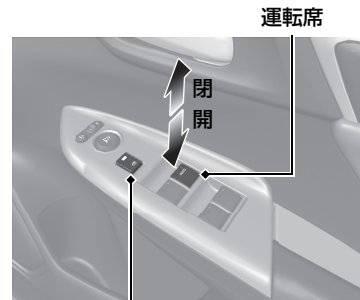
- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

ドアミラー **➡P.141**

- パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。

パワーウィンドー **➡P.126**

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



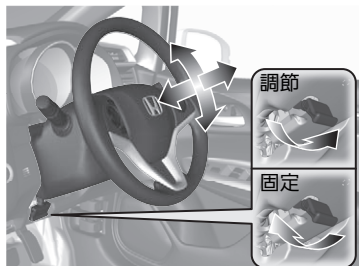
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節

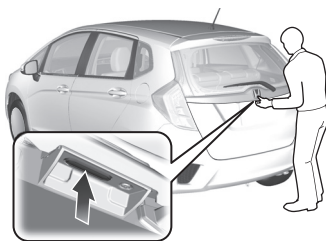
➡ P.139

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



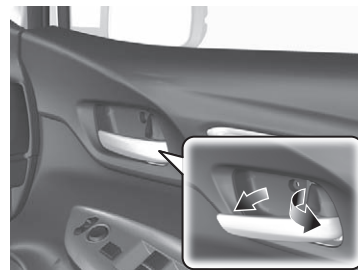
テールゲート ➡ P.122

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



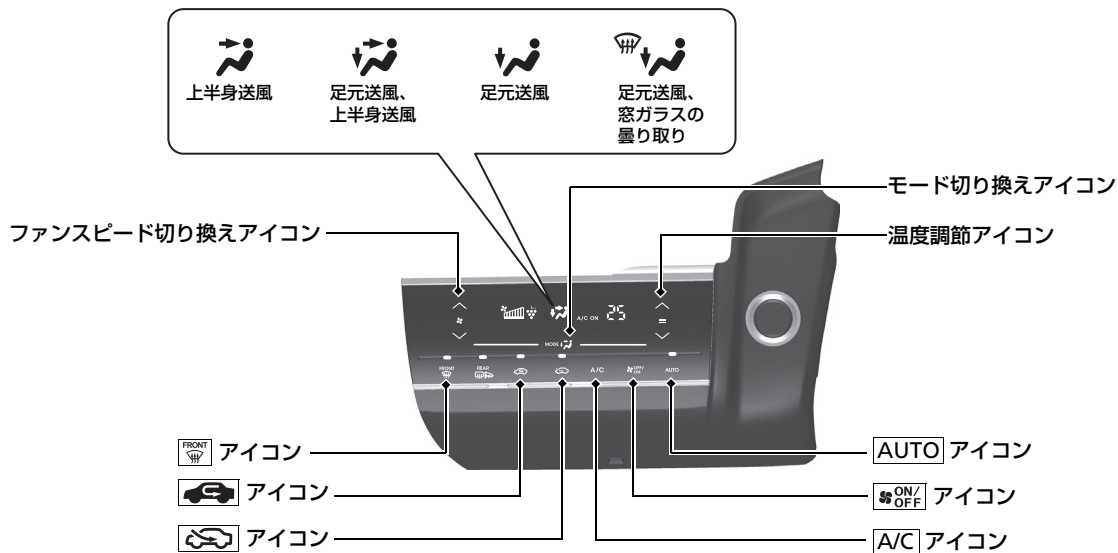
運転席ドアハンドルでの解錠

- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン P.165

- **AUTO** を押しと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押しと、エアコンの ON/OFF が切り替わります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押します。



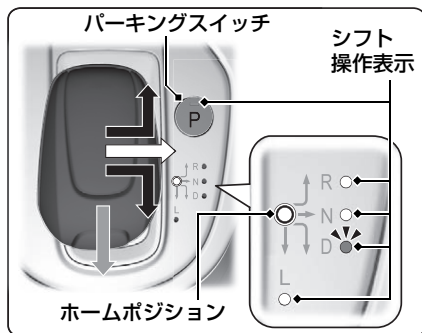
運転 ➔P.174

デュアルクラッチトランスミッション車 ➔P.184

●ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。 ➔P.177

セレクトレバー

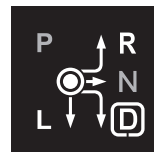
セレクトレバーの操作



READY 表示灯
点灯時は走行可能です。

READY

シフトポジション表示灯
選択されたシフトポジションは、シフト操作表示とシフトポジション表示灯に、連動して表示されます。



① (P) にするときは、パーキングスイッチを押します



② (R)、(D) にするときは、矢印の方向にセレクトレバーを操作します



③ (N) にするときは、セレクトレバーを右にスライドさせ、少しの間保持します



④ (L) は (D) のときのみ選択できます
そのため (L) にするときは (D) にしてから、矢印の方向にセレクトレバーを操作します

操作後、セレクトレバーから手を離すと◎(ホームポジション)位置へ自動的に戻ります。



① パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき



② リバース
車を後退



③ ニュートラル
駆動力が伝達されない状態



④ ドライブ
・通常走行
・7速マニュアルシフトモードにするとき*



⑤ ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき

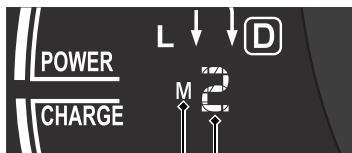
この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

シフトポジションが **D** で、S モードスイッチが OFF のとき

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

シフトポジションが **D** で、S モードスイッチが ON のとき

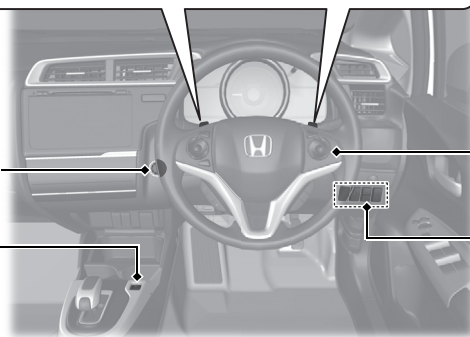
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになりません。**M** (7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

**M** 表示灯



シフトインジケーター

-シフトスイッチ
(シフトダウン)+シフトスイッチ
(シフトアップ)**POWER** スイッチ

S モードスイッチ

CRUISE スイッチ**VSA OFF** スイッチ

VSA ➡ P.196

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的にVSAはONになります。

CRUISE スイッチ*

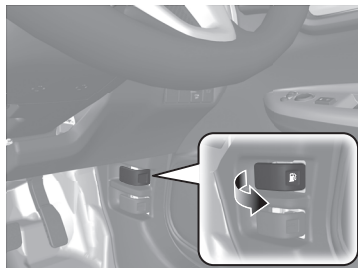
➡ P.192

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

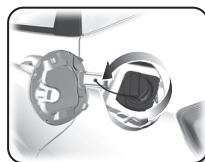
ガソリンを入れる ➡ P.214

指定燃料：	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：	2WD ドアミラーウィンカー装備車 4WD 車 40 リットル
	2WD ドアミラーウィンカー非装備車 32 リットル

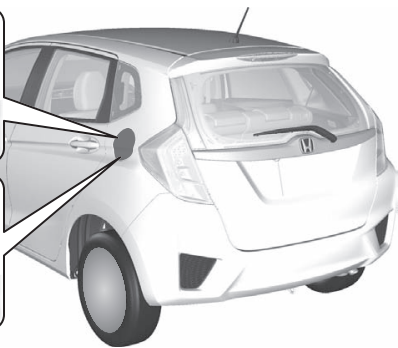
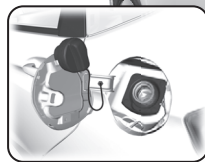
- ① フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



- ② ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- ③ キャップをホルダーにかける。



この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

メンテナンス

➡P.218



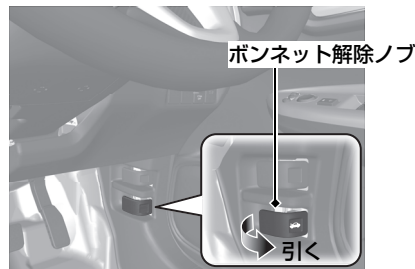
ワイパーブレード ➡P.235

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

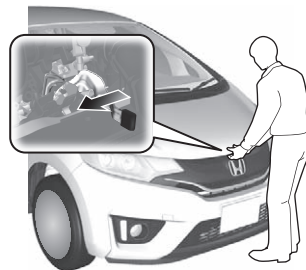
エンジンルーム ➡P.221, 223, 275

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- 12V バッテリーを点検します。

1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



2 レバーを押してボンネットを開ける。



タイヤ ➡P.239

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡P.224, 254

- ヘッドライト、フォグライト電球*、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡P.290

万一の場合には

▶P.255

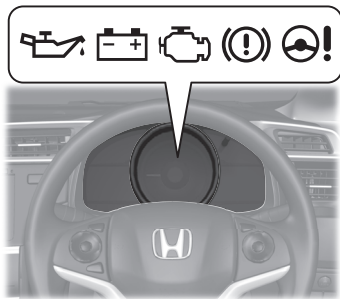
パンクした ▶P.257

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した ▶P.277

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



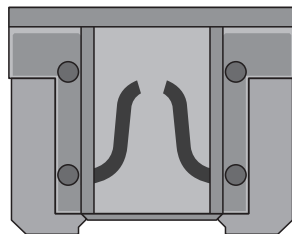
パワーシステムが起動しない ▶P.269

- 12V バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた ▶P.281

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ▶P.275

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

▶P.291

- 必ず専門業者に依頼してください。



この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

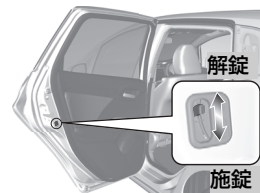
A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドブローフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブローフのつまみを解錠の位置にしてください。



Q キーレスエントリーシステムでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- パワーモードを OFF モード以外にいませんか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る

A

- 運転席および助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？


Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが **P** になって車が停止した

A

- 運転席シートベルトを着用していますか？
運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
▶ ドア Open 自動パーキング選択制御  P.186

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.26

安全なドライブのために 27 シートベルト 28 エアバッグ 38 お子さまの安全 47
排気ガスの危険性 59

計器の見かた P.60

警告灯と表示灯 61 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 85

各部の操作 P.107

時刻の設定 108 ドアロック 111 テールゲート 122 セキュリティシステム 124
ウィンドー 126 ハンドルまわりのスイッチ 128 ミラー類 140 シート 144
室内灯 / 室内装備品 156 エアコン 165

オーディオ P.172

オーディオ装置* 173

運転 P.174

運転の前に 175 運転 177 ブレーキ 199 駐停車 211
給油 214 アクセサリーと改造 217

メンテナンス P.218

メンテナンスの前に 219 エンジンルーム内 221 電球 224 ワイパー 235
タイヤ 239 Honda スマートキー 245 エアコンのお手入れ 247 清掃 249

万ーの場合には P.255

工具、発炎筒 256 パンク 257 ジャッキ 267
パワーシステムが起動しない 269 ジャンプスタート 273 オーバーヒート 275
警告灯が点灯 / 点滅した 277 ヒューズ 281 けん引 291
テールゲートが開かない 292

資料 P.293

仕様 : Hybrid 294

安全なドライブ P.26

計器の見かた P.60

各部の操作 P.107

オーディオ P.172

運転 P.174

メンテナンス P.218

万ーの場合には P.255

資料 P.293

索引 P.296

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために	27	お子さまの安全	47
シートベルト		乳幼児の安全	48
シートベルトについて	28	大きなお子さまの安全	57
シートベルトの着用	31	排気ガスの危険性	
シートベルトの点検	37	一酸化炭素について	59
エアバッグ			
エアバッグの種類	38		
SRS エアバッグ	38		
サイドエアバッグ*	41		
サイドカーテンエアバッグ*	43		
エアバッグシステム警告灯	45		
エアバッグのお手入れ	46		

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.119
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
 - ❏ フロントシート P.144
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
 - ❏ フロントシート P.144
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - ❏ シートベルトの着用 P.31
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
 - ❏ エアバッグ P.38
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - ❏ お子さまの安全 P.47
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを **P** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
 - ❏ シフト操作 P.184

❏安全のための確認事項

ドア/テールゲート開閉警告が表示されている場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア/テールゲート開閉警告」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ ドア/テールゲート開閉警告 P.76

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席および助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

※シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを[R]にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面*からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



■ シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

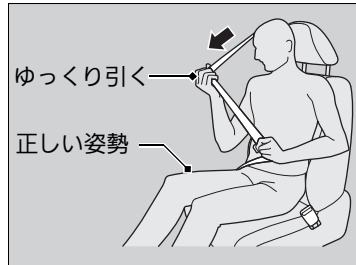
SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

■ サイドカーテンエアバッグ装備車

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

☒ シートベルトの着用

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

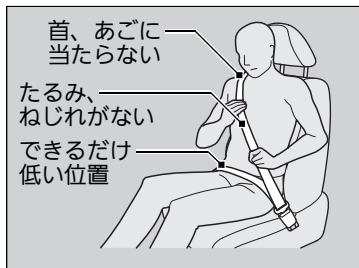
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

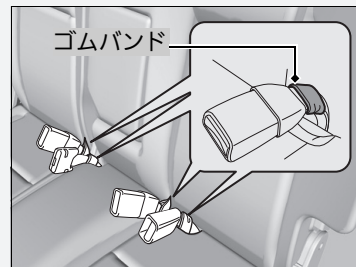


4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 - ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 - ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 - ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

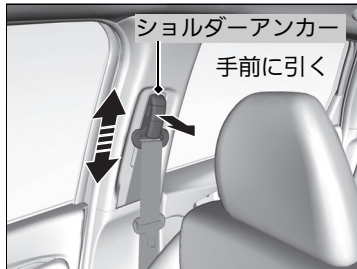
※シートベルトの着用

リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。

シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

※ ショルダーアンカーの高さ調節



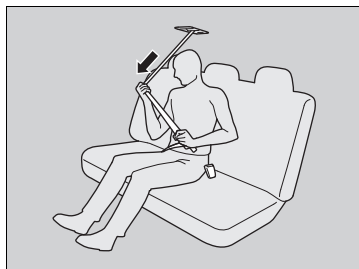
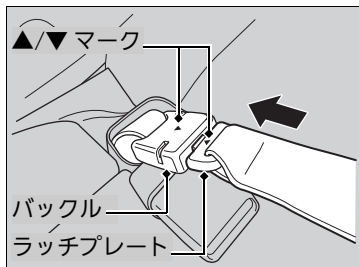
注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。

2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。

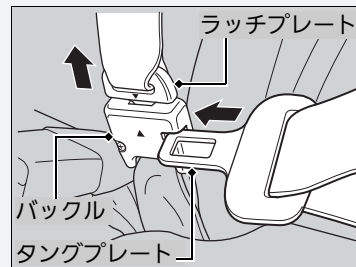
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。

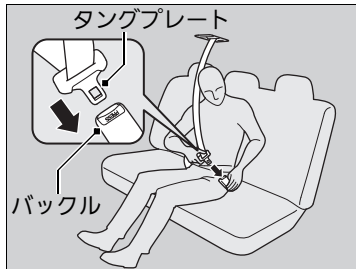
3. 正しい姿勢でシートにすわる。

4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

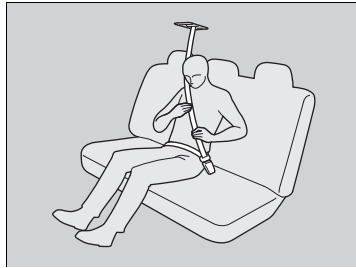
☒分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。





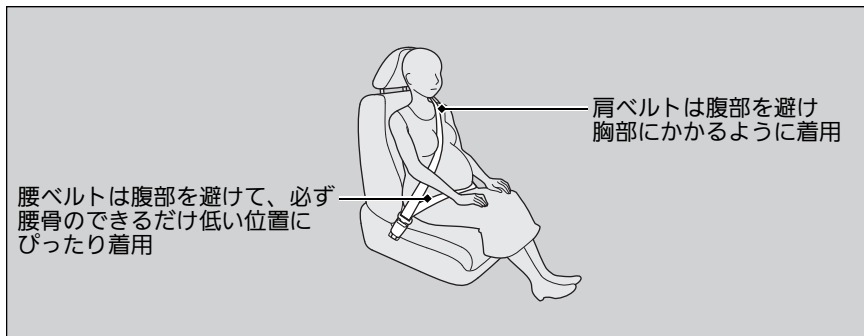
5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかると合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



※ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

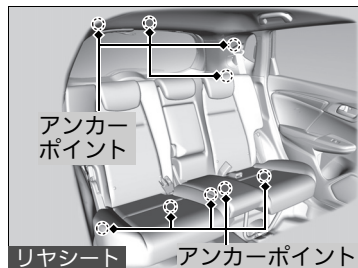
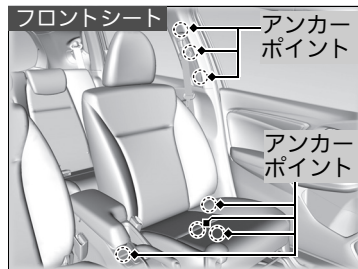
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ***：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ***：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※エアバッグの種類



警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。



注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

⚠ SRS エアバッグの作動

⚠ 警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

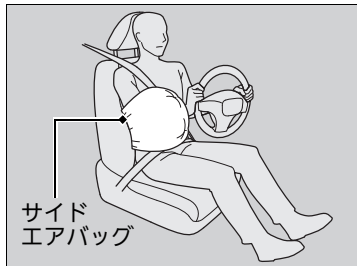
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

※サイドエアバッグ*

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのもので飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がありません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※サイドエアバッグ*



注意

**ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要
以上に近づけない。
リヤシート同乗者は、フロントシートの背
もたれを抱えない。**

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

**エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞う
ことがあります。**

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

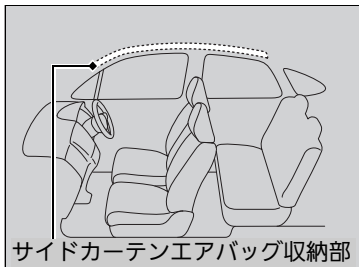
**サイドエアバッグがシートカバーによって
は、正常に機能できなくなります。**

フロントシートのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所



サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

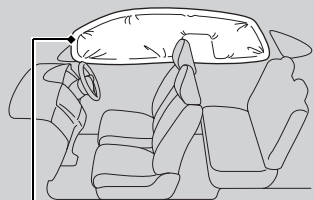
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

▶ 作動条件 P.42

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

※サイドカーテンエアバッグ*



注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯、マルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■ **パワーモードを ON モードにしたとき**
 パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■ 異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

⚠ エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。
 エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

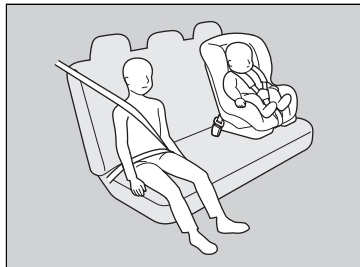
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができず危険です。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓から手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが窓から手や顔、物などを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❖ お子さまの安全を守るために



警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。



警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

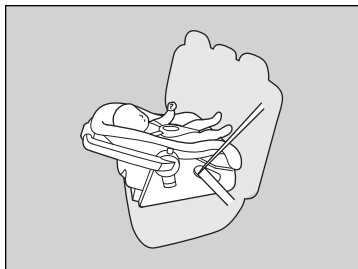
お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置してください。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

※ 乳児のチャイルドシート



後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

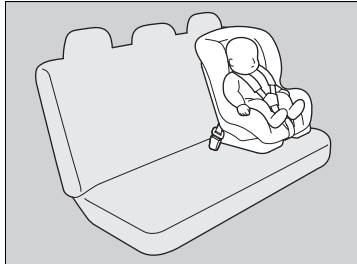
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

ⓧ幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること

☞ 選択の目安 P.51

- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

☞チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。

次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置			
	前席 助手席	後席 外側席	中央席	
			リヤセンターヘッドレスト装備車	リヤセンターヘッドレスト非装備車
グループ0 ～ 10kg	X	U	U	X
グループ0+ ～ 13kg	X	U	U	X
グループI 9kg～18kg	UF*	U	U	X
グループII 15kg～25kg	UF*	U	U	X
グループIII 22kg～36kg	UF*	U	U	X

記号の説明

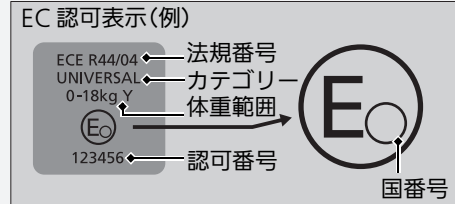
- U : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
- UF : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- X : チャイルドシートを取り付けできません。
- ※ : シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

※シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用)と案内されているものもあります。



汎用型 ISOFIX チャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシート外側 2 座席には、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。次ページの表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■ 選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	座席位置		
			前席 助手席	後席	
				外側席	中央席
キャリコット グループ 0	F	ISO/L1	—	X	—
	G	ISO/L2	—	X	—
グループ 0 + ~ 10kg	E	ISO/R1	—	IL	—
	E	ISO/R1	—	IL	—
グループ 0 + ~ 13kg	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
グループ I 9kg ~ 18kg	B	ISO/F2	—	IUF	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF	—
	A	ISO/F3	—	IUF	—
	A	ISO/F3	—	IUF	—
グループ II 15kg ~ 25kg	—	—	—	X	—
グループ III 22kg ~ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IL : Honda ISOFIX Neo チャイルドシートが取り付け可能です。

IUF : 汎用型(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X : ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

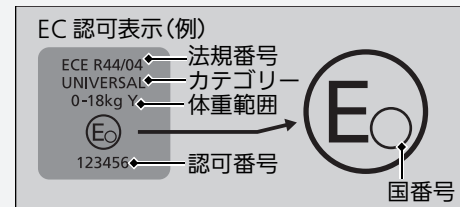
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さま の大きさ	使用の 向き	形状、 大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

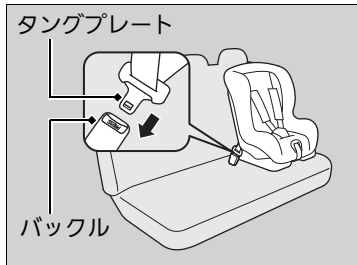
IL は UN-ECE R44 に適合した、Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを取り付けることができます。

ご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX (汎用) と案内があります。



■シートベルトでの取り付け



1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
❏ 背もたれの調節* P.146
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タンクプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

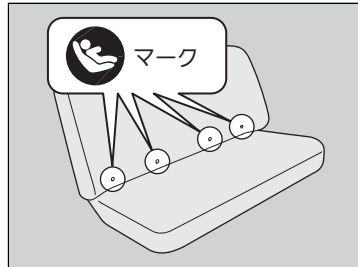
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。

2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

☒ 背もたれの調節* P.146

3. ノブを押しながら、ヘッドレストを一番下まで下げる。

4. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

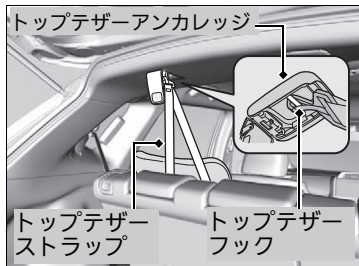
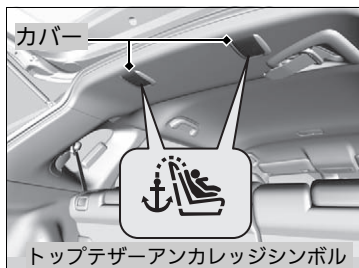
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

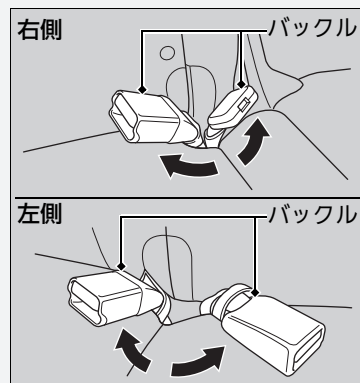
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



5. カバーを開ける。
6. トッテザーフックをトッテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。
▶ このときトッテザーストラップがねじれないように注意してください。
7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

チャイルドシートを取り付けるときは、シートベルトのバックルを図のように動かしてください。



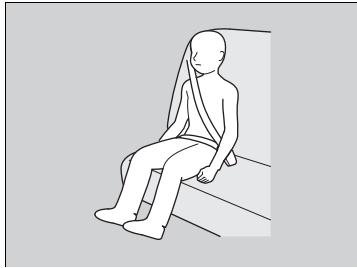
注意

トッテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トッテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

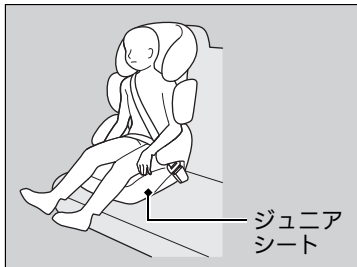
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ ジュニアシートについて



ジュニアシート

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

⚠️ 大きなお子さまの安全



お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

⚠️ ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

☒一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 61

表示灯 68





マルチインフォメーションディスプレイ
のメッセージ 74

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ







メーター 85





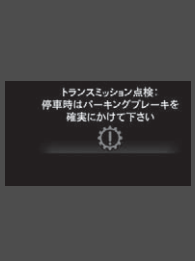
マルチインフォメーションディスプレイ 87


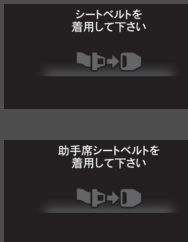




警告灯


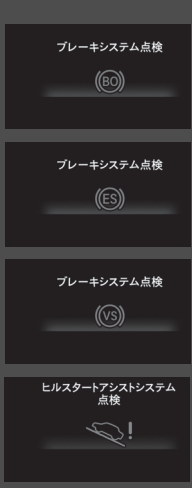

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☒ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.279 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。 	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>






計器の見かた








警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	油圧警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 油圧警告灯が点灯した P.277 	
	PGM-FI 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上パワーモードを OFF モードにして冷えるのをお待ちください。 PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.278 	
	12Vバッテリー充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 12Vバッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.277 	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 全てのシフトポジションが点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。 異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。 	
		<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に車を停車してください。 ☑ 非常時のけん引 P.291 Honda 販売店で点検を受けてください。 	
		<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ☑ トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した P.280 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	






警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 パワーモードを ON モードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ▶ シートベルトリマインダー P.29 	
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 ABS が異常のときに点灯 	点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.201	
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 下記の異常を検出すると点灯 <ul style="list-style-type: none"> エアバッグシステムの異常 プリテンショナーシステムの異常 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	

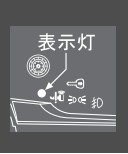

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキに関するシステムが異常のときに点灯 • 電動サーボシステム、またはヒルスタートアシストシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 	
		<ul style="list-style-type: none"> • シティブレーキアクティブシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • シティブレーキアクティブシステム表示灯と同時に点灯したときは、シティブレーキアクティブシステムが故障して作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ シティブレーキアクティブシステム* P.204 	





警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.196 	
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.196 	—
	Honda スマートキーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した 	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPS(電動パワーステアリング)システムの機能に異常があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.279 	
	高水温警告灯(レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 • 走行中に点滅＝ゆっくり走行してください。 • 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 ☑ オーバーヒート P.275 	 
	パワーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	


表示灯



表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 電球の交換 P.227, 231, 232 	—
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトを上向きにしたときに点灯 	—	—
	ライト点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ライトスイッチがOFF以外のときに点灯(AUTO*のときは車幅灯点灯時に点灯) 	<ul style="list-style-type: none"> ライトを点灯したままパワーモードをOFFモードにしているとき、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。 	—
	フォグライト点灯表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> フォグライトを点灯させると点灯 	—	—
	低水温表示灯 (ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が低いときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 	<p>■ セキュリティアラームシステム*</p> <p>P.124</p>	—
	イモビライザーシステム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 一瞬の点灯は異常ではありません。 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション(❗)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 点灯しているときにインフォメーション(❗)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。 	—
	EV 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 モーターだけでの走行になると点灯します 	—	
	READY 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステム起動後、走行が可能な状態のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッション警告灯が点灯すると消灯します。 ▶ パワーシステムの起動 P.177 	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	S モード表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーモードが ON モードのとき、S モードスイッチを押すと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ S モードスイッチ P.190 	—
	ECON 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ECON スイッチ P.190 	
	シフトポジション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードが ON モードのときに表示 • 現在のポジションで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シフト操作 P.184 	—
	シフトインジケーター*	<ul style="list-style-type: none"> • 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示 • シフト操作しても変速しないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シフト操作 P.184 	—
	[M] (7 速マニュアルシフトモード) 表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> • 7 速マニュアルシフトモードのときに S モードスイッチを押すと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シフト操作 P.184 	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
CTBA	シティブレーキアクティブシステム表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯した後、消灯 	—	—
		<ul style="list-style-type: none"> • カスタマイズでシステムを停止すると点灯 • カスタマイズでシステムを作動状態にすると消灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シティブレーキアクティブシステム* P.204 ▶ カスタマイズのしかた P.99 	—
		<ul style="list-style-type: none"> • フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 • 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中はウォッシュャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してレーザーセンサー付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 ▶ シティブレーキアクティブシステム* P.204 • 遮蔽物が取り除かれるとシステムは復帰します。 	
		<ul style="list-style-type: none"> • レーザーセンサー付近のガラス内側が曇ると点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> • デフロスターを使用して曇りを取ってください。 ▶ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた P.168 	
		<ul style="list-style-type: none"> • ボンネットに雪などが積もっているときに点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全な場所に停車してボンネット上の雪などを取り除いてください。 	


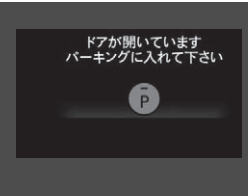


表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
CTBA	シティブレーキアクティブシステム表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなると点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてフロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度を下げてください。 温度が下るとシステムは復帰します。 	
		<ul style="list-style-type: none"> システムに異常があるとブレーキシステム警告灯(オレンジ)と共に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> システムは作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。 	








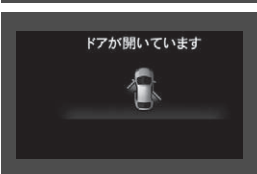

計器の見かた

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。




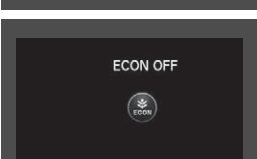
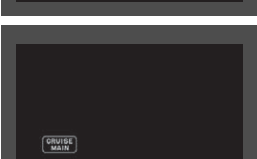
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>外気温低下注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3℃以下になると 1 回のみ表示 	—
 <p>ドアが開いています パーキングに入れて下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドア Open 自動パーキング選択制御機能が作動し [P] になった後、シフト操作を行い他のシフトポジションが選択されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> 運転席を離れるときは、パーキングスイッチを押してください。
 <p>走行前にシートベルトを 着用して下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示 ドアオープン自動パーキング選択制御により自動で [P] になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転するときには、シートベルトを正しく着用してください。 <p>☑ 自動パーキング選択制御 P.186</p>
 <p>冷却システム点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの冷却システムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。




メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>スターティングシステム点検</p> 	<ul style="list-style-type: none"> スターターシステムが異常のときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだまま、POWER をパワーシステムが起動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>給油して下さい</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料の残量が少なくなると表示 表示するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたときは、早めに給油してください。 燃料計の燃料残量警告が表示されます。  燃料計 P.90
 <p>燃料センサ点検</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料計に異常があるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 <p>ドアが開いています</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ドアが完全に閉まっていないときに表示 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間はメッセージが表示 	<ul style="list-style-type: none"> ドアを完全に閉めると、表示が消えます。


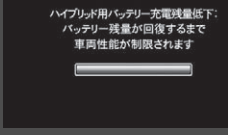
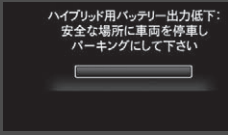
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • テールゲートが完全に閉まっていないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • テールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	<ul style="list-style-type: none"> • ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	<ul style="list-style-type: none"> • 車両接近通報システムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ☑ Honda スマートキー持ち去り警告 P.130
	<ul style="list-style-type: none"> • Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ☑ 電池交換のしかた P.245

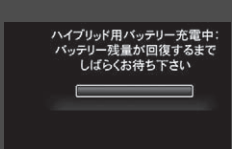

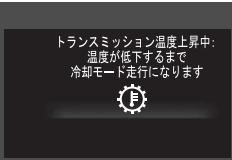

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 <p>オートライトシステム点検</p>	<p>オートライト 装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> オートライトコントロールシステムに異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ ライトスイッチ P.132
 <p>ヘッドライト点検</p>	<p>オートライト 装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
 <p>車両設定は停車してパーキングに入れて行って下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示 シフトポジションが P 以外のとき 	<p>☑ カスタマイズのしかた P.99</p>
 <p>ECON OFF</p>	<ul style="list-style-type: none"> ECON スイッチを押して、ECON モードをOFFにすると表示 	<p>☑ ECON スイッチ P.190</p>
 <p>CRUISE MAINT</p>	<ul style="list-style-type: none"> クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると表示 	<p>☑ クルーズコントロール* P.192</p>



❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

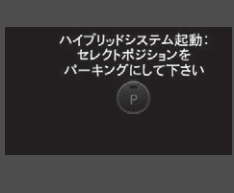

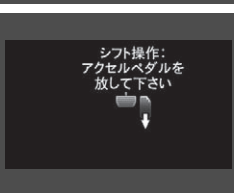

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> クルーズコントロールで自動定速走行しているときに表示 	<p>☑ クルーズコントロール* P.192</p>
	<p>メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> ルート案内の際に、交差点案内表示が表示 	<p>☑ Honda インターナビシステム</p>
<p>スイッチを2回押して 電源をOFFして下さい</p> 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリモードのときに運転席のドアを開けると表示 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏まずに POWER を2回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 <p>☑ POWER スイッチ P.128</p>
<p>ハイブリッドシステム起動: ブレーキを踏み スイッチを押す</p> 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに表示 	<p>☑ パワーシステムの起動 P.177</p>
<p>キーでスイッチに 触れて下さい</p> 	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にいないときに、警告音と同時に表示 	<p>☑ Honda スマートキーの微弱電波 P.113</p> <p>☑ POWER スイッチ P.128</p> <p>☑ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.271</p>

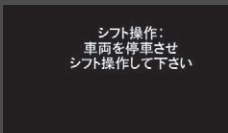
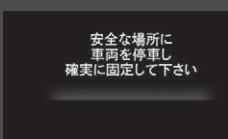
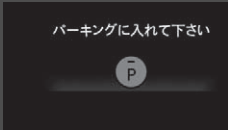
メッセージ	表示される状況	アドバイス
<p>アクセサリモードです</p> 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードがアクセサリモードのときに表示 	<p>—</p>
<p>外気温が低いために 起動できません 暖気が完了するまで お待ち下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき（- 30℃以下） 	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 アクセルを踏んでもエンジン回転数はあがりません。 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。
<p>バッテリー 充電量低下のため 運転を継続して下さい</p> 	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON にしたとき、高電圧バッテリーの充電が必要なため、継続して走行が必要なとき 	<ul style="list-style-type: none"> 運転を継続してください。必要ならメッセージが消えるまでアイドリングしてください。
<p>外気温が低いために 起動できません</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき（- 40℃以下） 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリー温度が上がるまでお待ちください。または温度の高い所へ移動してください。 必要に応じてHONDA販売店に相談してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<ul style="list-style-type: none"> 継続した低速走行により発電量が低下し、高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき 	<ul style="list-style-type: none"> 車速を上げることやブレーキを踏んで停車することで、高電圧バッテリーの残量低下を抑えることができます。
	<ul style="list-style-type: none"> さらに高電圧バッテリーの容量が低下し、充電するために停車が必要になったとき 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車し、シフトポジションを P にして、アイドルリング状態で高電圧バッテリーを充電します。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの容量が少ないため、停車後、アイドリングによる充電中のとき 	<ul style="list-style-type: none"> READY 表示灯が点灯するまで車を発進させないでください。  READY 表示灯 P.70
	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの温度が上がり、温度を下げる走行になったとき 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくく感じる場合がありますが、そのまま走行してください。 トランスミッションの温度が低下するとメッセージが消えます。
	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないとき 	<ul style="list-style-type: none"> 加速しにくくなる場合や、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 ただちに安全な場所に車を停車してください。 メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。 メッセージ消灯後はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 減速などして十分な車間距離を確保してください。車間距離が確保されると警報は消えます。 衝突のおそれがあると、自動でブレーキがかかります。 <p>☑ シティブレーキアクティブシステム* P.204</p>
<p>シティブレーキアクティブシステムが作動しました</p> 	<ul style="list-style-type: none"> システムにより車両が停止したときは、ブザーが鳴り止みメッセージが変わります 	

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • パワーシステムを起動するときに P 以外のシフトポジションが選択されているとき 	<ul style="list-style-type: none"> • パーキングスイッチを押してください。
	<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
	<ul style="list-style-type: none"> • アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> • アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
	<ul style="list-style-type: none"> • D 以外が選択されているときに、L のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> • D を選択してから L を選択します。 ☑ セレクトレバーの操作 P.185

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	<ul style="list-style-type: none"> • 停車させずにパーキングスイッチを押したとき。 • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したとき 	<ul style="list-style-type: none"> • セレクトレバーを操作する時は、はじめに停車させてください。
	<ul style="list-style-type: none"> • 電気系統に失陥の可能性がある则表示 • 走行中にパワーモードを OFF にすると表示 	<ul style="list-style-type: none"> • ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 トランスミッション警告灯 P.63
	<ul style="list-style-type: none"> • 停車後にシフトポジションを N にし、5 秒以内に POWER スイッチを押したとき • 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> • シフトポジションは N で保持されますが、保持制御開始直後に POWER スイッチを押すか約 15 分経過すると自動的に P になります。 アクセサリモード時の N ポジション保持制御 P.186 • 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足を離す前に P スイッチを押してください。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモード が ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■パワー表示(POWER)

車両出力の状態を表示します。

■チャージメーター表示(CHARGE)

高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。

☒パワー表示(POWER)

モーターアシストの状態は、パワーフローとして、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

☒ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P.96

☒チャージメーター表示(CHARGE)

高電圧バッテリーの残量は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

☒ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P.96

時計

時刻を表示します。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

▶ 時計の設定 P.108

外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

▶ カスタマイズ機能 P.98

▶▶ 時計

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」をご覧ください。

▶▶ 外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

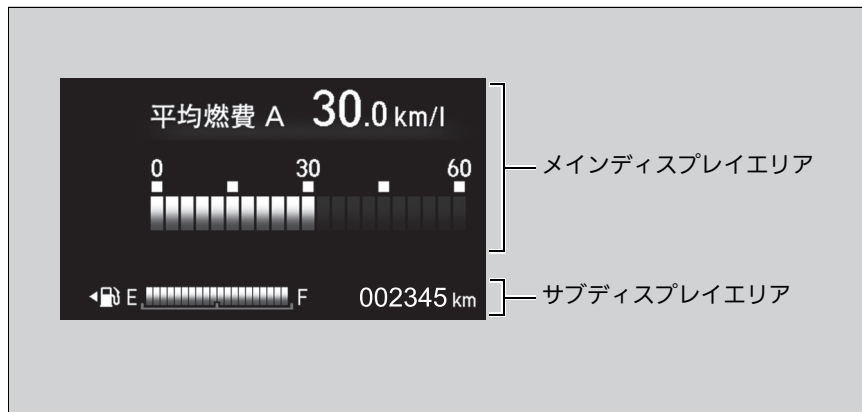
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合、外気温低下メッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、燃料計、高電圧バッテリー残量、燃費情報などが表示されます。また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

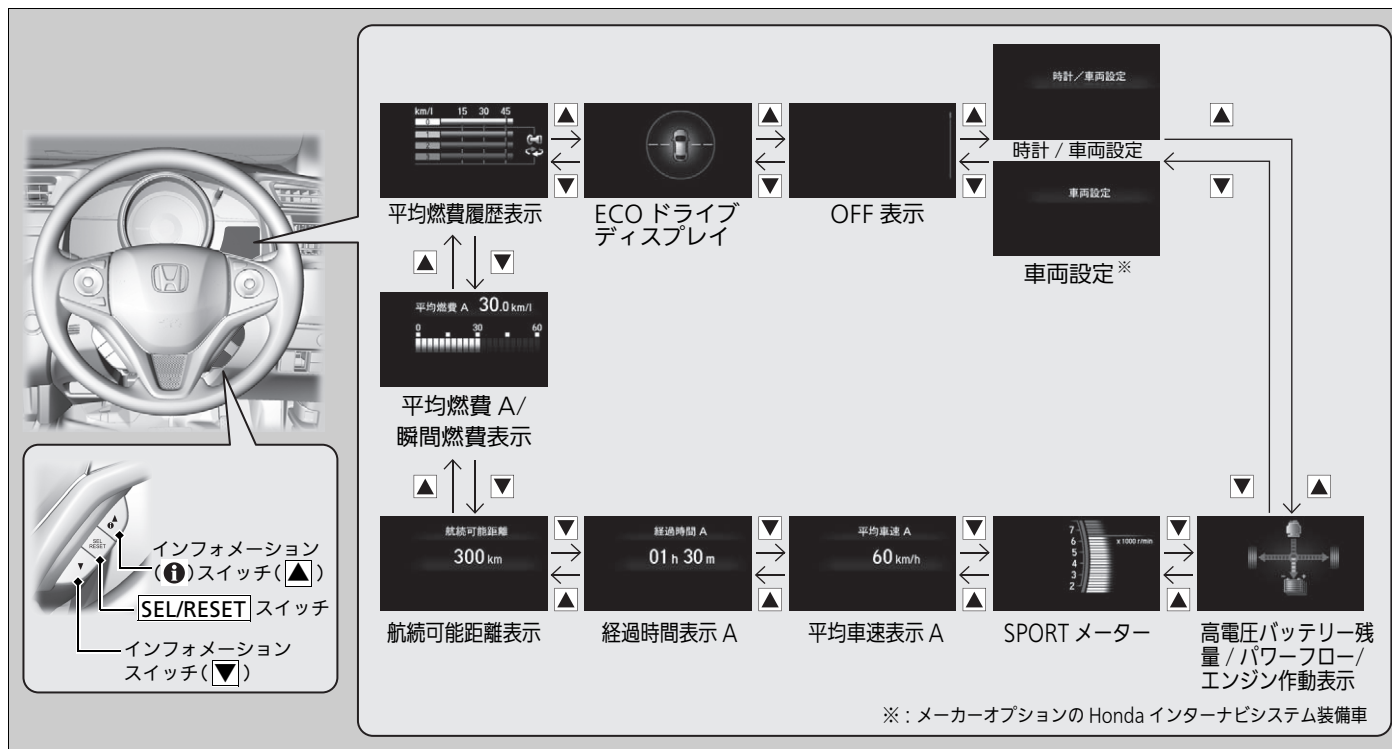


表示の切り換えかた

メインディスプレイエリア

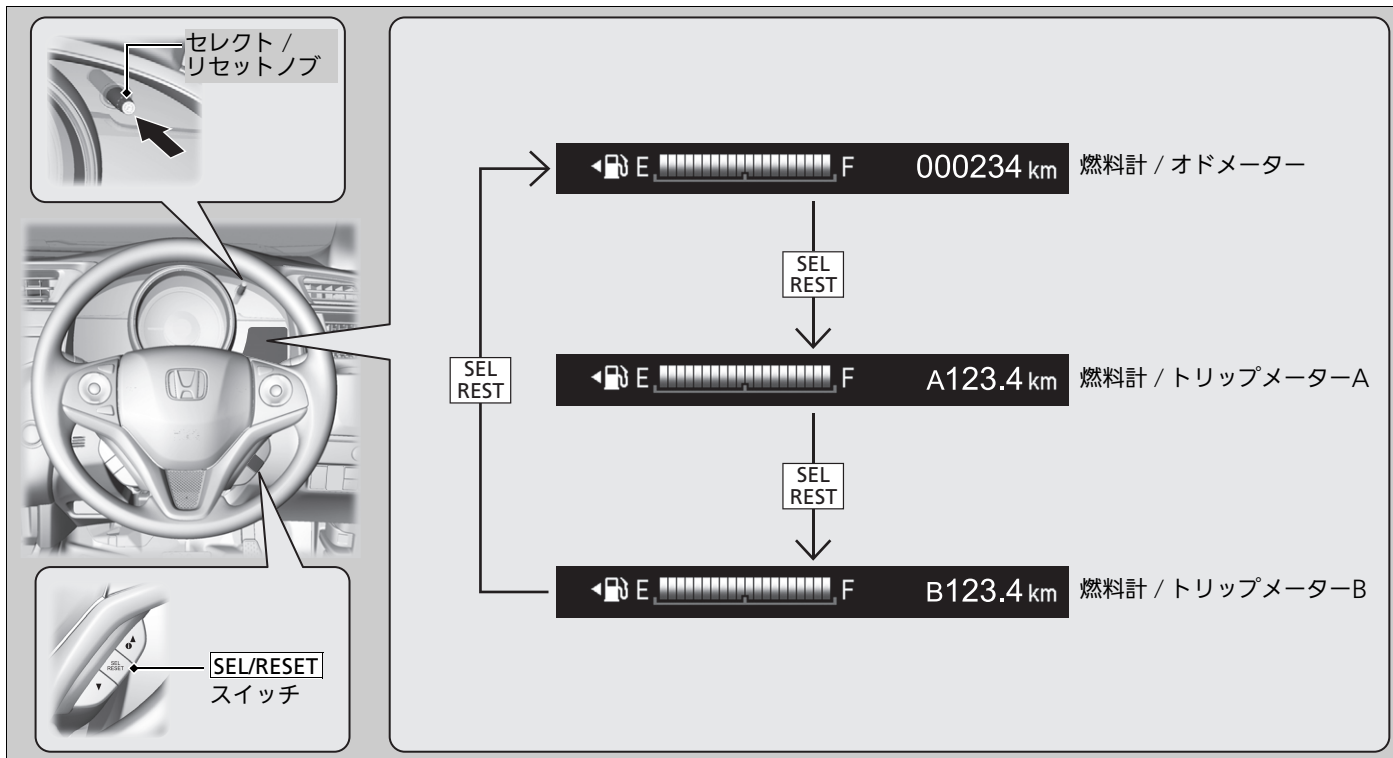
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を操作するごとに、表示が下記のように切り換わります。

計器の
見かた



サブディスプレイエリア

SEL/RESET または、セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



計器の見かた

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、**SEL/RESET** を押し続けてください。
トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。



■ 燃料残量警告

燃料の残量が少なくなると表示がオレンジ色になります。表示がオレンジ色になったら早めに給油してください。

燃料計に異常があるときは、燃料残量警告アイコンが点滅します。

▶ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.75

▶ トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

▶ 燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

ECO ドライブディスプレイ / ECO スコア

■ ECO ドライブディスプレイ

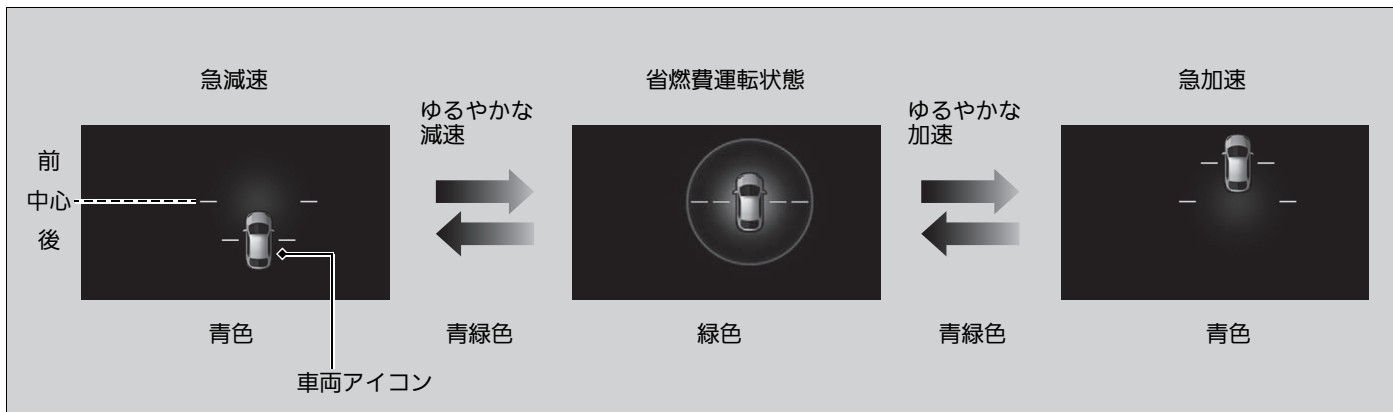
運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。

急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。

▶ ECO ドライブディスプレイ

ECO ドライブディスプレイの表示は、アンビエントメーターの色と連動しています。



運転操作の状態に応じて車両アイコンの周囲の色が変化します。

緑色：省燃費状態

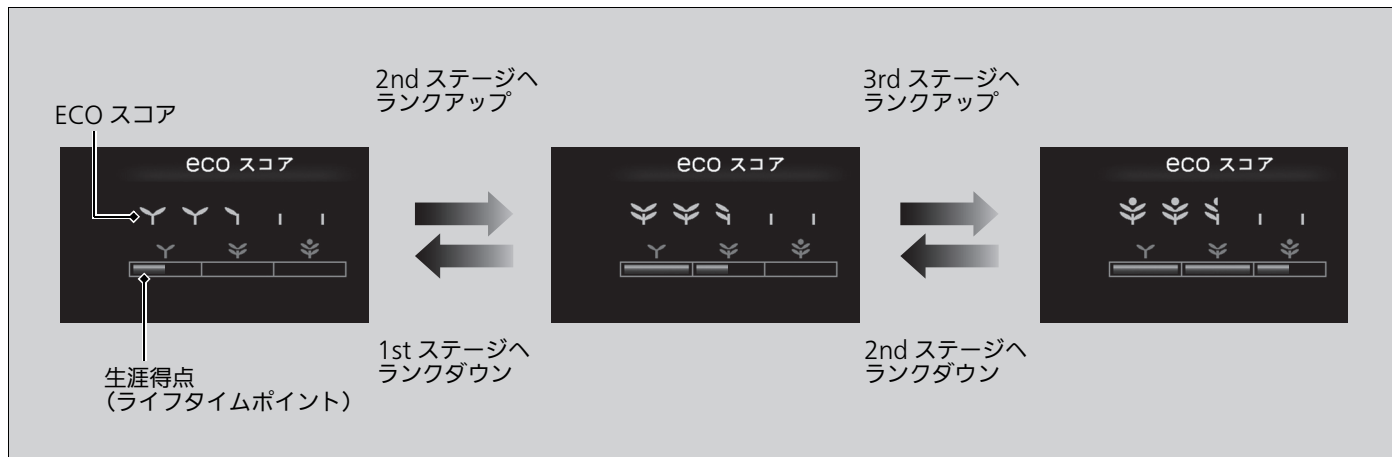
青緑色：緩やかな加減速状態

青色：急加減速状態

■ECO スコア

パワーモードを OFF にすると、数秒表示されます。

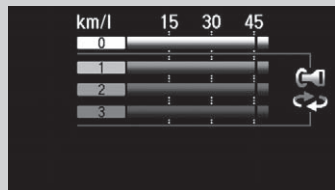
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



■ECO スコアのリセット

1. シフトポジションが **P** であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
 - ▶ 手順 4～6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
 - ▶ アンビエントメーターがブルーからグリーンに変わります。
 - ▶ カスタマイズ設定で「メーター背景色変化」を OFF に設定しているときは、ブルーのまま変化しません。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
 - ▶ アンビエントメーターがグリーンから消灯に変わります。
7. パワーモードを OFF モードにする。

平均燃費履歴表示



走行時の平均燃費履歴を過去3回分表示します。

パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

⊠平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を 給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

⊠ **カスタマイズ機能** P.98

⊠航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

車両停止状態でも EV 航続可能距離が変動する場合があります。

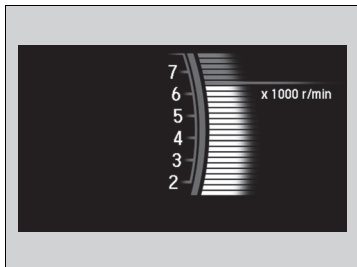
経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれのトリップメーターをリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

SPORT メーター



1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

S モードスイッチを押すと表示されます。

▶ **S モードスイッチ** P.190

また、インフォメーション(ⓘ)スイッチ (▲/▼) を操作して、表示させることができます。

▶ **表示の切り換えかた** P.88

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ **カスタマイズ機能** P.98

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ **カスタマイズ機能** P.98

SPORT メーター

シフトポジションが[R] のとき、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

■高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。

計器の見た

高電圧バッテリー残量表示

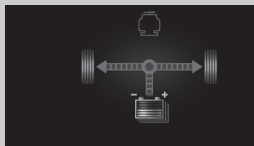
パワーフロー表示

エンジン作動表示



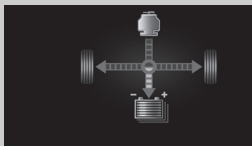
ハイブリッド走行

エンジン作動と
モーターアシスト



EV 走行

モーターのみ作動



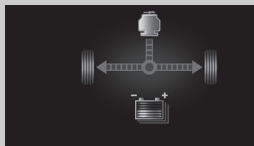
エンジン走行

エンジン作動し
高電圧バッテリーへ
充電中

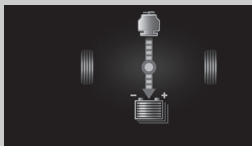


回生

高電圧バッテリーへ
充電中



エンジンのみ作動



エンジン作動し
高電圧バッテリーへ
充電中



作動中



停止中

☒高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

☒ **パワー表示(POWER)** P.85

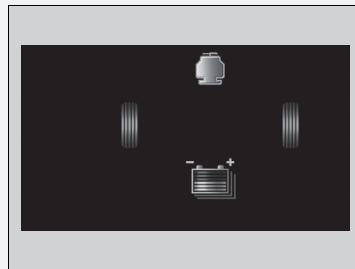
☒ **チャージメーター表示(CHARGE)** P.85

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

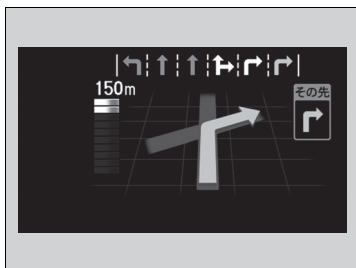
走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

交差点案内表示



ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

▶ Honda インターナビシステム

交差点案内表示

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

▶ カスタマイズ機能 P.98

■ カスタマイズ機能

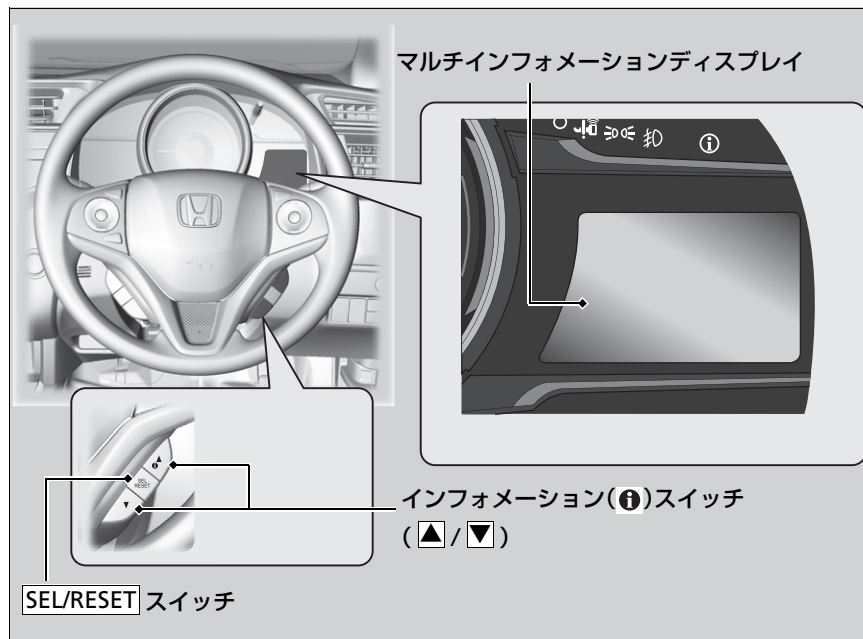
マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容	
時計設定*	時刻調整	時間(00～23)、分(00～59)
	時計表示	24h、12h [※] 、非表示
運転支援システム設定*	シティブレーキアクティブシステム	作動 [※] 、非作動
メーター設定	外気温表示補正	-3℃～±0℃ [※] ～+3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ [※]
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ [※]
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON [※] 、OFF
	交差点案内表示*	ON [※] 、OFF
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大 [※] 、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動 [※] 、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60秒、30秒 [※] 、15秒
	オートライト感度*	MAX、HIGH、MID [※] 、LOW、MIN
ドア設定	キーレスアンサーバック	作動 [※] 、非作動
	キーレスリロック時間	90秒、60秒、30秒 [※]
	セキュリティ機能*	作動 [※] 、非作動

※：工場出荷時の設定

カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードで、シフトポジションが **P** のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して「時計*/ 車両設定」を選択します。そして **SEL/RESET** を操作すると、カスタマイズを行なうことのできる「グループ」画面に切り換わります。

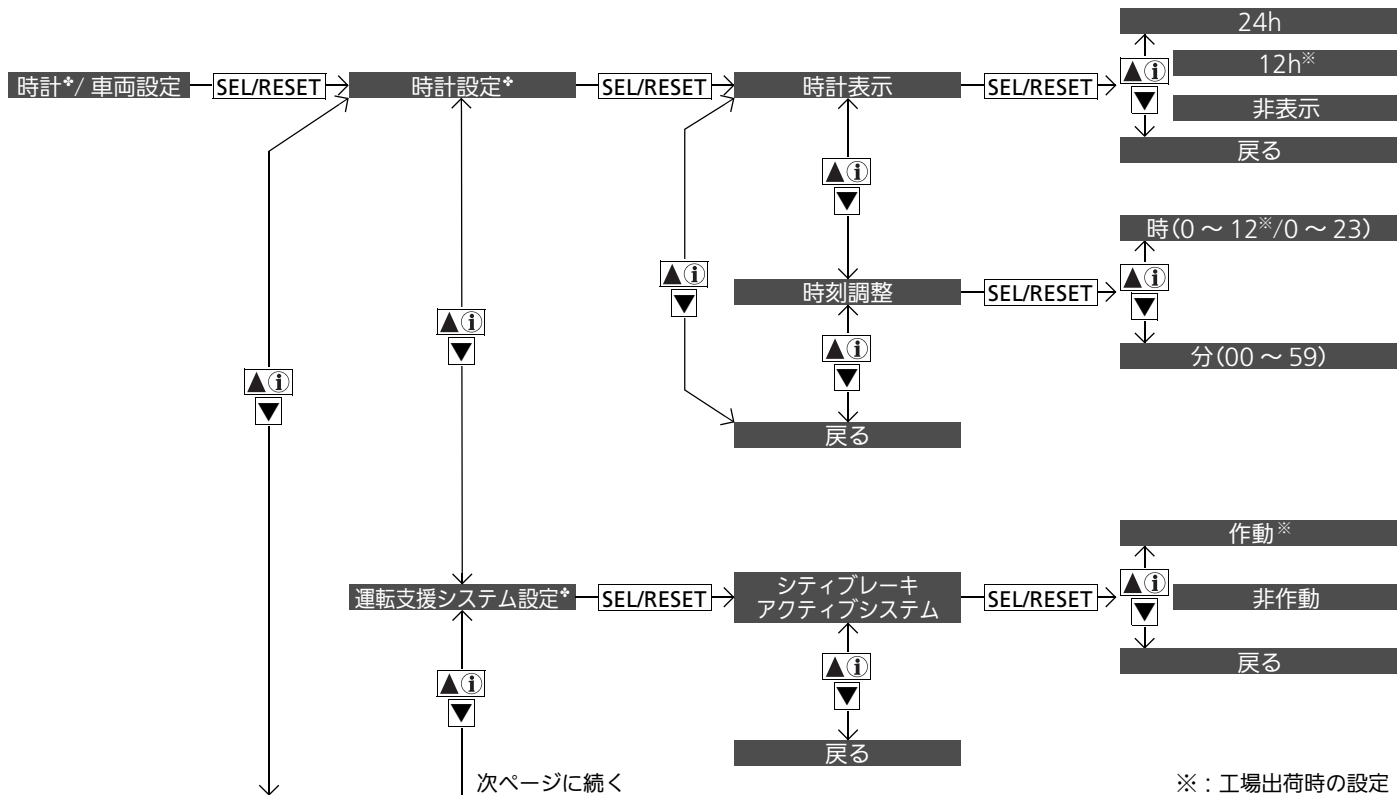


※カスタマイズのしかた

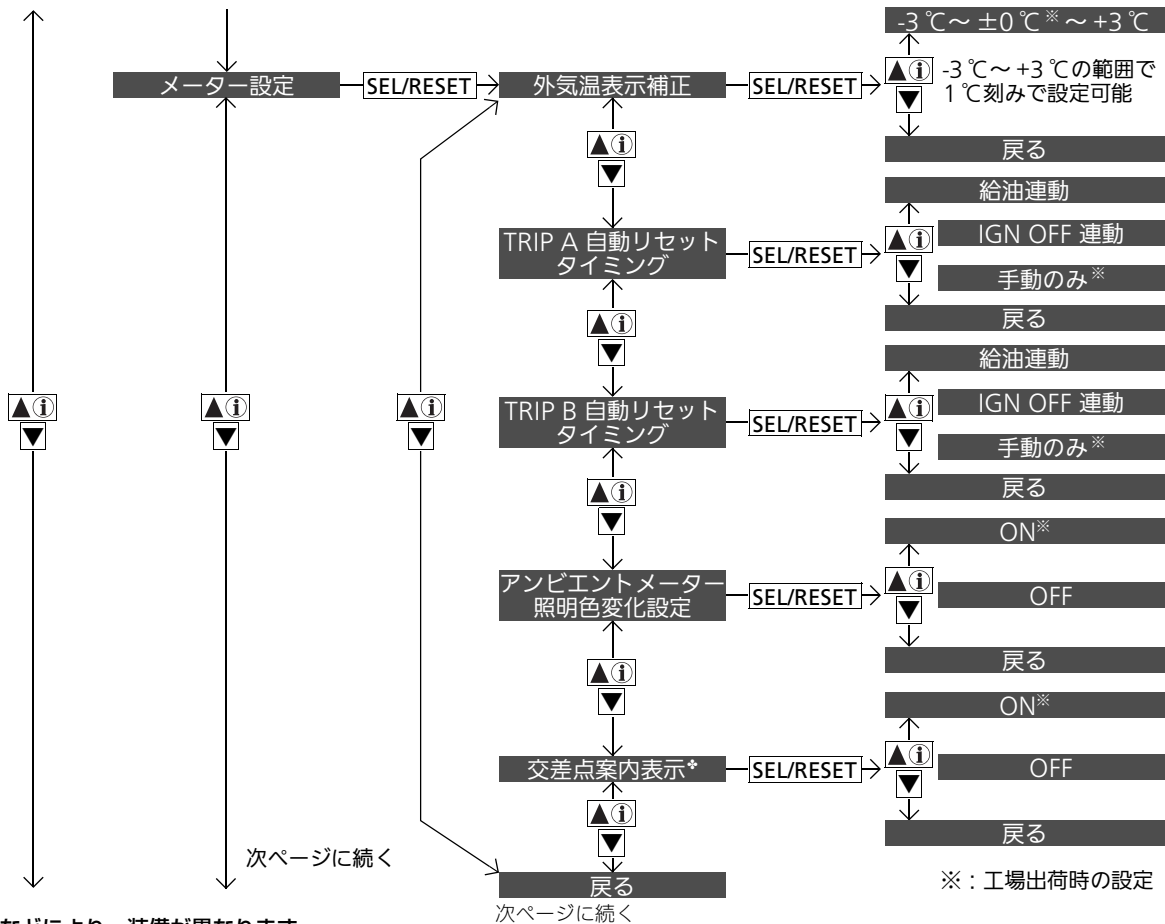
- ▶ カスタマイズ操作一覧 P.100
- ▶ カスタマイズ設定の例 P.104

■カスタマイズ操作一覧

インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、SEL/RESETスイッチで決定します。

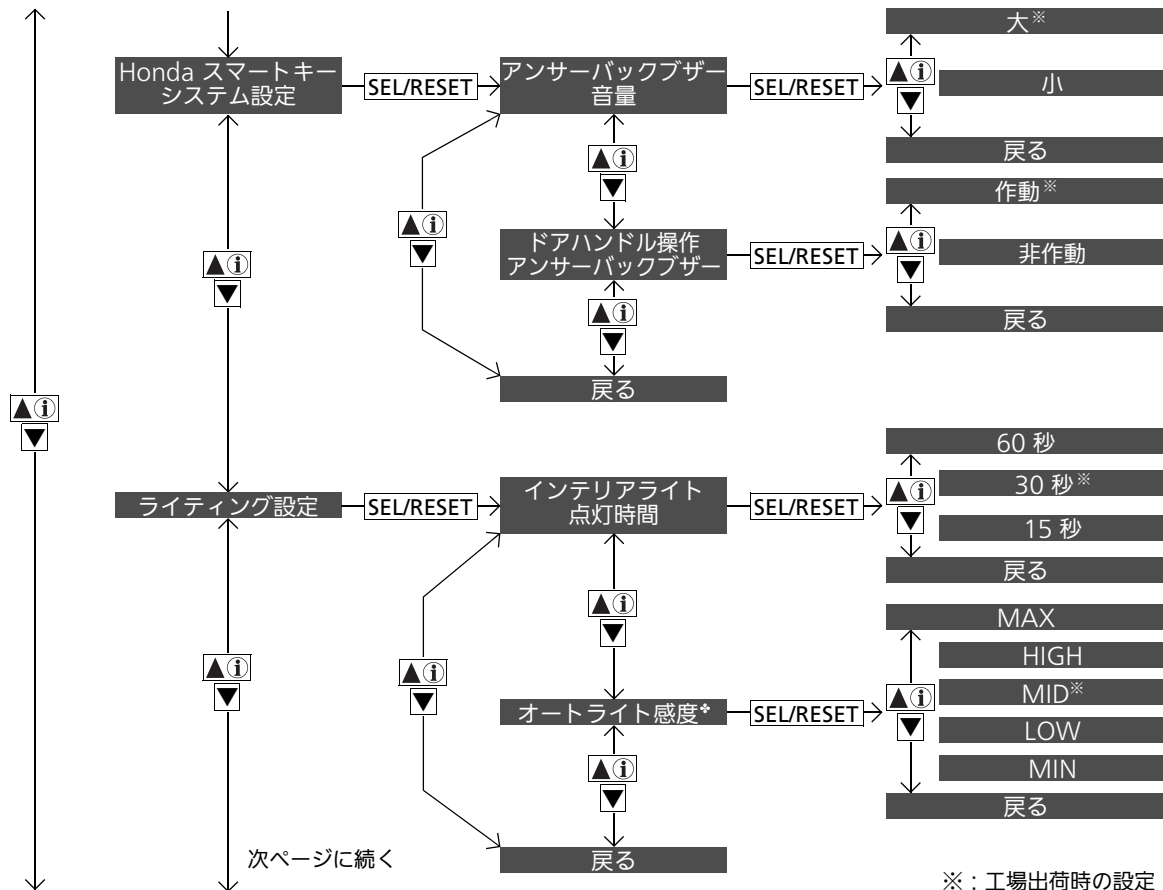


❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

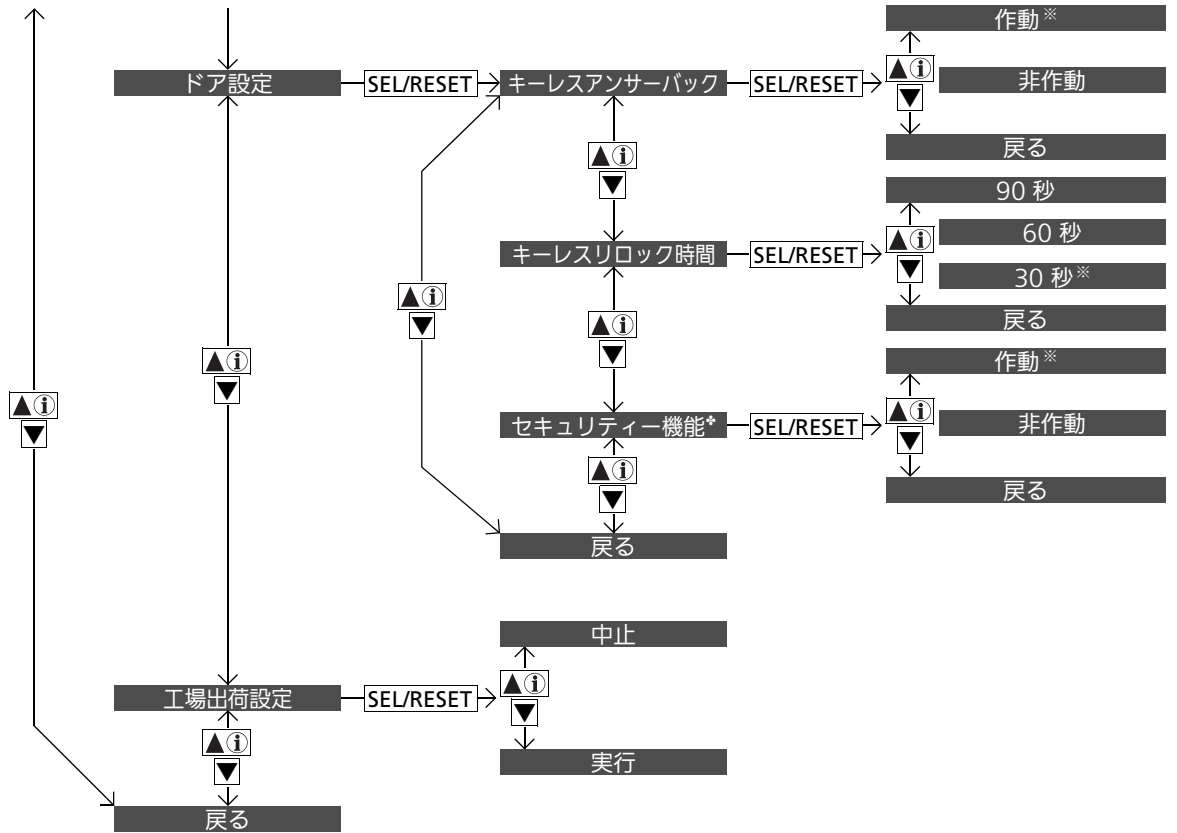


計器の見かた

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



※：工場出荷時の設定



計器の見かた

※：工場出荷時の設定

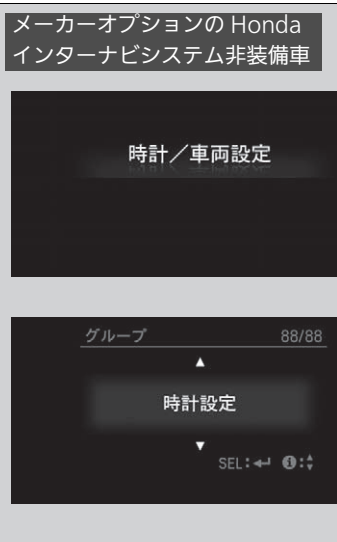
次ページに続く

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっていません。



1. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計* / 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

- ▶ 「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

- ▶ シティブレーキアクティブシステム装備車

「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されます。

- ▶ シティブレーキアクティブシステム非装備車

「グループ」画面に切り換わり、「メーター設定」が表示されます。

手順 3 へ進む。

※カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする
- シフトポジションを **[P]** 以外にする
- パーキングブレーキを解除する



2. インフォメーション(Ⓢ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を表示する。
3. **SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。
4. インフォメーション(Ⓢ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「セットアップ」画面に切り換わり、「手動のみ」が表示されます。
5. インフォメーション(Ⓢ)スイッチ(▲/▼)を押し、「給油連動」を表示する。
6. 「給油連動」が選択されていることを確認し、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



7. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
8. 手順7の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

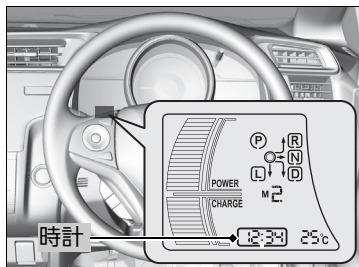
この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定	108	ハンドルまわりのスイッチ操作		ミラー類の調節	140
ドアの施錠と解錠		POWER スイッチ	128	シート調節	144
キーの種類と機能	111	方向指示器(ウィンカースイッチ)	131	ヘッドレスト	153
車外でのドアの施錠 / 解錠	114	ライトスイッチ	132	アームレスト*	155
車内での施錠 / 解錠	119	フォグライトスイッチ*	133	室内灯 / 室内装備品	156
チャイルドプルーフ	121	ヘッドライトレベリングダイヤル*	134	エアコン	
テールゲートの開閉	122	ワイパー/ ウォッシャー	135	エアコンの吹き出し口	165
セキュリティシステム		イルミネーションコントロール	137	オートエアコンの使いかた	166
イモビライザーシステム	124	リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミ ラー*	138	オートエアコンのセンサー	171
セキュリティアラームシステム*	124	フロントガラス熱線スイッチ*	138		
ウィンドウの開閉	126	ハンドルの調節	139		

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる

時計はメーターに表示されます。



メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h/非表示)を切り変えたり時刻調整をすることができません。

1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶ 「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。



2. **SEL/RESET** を操作する。
▶ 「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。

※時計の時刻を合わせる

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。メーターに表示されている時計もナビシステムの時計表示に連動します。

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」をご覧ください。



3. **SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
4. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
 - ▶ 「分」が設定され、通常画面に戻ります。

■時間表示の選択

1. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を表示する。



2. **SEL/RESET** を操作する。

▶ 「セットアップ」画面に切り換わり時計表示設定ができます。

3. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し。

▶ 24h/12h/非表示に切り換えることができます。

▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。

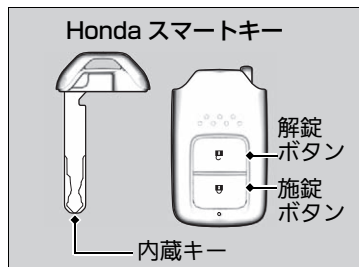
▶ 「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

4. **SEL/RESET** を操作する。

▶ 時計表示設定が完了し、通常画面に戻ります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

また、キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

❏キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

❏イモビライザーシステム P.124

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

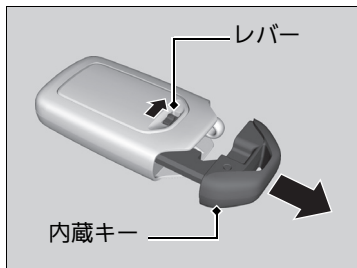
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー



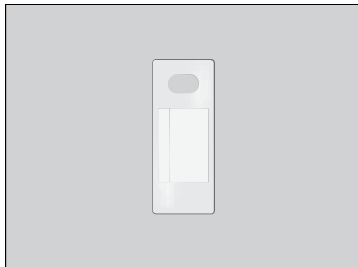
Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、カチッと音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

※Honda スマートキー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

※キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

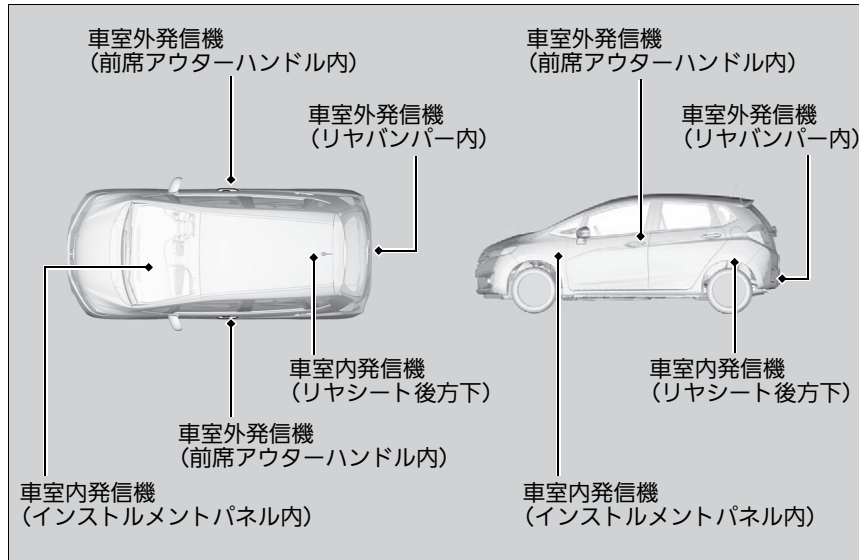
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠️ Honda スマートキーの微弱電波

⚠️ 注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。

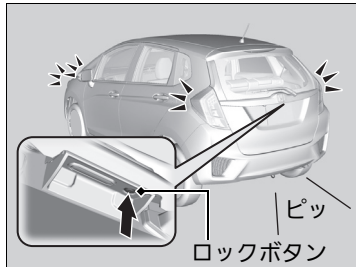
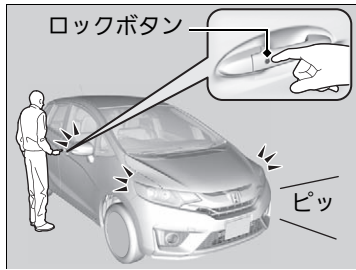
ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

※車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかつたりすることがあります。



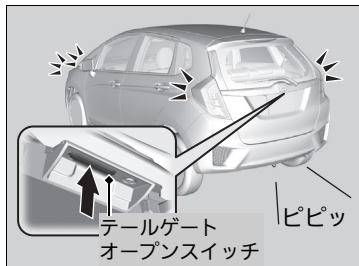
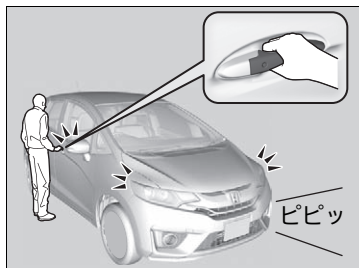
■施錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押します。

- ▶ 「ピッ」というアンサーバック音が鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

☒Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

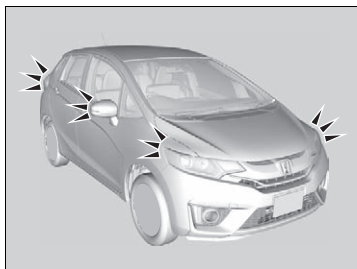
Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

▶ **カスタマイズ機能 P.98**

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーシステムで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

■ 室内灯 P.156

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

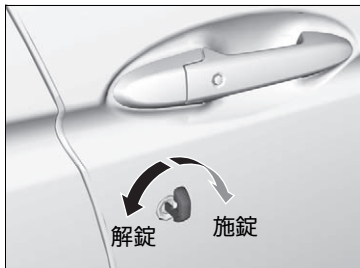
ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケータが点灯しない場合は、電池切れです。

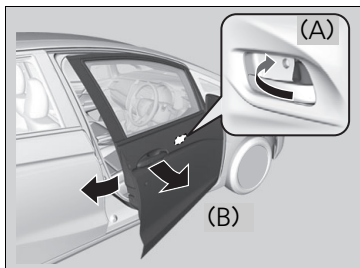
■ 電池交換のしかた P.245

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



内蔵キーを確実に差し込んで回します。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込み、外側のドアハンドル(B)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

☒キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

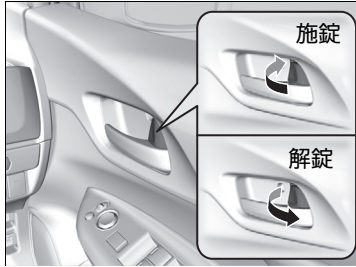
☒キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■ **施錠するには**
ノブを押し込みます。

■ **解錠するには**
ノブを引き出します。

※ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

⚠ 衝撃感知ドアロック解除システム

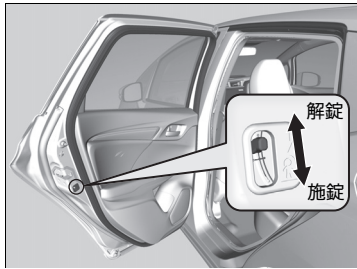
衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

☒ チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲート閉めるとき

- Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

※テールゲート開閉時の注意



注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

※テールゲートを開ける

施錠されているときにHondaスマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

▶ Hondaスマートキーシステムでの施錠/解錠
P.114

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**POWER**を押すときは、下記の点に注意してください。

- **POWER** スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたは内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードをON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

※セキュリティアラームシステム*

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを
停止させるまで、最大5分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動に
つき約30秒間作動し、その警報作動が最大10
回行われます。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■セットするには

セキュリアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーシステムまたは内蔵キーで車外からすべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリアラームシステム*

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリアラームシステムをセットしないでください。

セキュリアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーが上がり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたは内蔵キーでドアを解錠し、セキュリアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

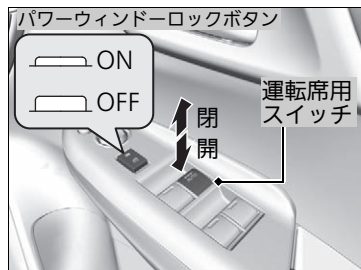
運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをON にしておいてください。

各部の操作

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

ⓧパワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

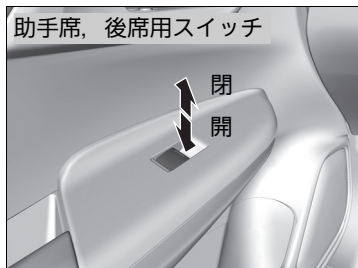
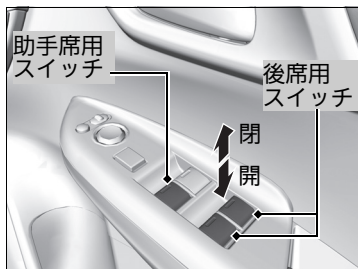
指などをはさみ込まないように注意する。 確実に閉めるため、閉め切る直前の部分には、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。パワーモードを OFF にしても、約 10 分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。

この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを押す

閉めるとき：スイッチを引き上げる

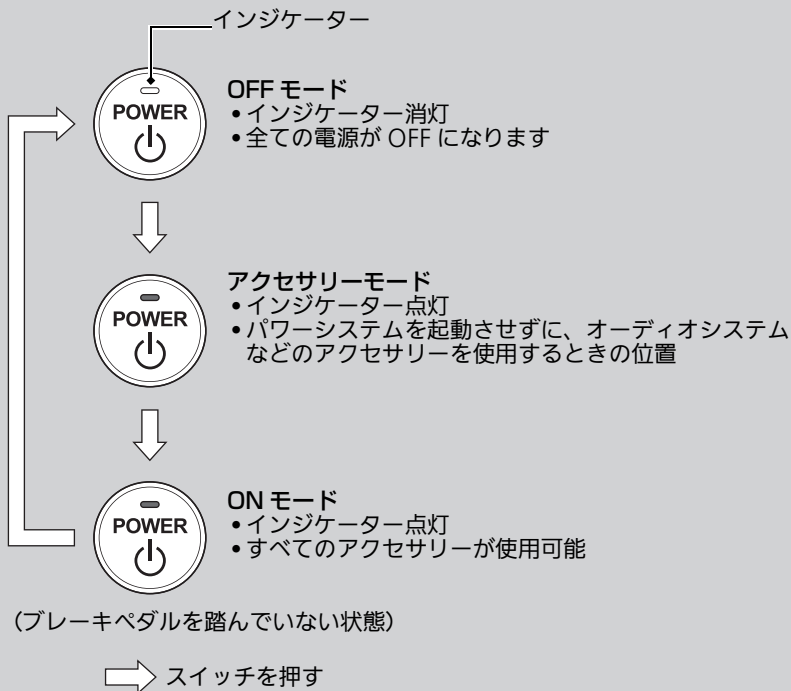
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

▶▶ パワーウィンドーの開閉

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

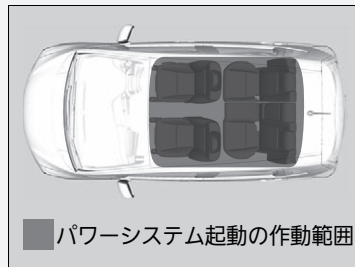
POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



▶POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーシステムを起動できます。パワーシステム起動の機能が作動する範囲は、インストールパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーシステムの起動ができることがあります。

■ パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが **P** でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

☒ POWER スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

☒ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.271

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の2種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

☒ Honda スマートキー持ち去り警告

パワーシステム起動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

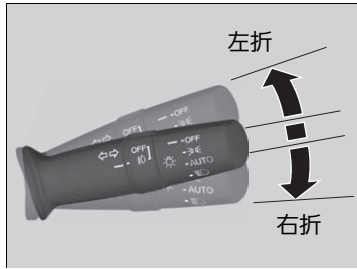
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがパワーシステム起動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)




パワーモードが ON モードのときに使用できません。


■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

ライトスイッチ



 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

 ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO * パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワースイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☑ 表示灯 P.68

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

オートライトコントロール装備車

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



■ヘッドライトオートオフ機能

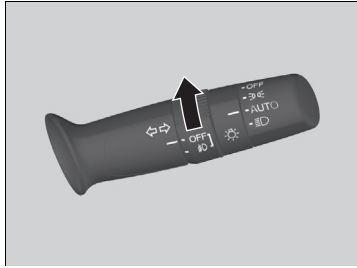
パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを **AUTO** * にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フォグライトスイッチ*



ライトスイッチが「OFF」以外のとき(ライトスイッチを「AUTO」にしているときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

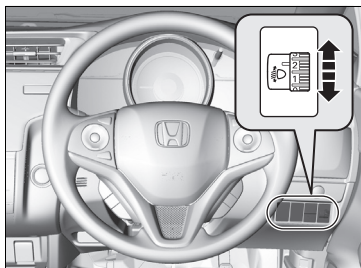
☒ フォグライトスイッチ*

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.68

ヘッドライトレベリングダイヤル*

パワーモードがON モードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。



ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

※ヘッドライトレベリングダイヤル*

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを **0** の位置に戻してから行ってください。

LED ヘッドライト 装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
5名乗車時	1
5名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	2 ^{※1}
	3 ^{※2}

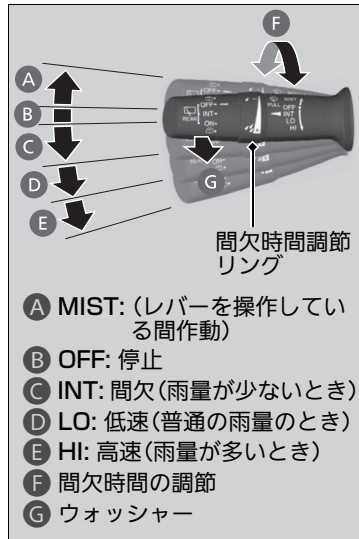
※1 : 4WD 車

※2 : 2WD 車

ワイパー/ウォッシャー

パワーモードがON モードのときに使用できます。

■ フロントワイパー/ウォッシャー



■ MIST

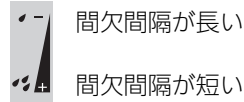
レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■ 間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ワイパー/ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。
間欠時間を短いほうに回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線*でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

■ リヤワイパー / ウォッシャー*



パワーモードがONモードのときに使用できません。

■ リヤワイパースイッチ (OFF, INT, ON)

ワイパーは数回動作後、間欠あるいは低速動作します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチをまで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを[R]にするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT (間欠)	間欠作動
LO (低速)	連続作動
HI (高速)	

※ ワイパー / ウォッシャー

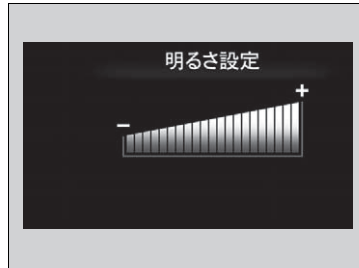
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール



パワーモードがONモードのとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

※イルミネーションコントロール

オートライト非装備車

ライトスイッチが**OFF**以外のとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

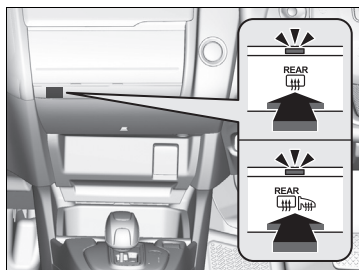
オートライト装備車

ライトスイッチが**OFF**以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさが調節できます。

- インストルメントパネル照明が減光しているときに目盛が全て表示されるまでノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。
- 車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまでセレクト / リセットノブを左に回すと、明るさが最小になります。このとき走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター/ヒータードアミラー*



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃ 以下のときは自動的に停止しません。

※リヤデフロスター/ヒータードアミラー*

アドバイス

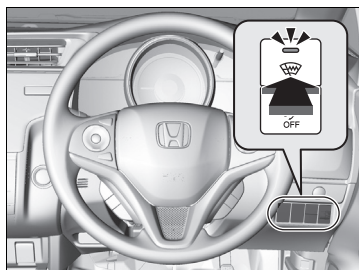
リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けられないよう注意してください。

必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、パワーシステムを起動させていないときは長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードが ON モードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線が ON になります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

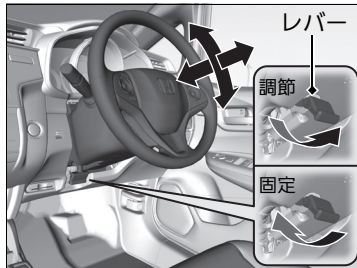
※フロントガラス熱線スイッチ*

この装置は消費電力が大きいので、長時間使わないでください。

また、パワーシステムを起動させていないときに長時間使用すると 12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
 - ▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバナーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
 - ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

※ハンドルの調節

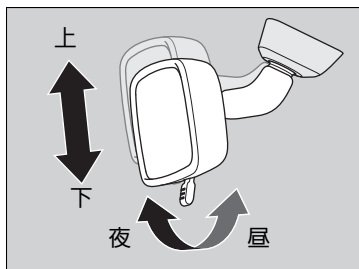
⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■防眩式ルームミラー

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

☒ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行うことができます。

■角度調節





左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

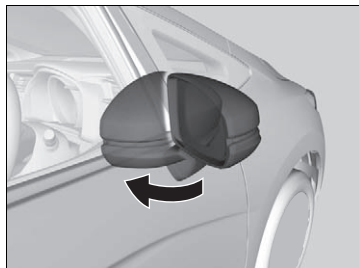
角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

電動格納ドアミラー装備車

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



電動格納ドアミラー非装備車

ミラーを車両後方に折りたたみます。
走行するときは必ず元に戻してください。

■オートリトラミラー*

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

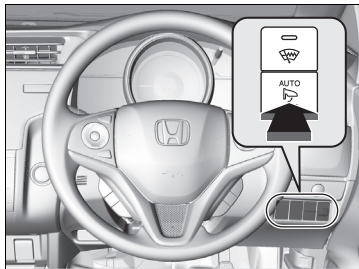
格納するとき：

- キーレスエントリーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- キーレスエントリーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押す。
- パワーモードを ON モードにする。

■オートリトラミラーOFF スイッチ



オートリトラミラー機能をOFFにするには、AUTO OFF スイッチを押してください。機能をONにもどすには、再度スイッチを押してください。

☒オートリトラミラー*

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、キーレスエントリーシステム / Honda スマートキーシステムでドアミラーを格納状態から、元の位置に戻せません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

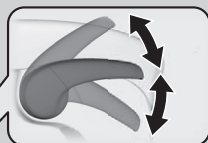
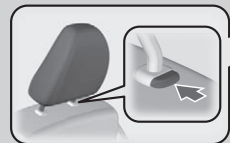
■フロントシート / ヘッドレストの動かしかた

■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

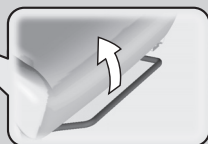
■高さの調節*

レバーを繰り返し引き上げ / 引き下げし、高さを調節



■背もたれの角度調節 レバーを引き上げながら調節

■前後位置の調節 レバーを引き上げながら、前後位置を調節



※フロントシート / ヘッドレストの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下にもものを置かない。

ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けしないでください。

■ フロントシートの調節

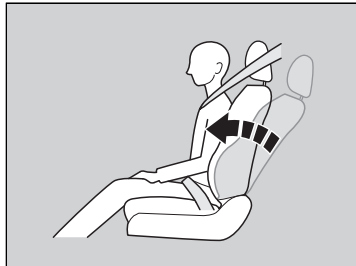


■ シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

▶ フロントシートの調節



警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



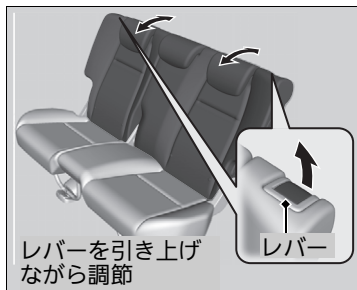
注意

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 背もたれの調節*



背もたれは、左右別々に操作することができます。レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

⊗ リヤシート

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

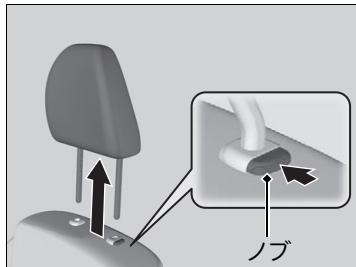
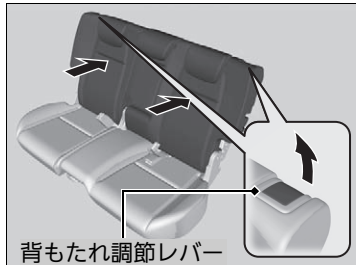
走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

■フラットシート*

フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートとフラットな状態にできます。



1. リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを後ろへ倒して固定する。
2. ノブを押したままフロントシートのヘッドレストを外す。

☒フラットシート*

⚠注意

フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。

ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フラットな状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。

シートの上を歩いたり、足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。

背もたれが急に戻り、顔などにけがをすることがあります。

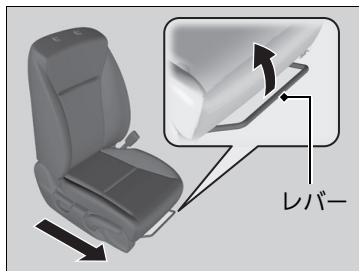
アームレスト装備車

アームレストは収納する。

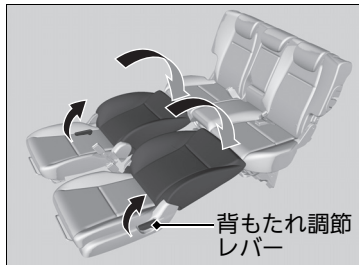
リヤシートアームレスト装備車

アームレストは収納する。

つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。



3. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱい動かす。



4. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。

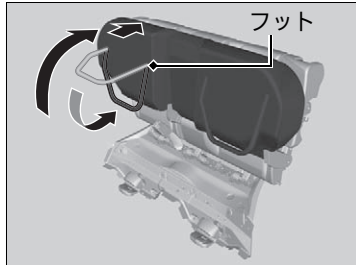
■フラットシートを元に戻すとき

元に戻すときは逆の手順で行います。

※フラットシート*

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

座面をはね上げて固定する(チップアップ)*



座面は、左右別々にはね上げることができます。

■ 座面のはね上げかた

左側

1. アームレスト* を収納する。

共通

2. 座面を引き上げる。

3. 座面を背もたれに押しつけながらフットを格納して、固定する。

※座面をはね上げて固定する(チップアップ)*

⚠ 注意

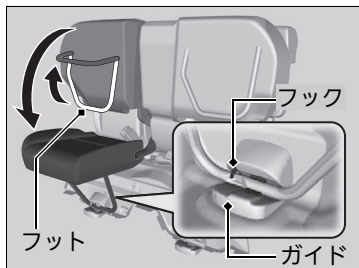
座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆずって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にもものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんとはまっていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。



■戻しかた

1. 座面を押さえながら、フットをいっぱい
に開く。
▶ 座面が前に倒れ込むので必ず手を添え
て操作してください。
2. 座面を静かに前方に倒して、フットをガ
イドに入れる。
▶ ガイドからフックが出ていることを確
認してください。

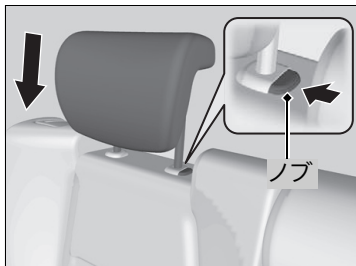
※座面をはね上げて固定する(チップアップ)*

フットを格納した状態で座面を倒さないでく
ださい。

アドバイス

座席を戻すときは、シートベルトやバックル
をはさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトやバックルが破損することがあ
ります。

背もたれの倒しかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

リヤセンターヘッドレスト装備車

片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
 分離収納式シートベルト P.34
2. ヘッドレストを下げ、アームレスト* を元に戻す。

ⓧ背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

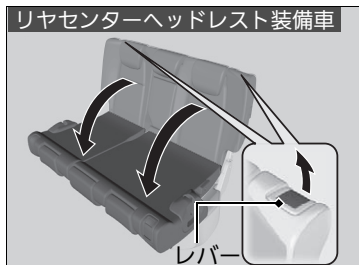
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにもものが入ったままリヤシートを格納するとき

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にもものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。

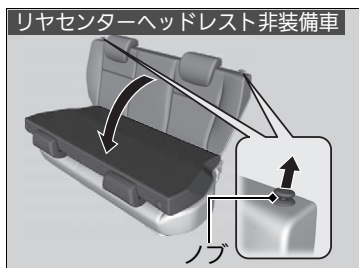
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。



リヤセンターヘッドレスト 装備車

3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。



リヤセンターヘッドレスト 非装備車

3. 背もたれのノブを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

※背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。

急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

リヤセンターヘッドレスト 装備車

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

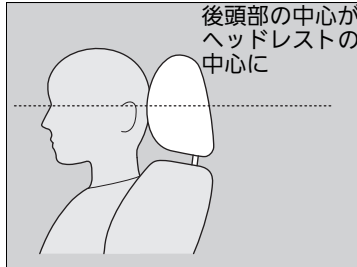
共通

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

ヘッドレスト

■ フロントシートヘッドレストの調節

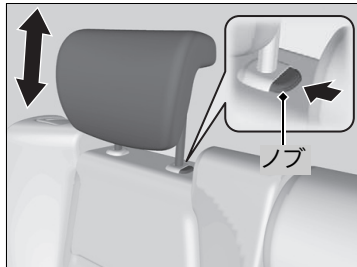


後頭部の中心が、ヘッドレストの中心になるようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するとき、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

☒ ヘッドレスト



ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

☒ リヤシートヘッドレストの位置変更



ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

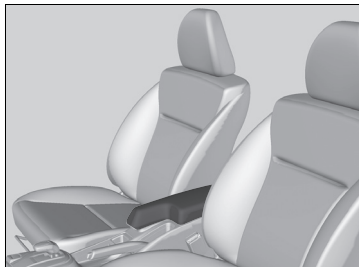
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

■ フロントシートアームレスト*



■ リヤシートアームレストの操作*



前に倒して使います。

※アームレスト*



警告

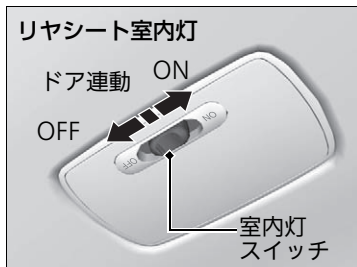
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON(リヤシート室内灯)

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

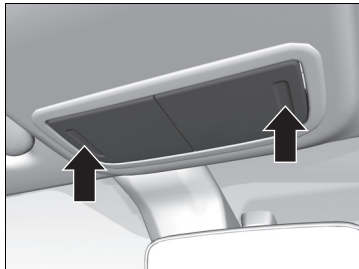
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

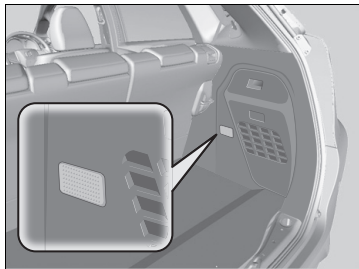
パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

■ マップランプ*



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

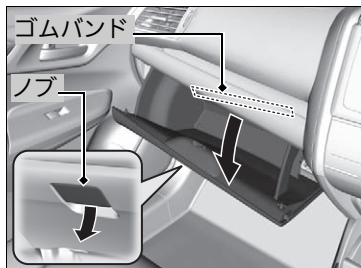
■ カーゴスペース照明灯*



テールゲートを開けると点灯します。

室内装備品

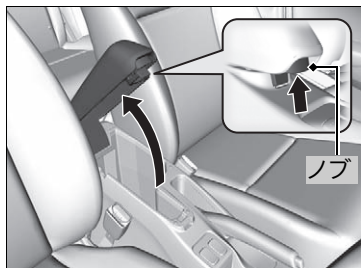
■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

内側にゴムバンドが付いています。

■センターコンソールボックス*



ノブを引くと開きます。

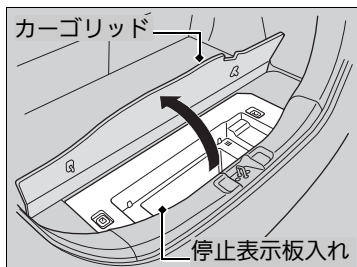
※グローブボックス



警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ 停止表示板入れ



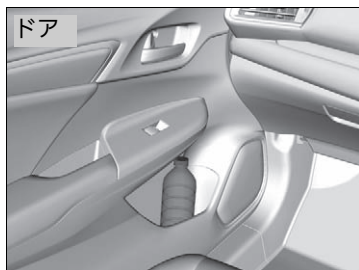
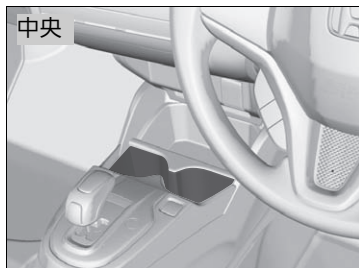
カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

☒ 停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ …427mm 以下
- 高さ …116mm 以下
- 幅 …48mm 以下

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

側面のドリンクホルダーは前面部分を手前に引いて使用します。

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

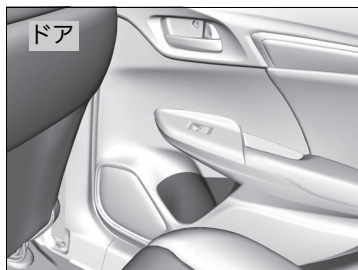
☒ドリンクホルダー



注意

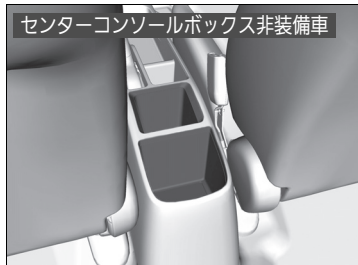
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

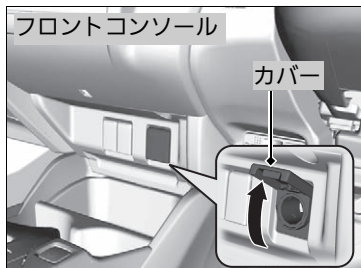


■リヤシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。



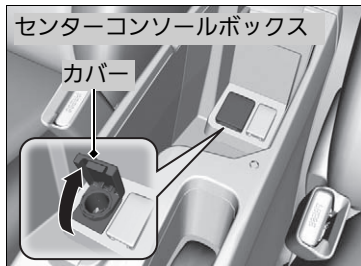
■ アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードのときに使用できます。

■ フロントコンソールのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。



■ センターコンソールボックス内のアクセサリーソケット*

ノブを引いてセンターコンソールボックスを開け、カバーを開けて使います。

※ アクセサリーソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

アクセサリースOCKETを両方同時に使用する場合は、それぞれの消費電力が 180W(15A)を超えないようにしてください

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■コートフック*



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

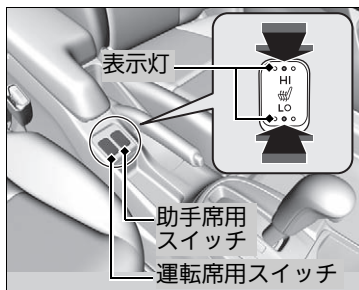
※コートフック*

⚠ 注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

■ シートヒーター*



パワーモードがONのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチの **HI** 側か **LO** 側を押します。シートを早く暖めたいときは **HI** 側を押します。暖まったら **LO** 側にしてください。作動中、押ししている側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

※シートヒーター*

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

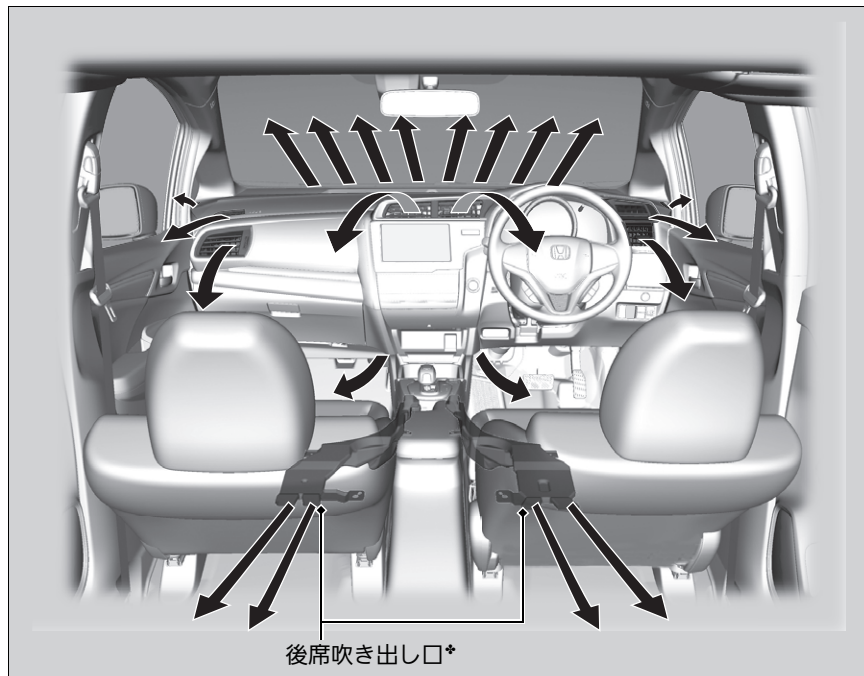
この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。

バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアコン

エアコンの吹き出し口



※エアコン

メーカーオプションのHonda インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」をご覧ください。

オートエアコンの使いかた

上半身送風

足元送風、
上半身送風

足元送風

足元送風、
窓ガラスの
曇り取り

ファンスピード
切り換えアイコン

モード切り換えアイコン

温度調節
アイコン

アイコン

アイコン

AUTO アイコン

ON/OFF アイコン

A/C アイコン

パワーシステムを起動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節アイコン(∧/∨)を押して温度を調節する。
3. 停止するときには、**ON/OFF** を押す。

☒ オートエアコンの使いかた

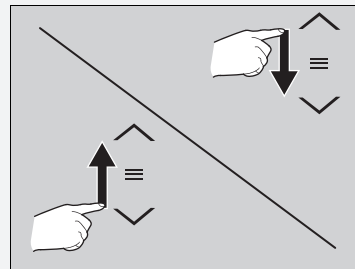
オート(AUTO)で使用したいアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。このとき**AUTO**の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO**を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。



設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、設定値を変更できます。



■内気 / 外気の切り換え


状況に合わせて 、 を押して、内気 / 外気を切り換えます。

-  内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
-  外気(表示灯点灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に  を押すと、除湿暖房となります。


※オートエアコンの使いかた


 を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻りません。

高電圧バッテリーの残量が少なくなるとエアコンの効きが弱くなる場合があります。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



 を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

 をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■ 急速に霜を取りたいとき

1.  を押す。
2.  を押す。

▶▶ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

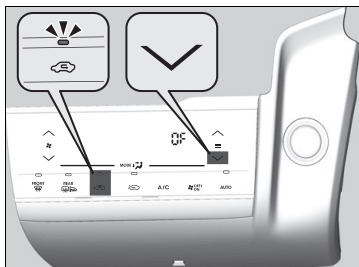
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。



霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

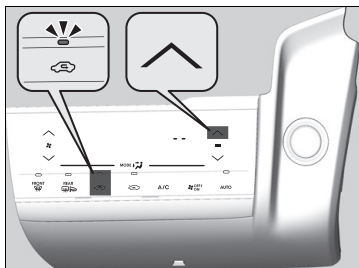
タッチパネル操作音の ON と OFF



エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度下方調節アイコン(∨)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「-」が 5 回点滅した後、「OFF」が表示されたことを確認してから  を離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。

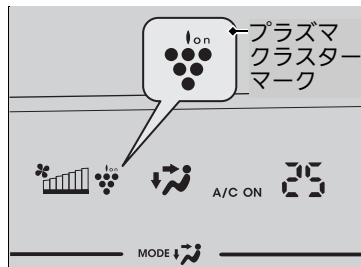


1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度上方調節アイコン(∧)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OFF」が 5 回点滅した後、「-」が表示されたことを確認してから  を離す。

☒ タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

■ プラズマクラスター*

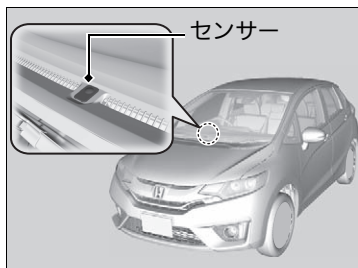


エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

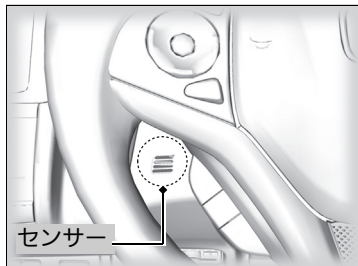
▶▶ プラズマクラスター*

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ



オーディオ装置*

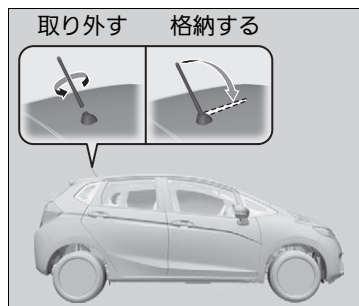
アンテナ..... 173

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」をご覧ください。

アンテナ

■ マイクロアンテナ



マイクロアンテナは格納、取り外しができません。

ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

※ マイクロアンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリなどについて記載しています。



運転の前に.....	175
運転操作	
パワーシステムの起動.....	177
走行時の注意点.....	180
デュアルクラッチトランスミッションに ついて.....	183
シフト操作.....	184
車両接近通報装置.....	191
ECON スイッチ.....	190
S モードスイッチ.....	190
クルーズコントロール*.....	192
VSA(ピークルスタビリティアシスト).....	196

4WD(四輪駆動機構)*.....	197
高電圧バッテリーの特性.....	198
ブレーキ操作	
ブレーキシステム.....	199
ABS(アンチロックブレーキシステム)...	201
電子制御ブレーキアシスト.....	202
エマージェンシーストップシグナル.....	203
シティブレーキアクティブシステム*.....	204
駐停車操作	211
リヤワイドカメラシステム*	213

給油	
指定燃料について.....	214
給油のしかた.....	214
アクセサリと改造	217

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
■ **タイヤの点検と整備** P.239
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

次ページに続く

※車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

※車内での確認項目

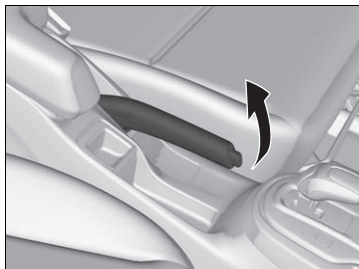
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

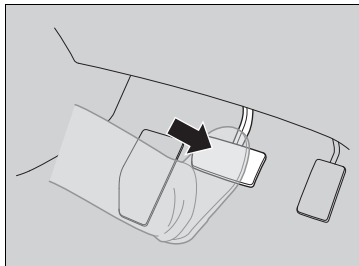
車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
☒ **シートの調節** P.144
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
☒ **ミラー類の調節** P.140
☒ **ハンドルの調節** P.139
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
☒ **シートベルトの着用** P.31
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
☒ **車内での施錠 / 解錠** P.119
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
☒ **警告灯** P.61

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキをかける。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

▶パワーシステムの起動

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12Vバッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

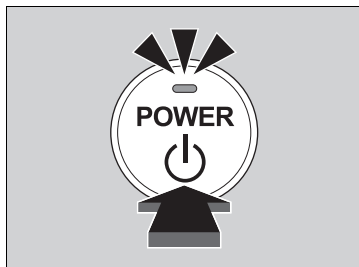
寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。

▶イモビライザーシステム P.124



3. アクセルペダルを踏まずに、**POWER** を押す。

4. READY 表示灯の点灯を確認する。

▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。

▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

☒ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.74

☒ パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、10秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで**POWER**に触れてください。

☒ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.271

POWER は、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。

READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。

READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで**POWER**を押すとパワーモードがOFFになり、走行できなくなります。

☒ **READY 表示灯** P.70

■ パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを**P**にする。

2. **POWER** を押す。

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを **D** にする。
▶ 後退する場合は **R** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
 ▶ パーキングブレーキ P.199
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

※発進時の操作



アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。

READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

※ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止させないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを **N にしないでください。**

エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

※ その他の注意点



注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車

デュアルクラッチトランスミッションについて

■ クリープ現象

シフトポジションが **P** **N** 以外になっていると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

シフトポジションが **D** で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

※ クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

※ キックダウン

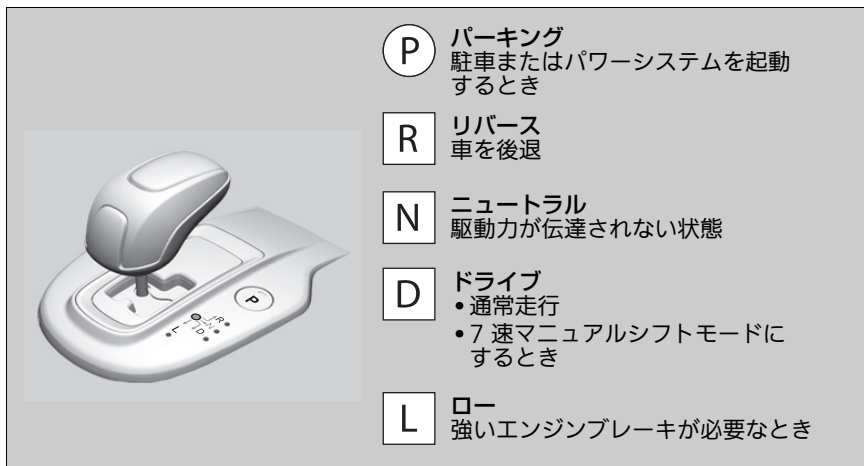
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

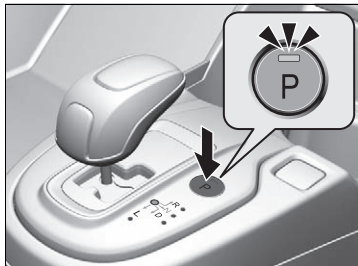
シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



■パーキングスイッチ



パワーモードが ON モードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが **P** になり、スイッチのインジケータが点灯します。

※シフト操作

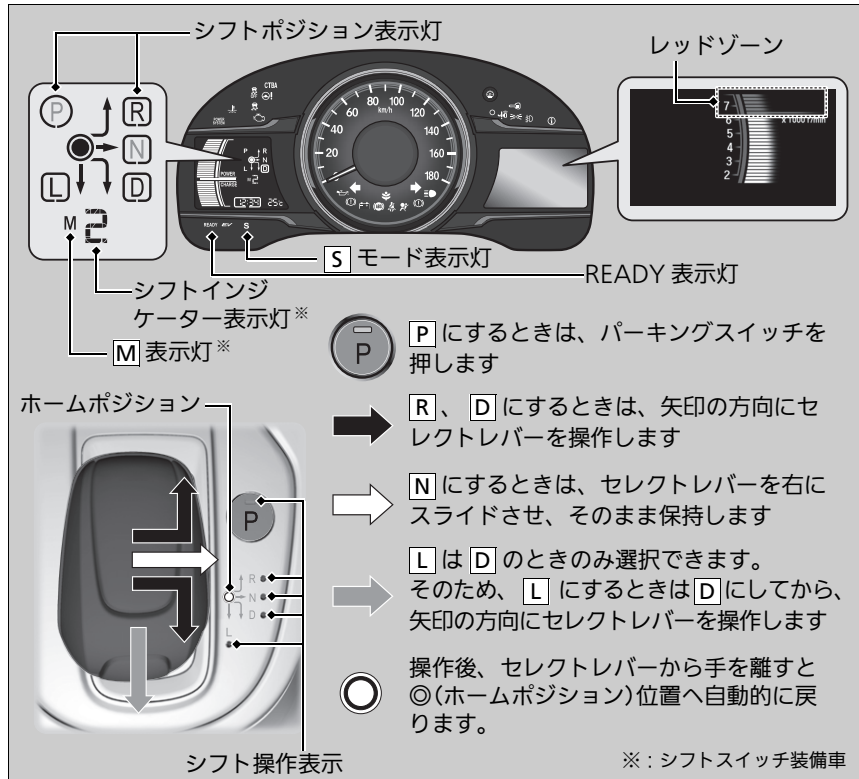
R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが **R** の位置になっていることを知らせます。

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴ります。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを **D** または **R** にしてください。

セレクトレバーの操作

セレクトレバーの右にあるシフト操作表示は、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示します。



次ページに続く

セレクトレバーの操作



警告

セレクトレバーにもものをぶら下げたりしない。
レバーがホームポジションに戻らなくなるため、車が突然発進するなどの思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

以下のとき、トランスミッションに異常があります。

- 選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているとき
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってSPORTメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じる場合がありますが、異常ではありません。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

■ 自動パーキング選択制御

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 km/h 以下のときに、**[P]**以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で**[P]**になります。

- ▶ その後シフト操作を行い、他のシフトポジションを選択しても、ブレーキペダルを離すと再度自動で**[P]**になります。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが**[P]**以外のまま、パワーモードをOFFモードにすると、シフトポジションが自動で**[P]**になります。

■ アクセサリーモード時の N ポジション保持制御

シフトポジションを**[N]**にして、約 5 秒以内に**[POWER]**を押すと**[N]**の状態のままパワーモードはアクセサリーモードになります。

- ▶ アクセサリーモードを15分間保持した後、自動的にOFFモードになります。

この制御中に、シフトポジションを**[P]**にすると、この制御は解除され、OFFモードになり、このときに数秒間**[P]**が点灯します。

※ 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを**[P]**にし、適切な方法により行ってください。

※ 駐車方法 P.211

この制御により**[P]**になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

※ ドア Open 自動パーキング選択制御

この制御により**[P]**になったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフト ポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・ セレクトレバーの操作	3. 操作後のシフト ポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない アクセルペダルを踏んでいる	他のシフトポジションを選択 する	P	アクセルペダルから足を 離し、ブレーキペダ ルを踏む
N	低速走行中で、ブレーキペダル を踏んでいない 低速走行中で、アクセルペダル を踏んでいる		N	
N D L	前進している	R を選択する	N	停車する
R N	後退している	D を選択する		
R N D L	走行中	パーキングスイッチを押す		
R	—	L を選択する	操作時のシフトポ ジションのまま	D を選 択 し て か ら L を 選 択 す る
P N	READY 表示灯が点灯していな い	P N 以外を選択する		READY 表示灯の点灯 を確認する

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンプレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションが **[D]** で、S モードスイッチが OFF のとき

シフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケータが点灯します。

EV 走行中に 7 速マニュアルシフトモードにすると、自動的にエンジンが始動し、モード作動中はエンジンで走行します。

定速走行の状態になると、7速マニュアルシフトモードは自動的に解除され、シフトインジケータが消灯します。また、**[+]** のシフトスイッチ (右側) を数秒間引き続けることでも解除することができます。カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■シフトポジションが **[D]** で、S モードスイッチが ON のとき

シフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードとなり、**[M]** 表示灯とシフトインジケータが点灯します。

モードを解除する場合は、S モードスイッチを押すか、**[+]** のシフトスイッチ (右側) を数秒間引き続けてください。7速マニュアルシフトモードが解除され、**[M]** 表示灯とシフトインジケータが消灯します。

※7 速マニュアルシフトモードとは

以下の走行状態のときに、シフトスイッチを引くと変速せず表示灯が点滅します。

- 操作後のエンジン回転数が許容範囲外のとき
- 車速が各ギヤの許容範囲外のとき

また、車両状態によって、変速ができないこともあります。

エンジンやトランスミッションを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。このとき該当する表示灯が点灯します。

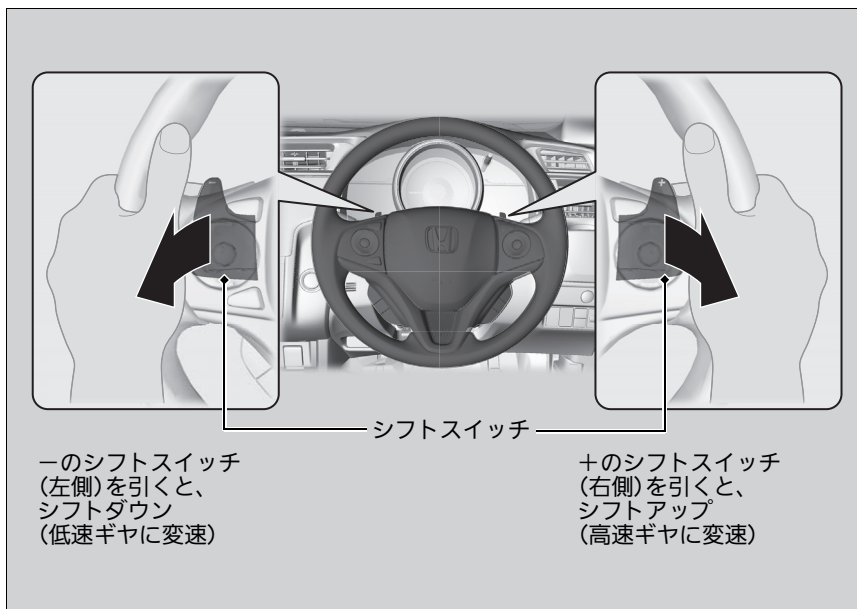
以下のとき、自動的に 7 速マニュアルシフトモードを解除することがあります。

- トランスミッション保護が必要なとき
- 高電圧バッテリーの残量が低下したとき
- モード作動中に、滑りやすい路面でタイヤがロックしたとき

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1回のシフトスイッチ操作で、ギヤは1段変速します。



ECON スイッチ



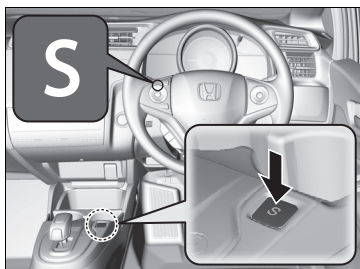
スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーター、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすいように制御します。

パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、ECON モードが ON になりメーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

▶▶ECON スイッチ

ECON モードが ON のときに S モードを ON にすると、走行制御は S モードを優先します。

S モードスイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーターの作動を制御して、素早い発進加速や力強く伸びのある走行を可能にします。


パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、S モードが ON になります。


車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止 (OFF) 状態にするには、 を押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用 (ON) するには、 を押します。

※車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速/減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

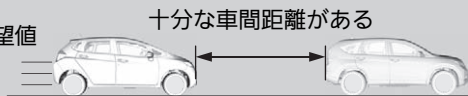
こんなときに

■使用できるシフトポジション

D のとき

■使用できる車速

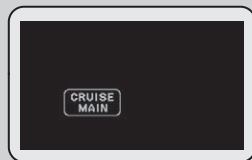
約 30 ~ 100km/h の範囲の希望値



操作

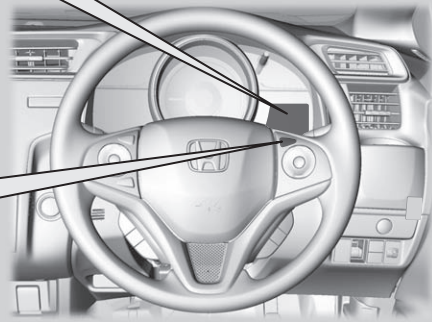
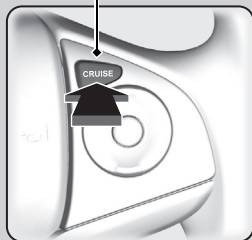
■ハンドルの

CRUISE スイッチを押す



マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE MAIN が表示
クルーズコントロールが ON になります。

CRUISE
スイッチ



※クルーズコントロール*

警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

● **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**

道路状況に合った速度で走行できません。

● **急な下り坂のある道路**

エンジンブレーキや回生ブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

● **凍結や積雪などで滑りやすい道路**

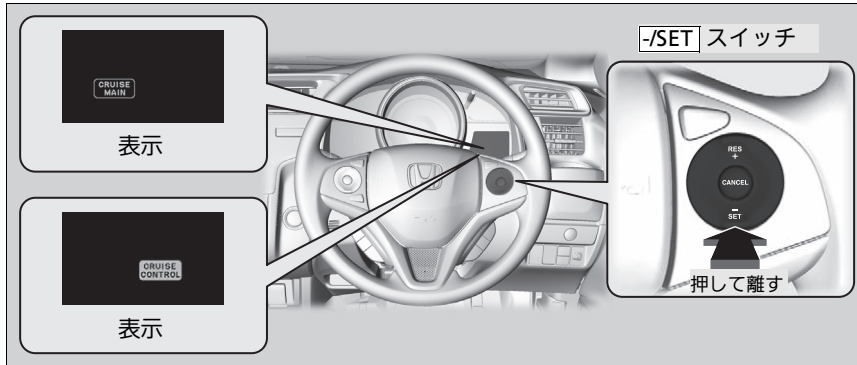
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**-/SET** を押します。
-/SET を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。
 同時に、マルチインフォメーションディスプレイに **CRUISE CONTROL** が表示されます。

※車速をセットするには

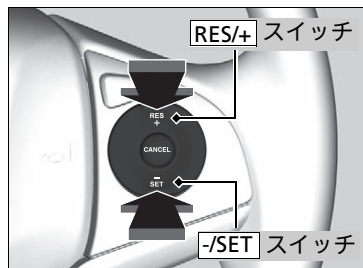
自動定速走行をしないとき

安全のため **CRUISE** を押して OFF にしてください。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにすると、**CRUISE** は自動的に OFF になります。

■ 車速を調節するには

手元の **RES/+** と **-/SET** の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



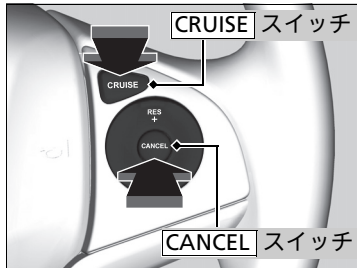
RES/+ スイッチ

- 1回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離れたときの車速に固定

-/SET スイッチ

- 1回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離れたときの車速に固定

解除するには



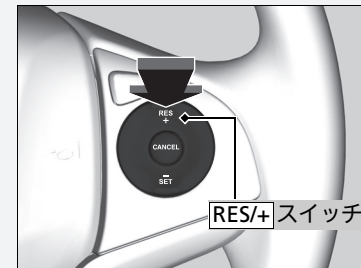
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ㊦ P.201

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

㊦ 電子制御ブレーキアシスト P.202

■ VSA の作動と警告灯




TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

㊦ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

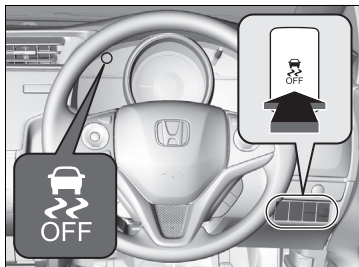
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。


タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。


通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押ししてください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなり、VSA OFF 警告灯が点灯します。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

※VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※4WD(四輪駆動機構)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため4WD から2WDに切り換わることがあります。

しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。

長期間走行しないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。

バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

■ハイブリッド車について

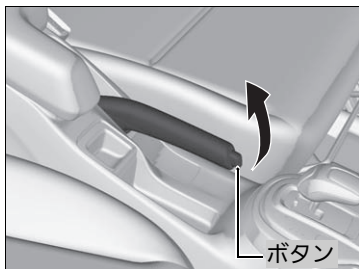
高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。

従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

ブレーキシステム

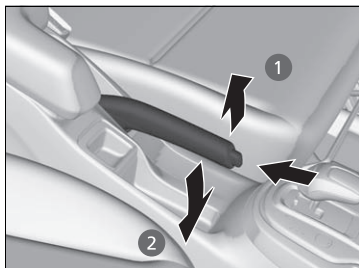
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱい引く。



■ パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

※ ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

※ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。

停車したときも、ブザーは止まります。

また、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示されます。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

▶ 電子制御ブレーキアシスト P.202

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.201

▶▶フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

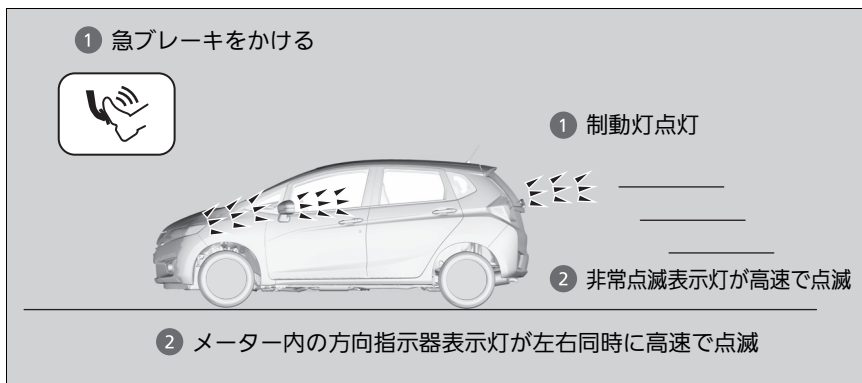
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➤ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.196

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

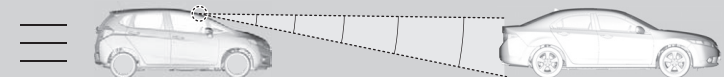
ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

シティブレーキアクティブシステム*

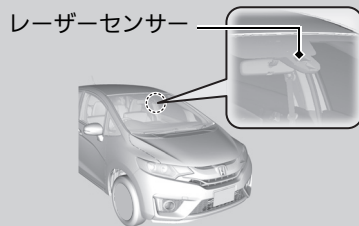
低速走行時に、自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突の衝撃を軽減する装置です。

システム作動条件

自車の車速が約 5km/h ~ 30km/h のとき、レーザーセンサーが前方の車両を検知。



フロントガラス上部に、シティブレーキアクティブシステムのレーザーセンサーを装備



自車との速度差が約 5km/h ~ 30km/h の車両に対して衝突のおそれがあるときに、システムが作動します。

なお、シフトポジションが[R]のときは作動しません。

※シティブレーキアクティブシステム*



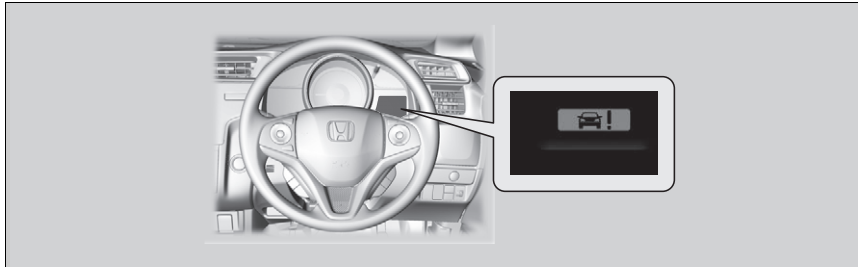
警告
シティブレーキアクティブシステムは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。

正しく運転しないと衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときは取り除く
- ガラスを拭くときは、レーザーセンサーに衝撃を与えない
- センサーを取り外さない

システムの作動のしかた



衝突のおそれがある状態になると、ブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅し、ブレーキが強かかります。

システムが作動し、停車した後に、自動ブレーキは解除されます。

安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

システムにより、車が停止してから、マルチインフォメーションディスプレイにシステム作動のメッセージが表示されます。

❖ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.82

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

❖ シティブレーキアクティブシステム*

次のような場合には、車両を正しく検知できず、システムが作動しない場合があります。

- 前方の車両が斜め、横向き、対向の場合で、車両を検知しにくいとき
- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 自車と前方の車両との相対速度差が大きいとき
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 自車の前方に対向車が急に飛び出したとき
- 自車が対向車の前に急に飛び出したとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- カーブなどの道路状況のとき
- 前方車両が著しく汚れているなど、レーザーの反射が弱く検知しにくいとき
- キャリアカーなど特殊な形状の車、自転車、二輪車などや、物の材質、形状、大きさなどにより、レーザーセンサーが検知しにくいとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
- 衝突を回避しようとして運転者がブレーキやハンドルを操作したとき

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

■ システムの ON と OFF



マルチインフォメーションディスプレイでシステムの ON と OFF を切り換えます。

❏ カスタマイズのしかた P.99

シティブレーキアクティブシステムが OFF に切り替わったとき、**CTBA** 表示灯が点灯します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

❏ シティブレーキアクティブシステム*

以下の場合、システムが自動的に停止し、**CTBA** 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。

❏ 表示灯 P.72

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなったとき
 - フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
 - ボンネットに雪などが積もっているとき
- 安全な場所に車を止めて、以下の対処を行ってください。
- レーザーセンサー付近の温度が高くなっているときは、エアコンを使用して車内の温度を下げる
 - レーザーセンサー付近の汚れなどの遮蔽物やボンネット上の雪などがあるときは取り除く

システムが作動できる状態になると、システムは自動復帰します。

以下の場合、システムを OFF にしてください。

- シャーシダイナモやフリーローラーを使用する場合
- 草の生い茂っているオフロードなどの悪路や、木の葉がかかるような山道などを走行する場合

衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、システムが作動することがあります。周囲の状況に注意して、走行してください。

- 追い越しや交差点などで前方の車両や対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどに接近して走行するとき
- 駐車時等、停止している車両や壁に接近するとき

※シティブレーキアクティブシステム*

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーザーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントガラス周辺の修理を行うとき

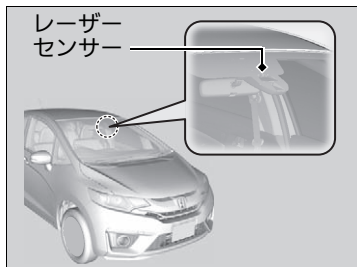
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄、および磨耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や磨耗度合いの異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- カーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

■ レーザーセンサーについて



シティブレーキアクティブシステムと誤発進抑制機能のレーザーセンサーは、フロントガラス上部に装備されています。

以下は、このレーザー等級の仕様データです。同様のことがIEC60825-1のラベルに規定されています。

レーザー等級	
最大平均出力	45mW
パルス幅	33ns
波長	905nm
出力角度(水平 × 垂直)	28° × 12°

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

⊠ レーザーセンサーについて



警告

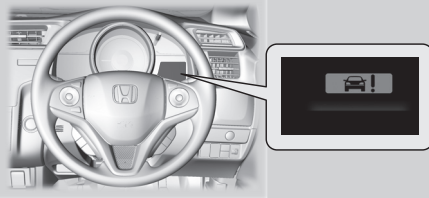
レーザーセンサーにより目を損傷するおそれがあるため、次のことを守る。

- センサーを取り外さない。
- センサーから 100 mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、センサーをのぞきこまない。

誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。なお、急な坂道やシフトポジションが **P**、**R**、**N** のときは、作動しません。

作動状態



機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅



パワーシステム出力を抑制



アクセルペダルを踏む
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。



アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能



警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

正しく運転しないと追突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、シティブレーキアクティブシステムを OFF にして遮断機を押しつけてください。

誤発進抑制機能は、シティブレーキアクティブシステムの機能のひとつです。そのため、シティブレーキアクティブシステムを OFF にしているときは、この機能は作動しません。また、機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーザーセンサーの取り扱いなども、シティブレーキアクティブシステムと同じです。

■機能解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ステアリングを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐車する

1. シフトポジションは **D** のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. パーキングスイッチを押す。
4. パワーシステムを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが **P** **N** 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☒ 駐車する

 **注意**

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションが **P** **N** 以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに **P** に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤワイドカメラシステム*

リヤワイドカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

2WD ドアミラーウィンカー 装備車

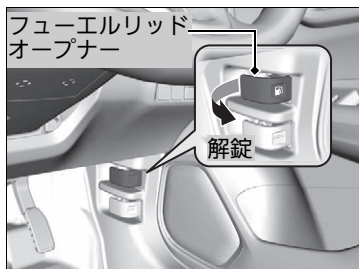
4WD 車

40 リットル

2WD ドアミラーウィンカー 非装備車

32 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

※指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

※給油のしかた



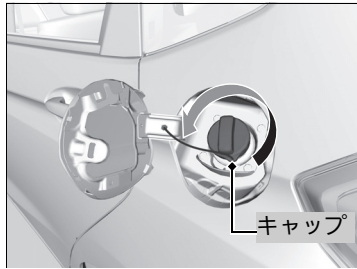
警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

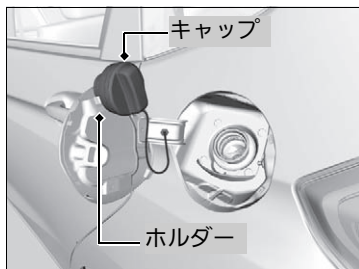
「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
 - ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
 - ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

☒給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に

- 点検整備について 219
- メンテナンスを安全に行うために 220
- メンテナンスに関する注意事項 220

エンジンルーム内のメンテナンス

- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 221
- ボンネットを開ける 222
- 推奨エンジンオイル 223
- ウィンドウォッシャー液の補給 223
- 電球の交換 224

- ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 235

タイヤの点検と整備

- タイヤの点検 239
- タイヤとホイールの交換 241
- タイヤのローテーション 242
- 冬期のタイヤ 244

Honda スマートキー

- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 245

エアコンのお手入れ

- エアークリーンフィルター 247

清掃

- 日常のお手入れ 249
- 車内の清掃 249
- 車外の清掃 251

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

ⓧメンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

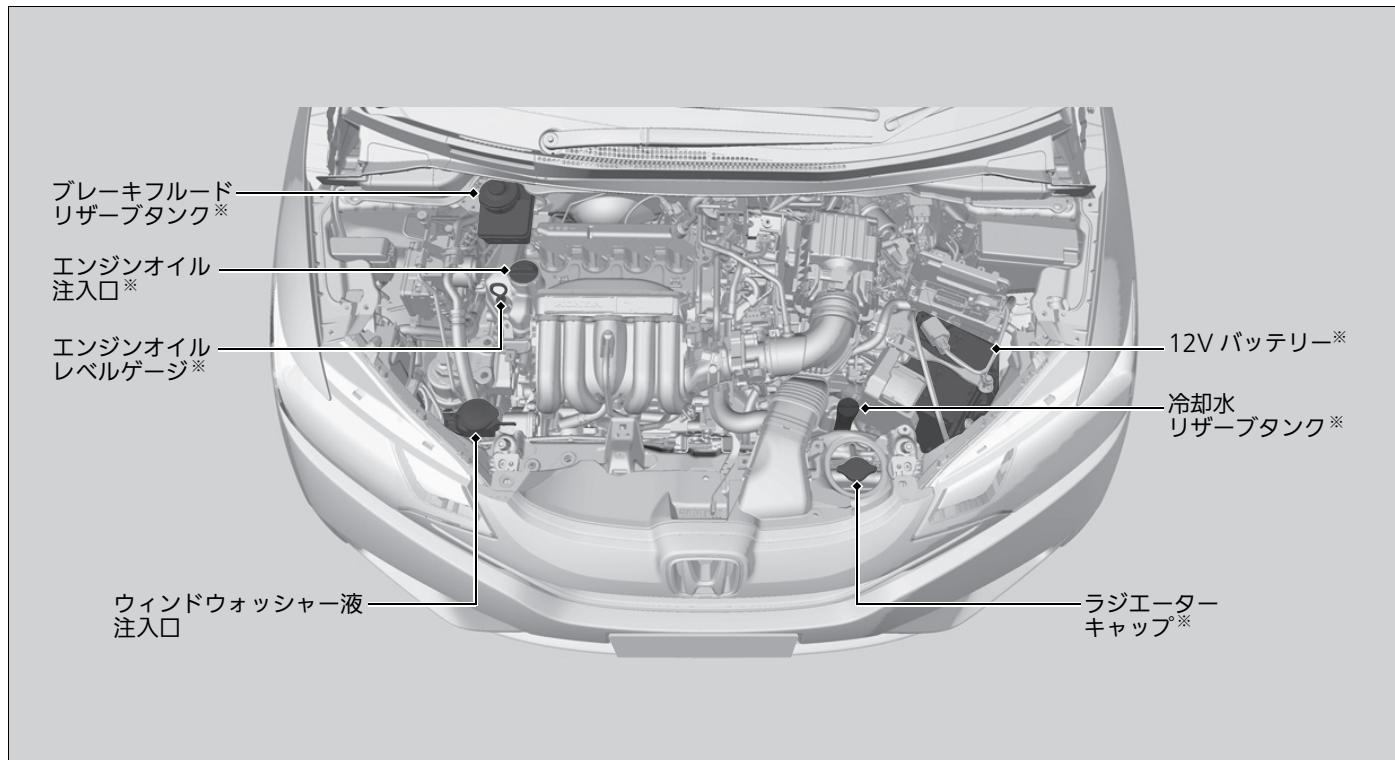
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

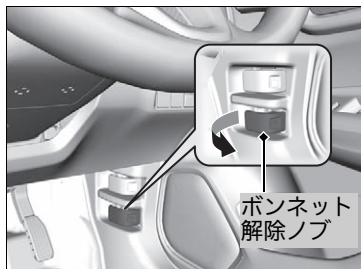
エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

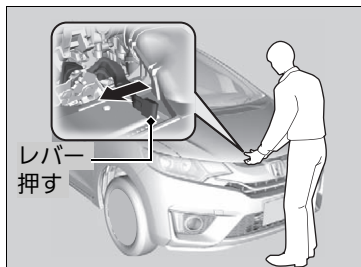


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

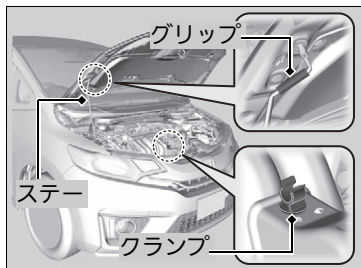
ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる可能性があります。



推奨エンジンオイル：

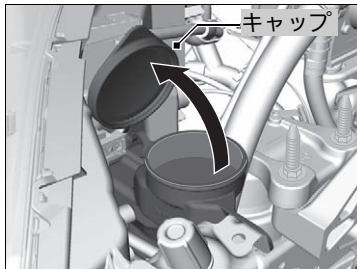
Honda 純正エンジンオイル

▶ Honda 純正エンジンオイル P.295

API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

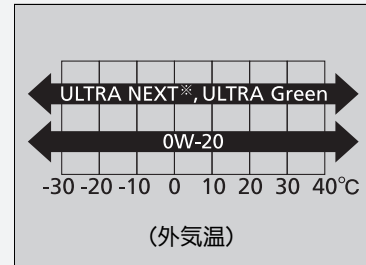
ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

▶▶ 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

▶▶ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

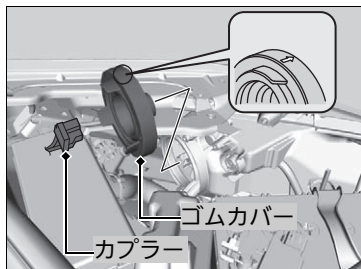
ヘッドライト電球

■ハロゲンヘッドライト

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト : 12V-60/55W

ハイビームハロゲンヘッドライト : 12V-60W



■ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト 装備車

1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。

※ハロゲンヘッドライト

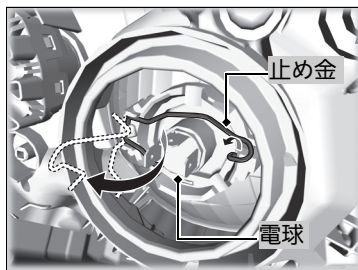
■アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

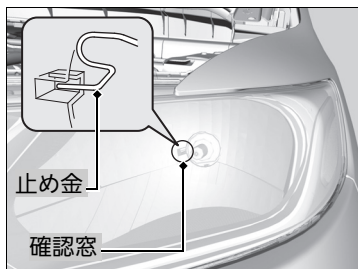
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

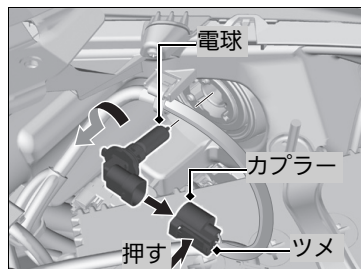
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。
5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
 - ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。





ハイビームハロゲンヘッドライト 装備車

1. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

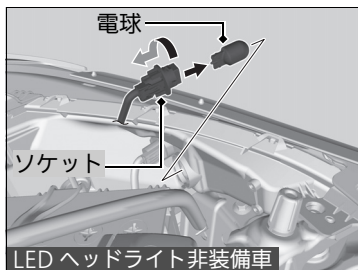
■ LED ヘッドライト*

電球の点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

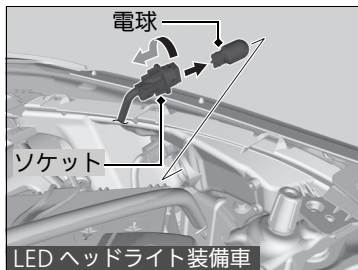
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

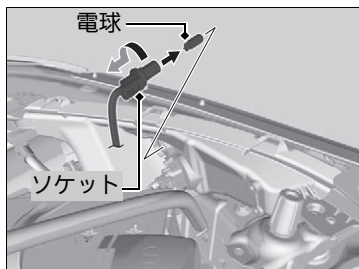


車幅灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

LEDタイプ

車幅灯はLEDを使用しています。電球の点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

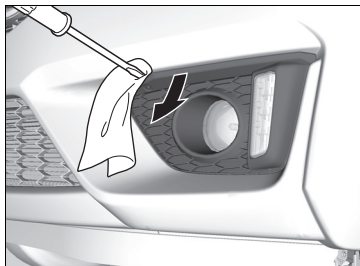
フォグライト電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-35W



1. ネジを外す。



2. バンパーとカバーのすき間にマイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。

▶ バンパーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



※フォグライト電球*

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

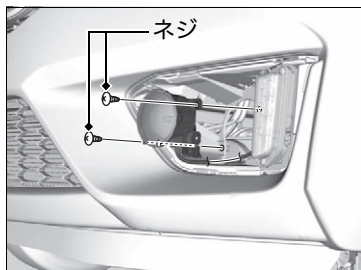
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

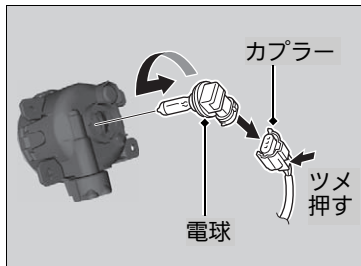
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く



3. ネジを外してライト本体を取り外す。



4. カプラーを外す。

▶ カプラーはツメを押しながら外します。

5. 古い電球を抜き取る。

6. 新しい電球を固定する。

7. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

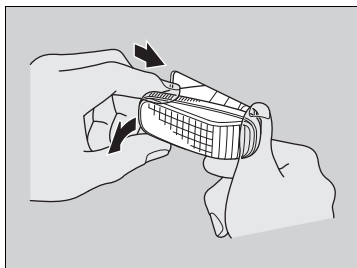
ドアミラーウィンカー装備車

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

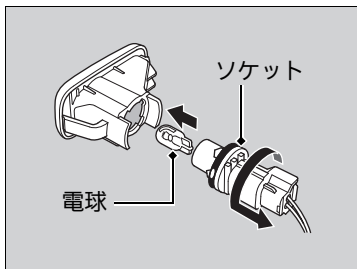
ドアミラーウィンカー非装備車

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V-5W



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

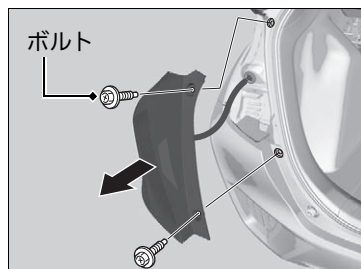
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

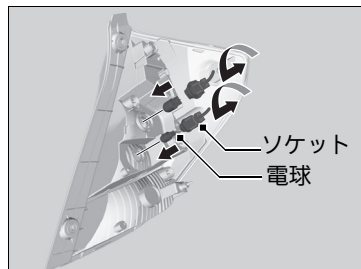
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)
後退灯	: 12V-16W



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

テールゲートガイドランプ電球

テールゲートガイドランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

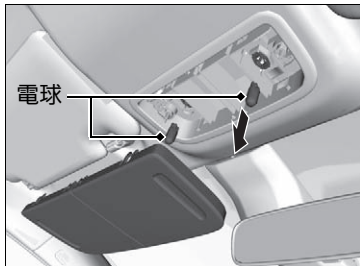
■ マップランプ電球*

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V—8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

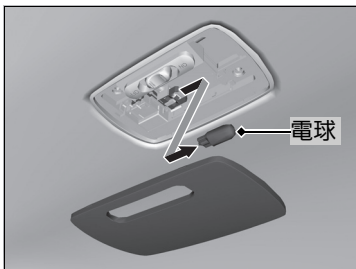
■ 室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V—8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

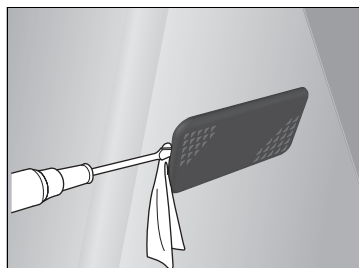


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

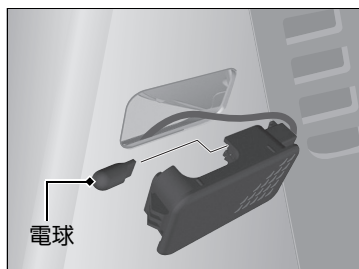
■ カーゴスペース照明灯電球*

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯：12V—5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



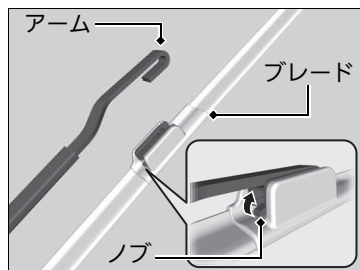
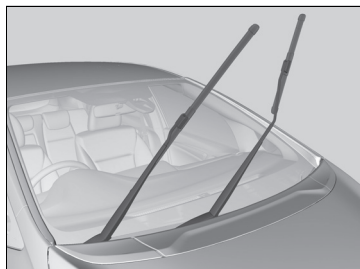
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードドラバーの点検と整備

ワイパーブレードドラバーの点検

ワイパーブレードドラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードドラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードドラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

※フロントワイパーブレードドラバーの交換

アドバイス

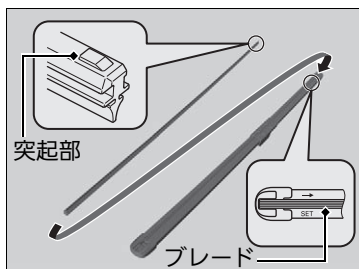
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

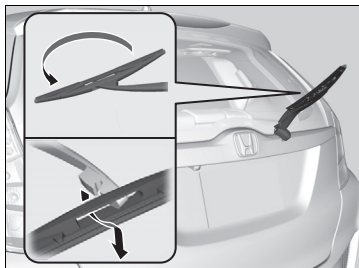


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

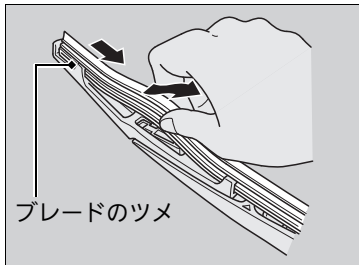
※フロントワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

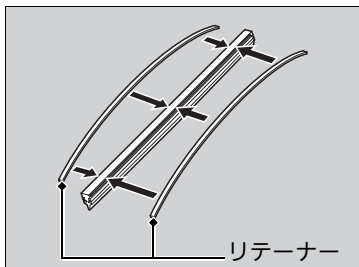
リヤワイパーブレードドライバー*の交換



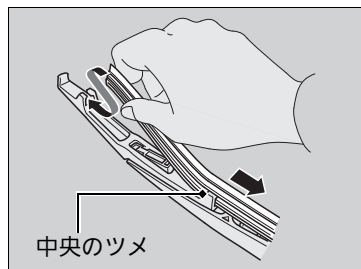
1. ワイパーアームを起こす。
2. ワイパーブレードの底部を回転させ、アームから取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
 - ▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。



6. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってある
ラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元がない場合は、車のラ
ベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

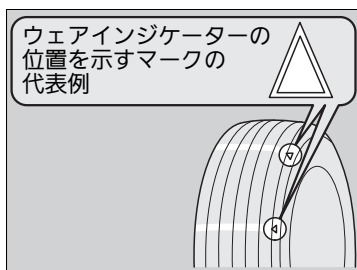
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➤資料 P.295

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

※タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ⓧ タイヤとホイールの交換



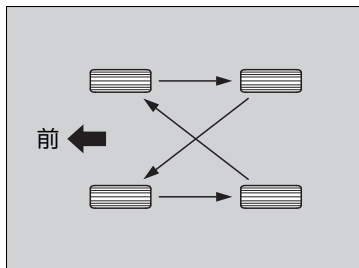
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

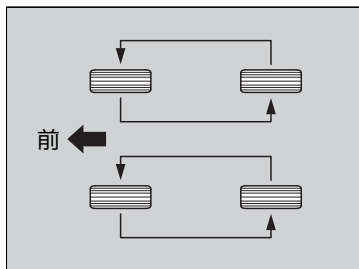
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

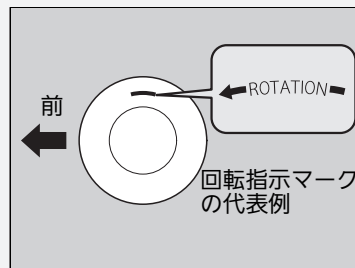
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

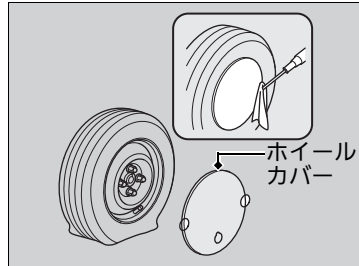
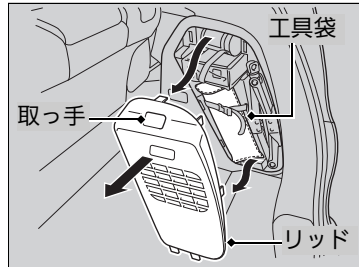
タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

■ホイールカバー*の脱着方法



1. カーゴスペース右側の取っ手を引きながらリッドを外し、工具袋を取り出す。

2. ホイールカバーの端にマイナスドライバーの先端を差し込み、タイヤ側にこじって取り外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

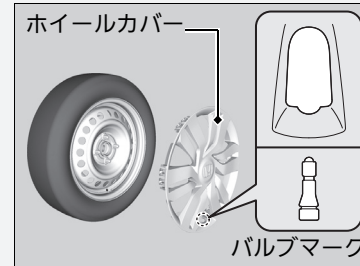
▶ 場所を変えて2カ所繰り返すと外れやすくなります。

※ホイールカバー*の脱着方法



注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などはさまないように十分注意する。



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

※冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは、2WD車、4WD車ともに前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

❏取り扱いについて



注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

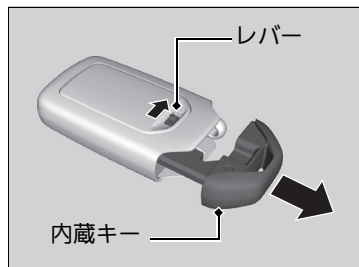
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■Honda スマートキー



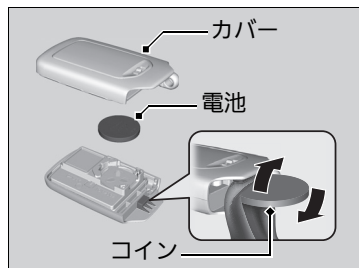
ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

2. カバーを外す。

▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。



エアコンのお手入れ

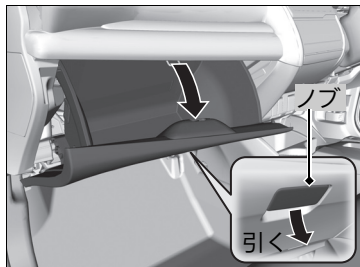
エアクリンフィルター

■エアクリンフィルターの交換時期

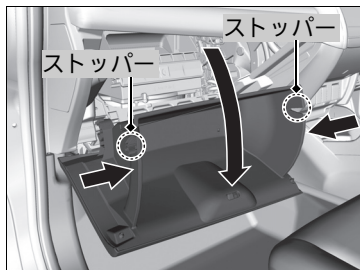
エアクリンフィルターは、通常1年または15,000km/hごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



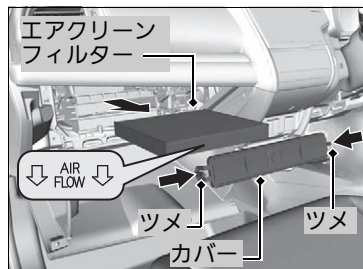
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

※エアクリンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
4. エアクリーンフィルターケースからエアクリーンフィルターを取り出す。
5. 新品と交換する。
▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

❏ 洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

❏ 車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ 本革*のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUV カット*/IR カット* ドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)、フロントコーナーガラスの車内側にUV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

※ ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないように、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

■ スーパーUV カット /IR カットドアガラス装備車

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 前席ウィンドーの汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。

汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- マイクロアンテナを取り外す

高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ はっ水ガラス* について

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなるがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

※ ガラスのお手入れ

■ はっ水ガラス装備車

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことを守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取り等を行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

※ アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■親水ミラーのお手入れ*

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
 - ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗淨後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

※親水ミラーのお手入れ*

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

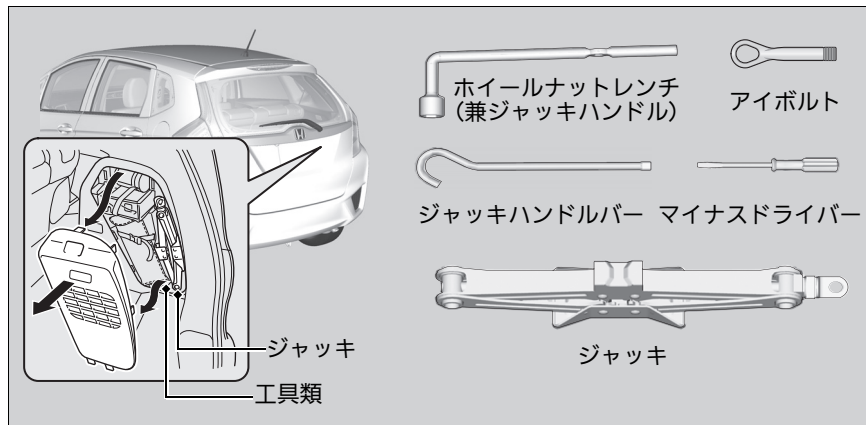
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....	256	ヒューズ	
パンクしたとき.....	257	ヒューズの設置場所.....	281
ジャッキの取り扱い		ヒューズの点検と交換.....	290
ジャッキのかけかた.....	267	けん引.....	291
パワーシステムが起動しない		テールゲートが開かないとき.....	292
パワーシステムの確認.....	269		
ジャンプスタート.....	273		
オーバーヒート.....	275		
警告灯の点灯 / 点滅.....	277		

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

▶ 発炎筒 P.2

工具の種類

工具類はカーゴルーム内に収納されています。

発炎筒



警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。



注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

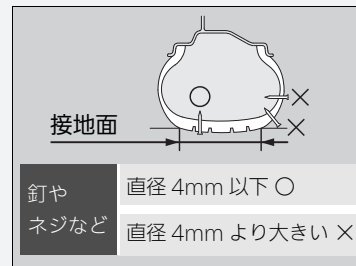
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. シフトポジションを **P** にする。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、**タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。**

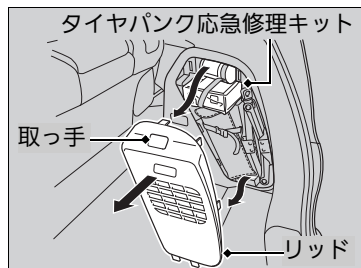
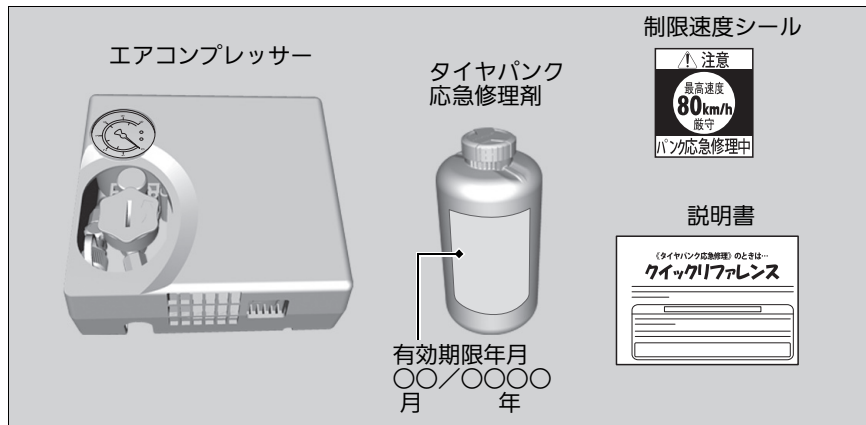
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクするとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備

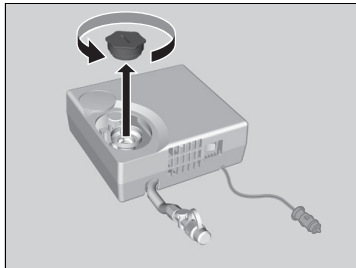
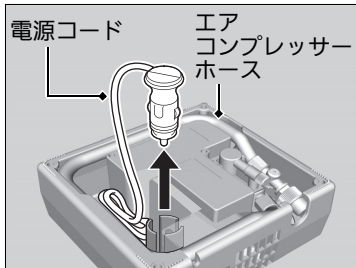


1. カーゴスペース右側の取っ手を引きながらリッドを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
2. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

☒タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。

2. エアコンプレッサーキャップを外す。

3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

応急修理剤とエアの注入



警告

応急修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

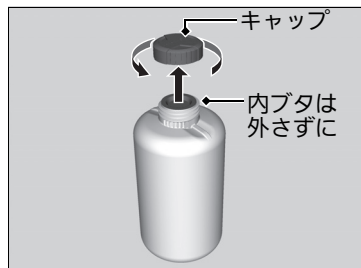
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

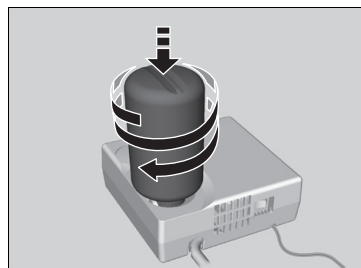
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれませんが、車内で温めると流れやすくなります。

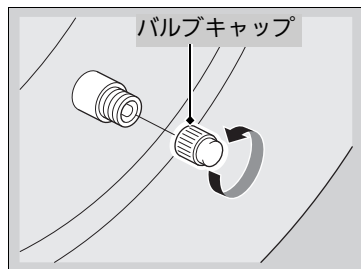
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態
で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ
込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ
込んでください。



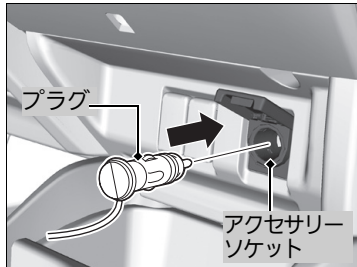
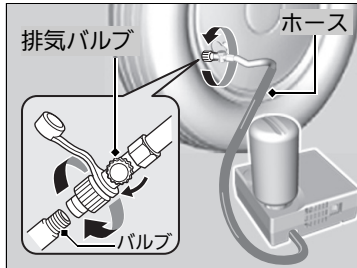
6. バルブからバルブキャップを取り外す。

※応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。



7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。

▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサースイッチがOFFであることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

9. パワーシステムを起動する。

▶ 一酸化炭素について P.59

⚠ 応急修理剤とエアの注入

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

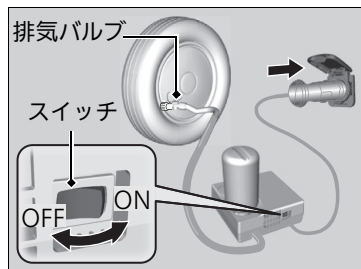
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーホースを取付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)まで高める。
11. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取付ける。
 - ▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
 - ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴルームに格納する。
 - ▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

※応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

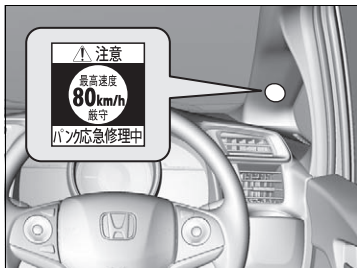
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では80 km/h以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

点検走行

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

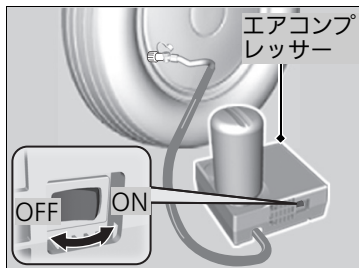
注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：

応急修理剤では修理はできません。

運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)の場合：

応急修理は完了です。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)以下の場合：

エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。

Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

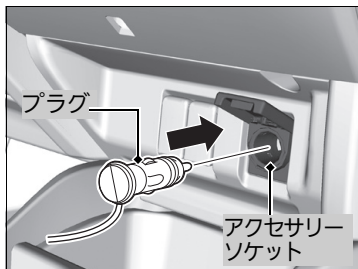
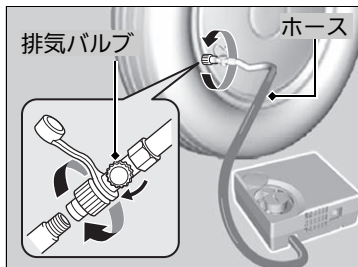
5. エアコンプレッサーなどをカーゴルームに収納する。

点検走行

走行前に、空ボトルの取り付けられたエアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
6. パワーシステムを起動する。
☑ **一酸化炭素について** P.59

☑タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

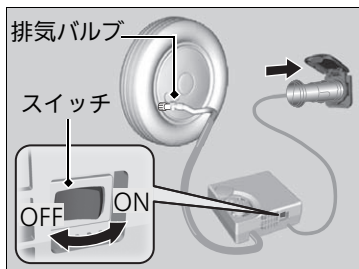
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。



7. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)まで高める。

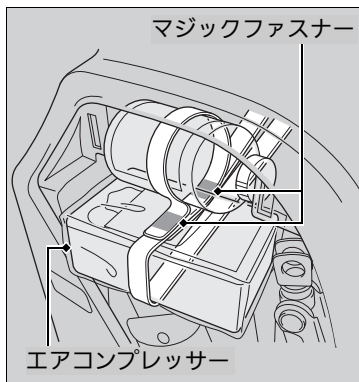
8. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
- ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。

9. パワーシステムを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. エアコンプレッサーホースを外す。

11. エアコンプレッサーをカーゴルームに収納する。

- ▶ エアコンプレッサーを収納するときは、図のようにベルトをマジックファスナーで固定します。



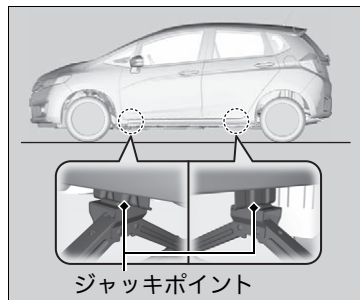
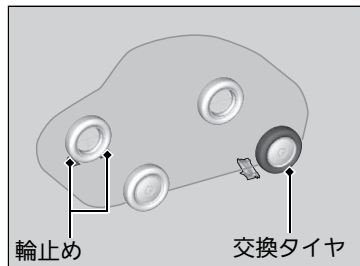
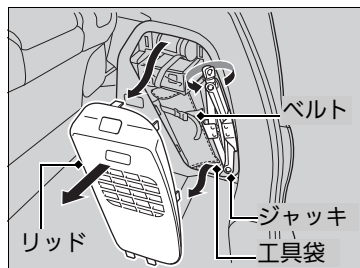
☒タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源をOFFにしてください。

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. リッドを引いて取り外し、ジャッキをゆるめて外す。
5. ベルトを外し、工具袋を取り外す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

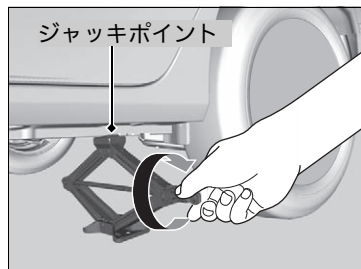
注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

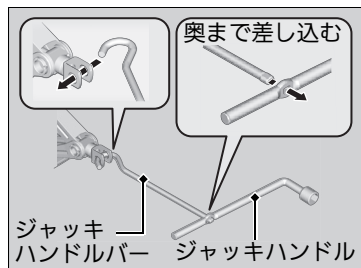
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

▶パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

▶ジャンプスタートの方法 P.273

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯かメッセージが表示されるかどうかを確認する	キーが見つかりませんのメッセージが表示されているとき	エンジン始動の作動範囲を確認します。 ▶POWER スイッチ P.128
	キーでスイッチに触れてくださいのメッセージが表示されているとき	ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ▶Honda スマートキーの電池が切れたとき P.271
	外気温が低いために起動できませんのメッセージが表示されているとき	▶マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.79
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、トランスミッション点検 停車時はパーキングブレーキを確実にかけてくださいのメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ▶トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した P.280

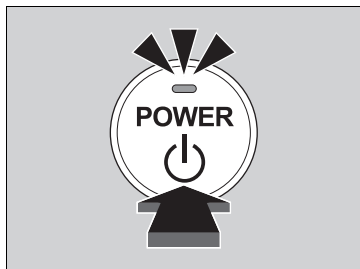
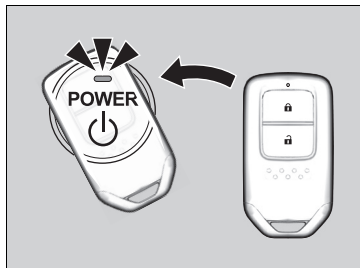
項目	状況	対処のしかた
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 🔧 ヒューズの点検と交換 P.290
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	パーキングスイッチを押してください。
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作を試みてください。	🔧 パワーシステムの起動 P.177
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	🔧 イモビライザーシステム P.124 🔧 イモビライザー システム表示灯 P.69

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、**POWER** のインジケーターが点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. **POWER** を押す。
 - ▶ 「ピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約30秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーのHonda エンブレムをスイッチに接触させる。
 - ▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
 - ▶ READY 表示灯が点灯します。
 - ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER ボタンは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。

パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- **POWER** を約 2 秒間押す。
- **POWER** を連続して 2 回押す。

このときハンドルロックはしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。

車両が完全に停止すると自動でシフトポジションが **P** になり、パワーモードは OFF になります。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **POWER** を押さないでください。

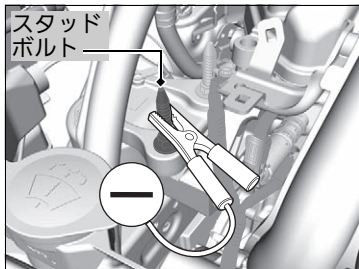
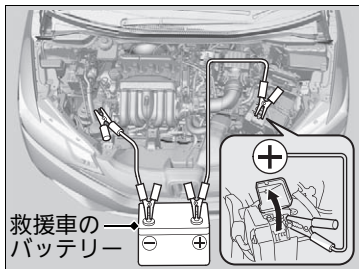
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを **0** にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの **+** 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの **+** 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの **-** 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

ジャンプスタートの方法



警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
 - ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
 - ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
 - ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⊠システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にする事

1. ただちに車を安全な場所に停める。
 - ▶ パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
2. 蒸気が出ていない場合：パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

※オーバーヒートしたときの対処方法



警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

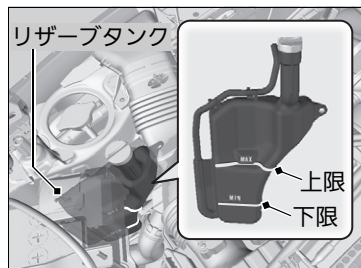
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからパワーシステムを停止させる。
 - ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止させます。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
 - ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐのこと

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止させ、3分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10秒以内に消灯しない：パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

■アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

※12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

外気温 - 30℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



トランスミッション点検：
停車時はパーキングブレーキを
確実にかけて下さい



■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 - パワーシステムを起動するときは、シフトポジションを **N** にします。
 - ▶表示灯の **N** が点灯 / 点滅しているのを確認してください。
 - ▶パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。
- ☞ **パワーシステムの起動** P.177

☒トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

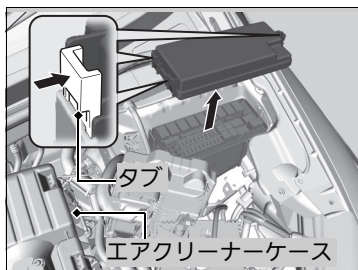
☒ **非常時のけん引** P.291

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■メインヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリーナーケースの隣にあります。タブを押して開けてください。

※ヒューズの設置場所

■メインヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

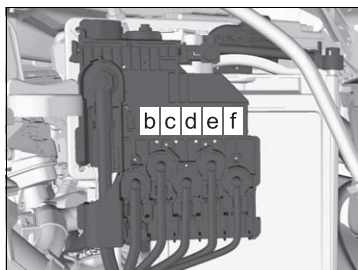
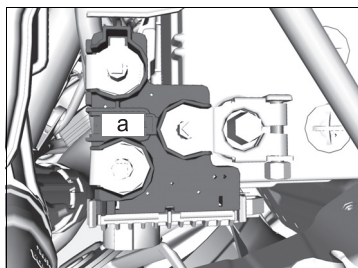
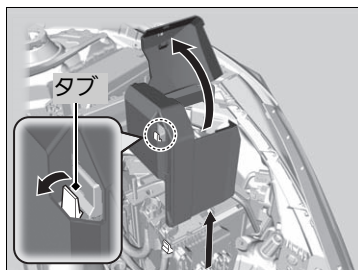
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヘッドライト	20A
2		DCT	20A
3		非常点滅表示灯	10A
4		ドライブバイワイヤー	15A
5		ワイパー	(30A)
6		制動灯	10A
7		PGM-FI	15A
8		イグニッションコイル	15A
9		DCT	20A
10	—	—	—
11		DCT	30A
12		冷却ファン	30A
13		オートスターター	(30A)
14		ウォーターポンプ	30A
15		バッテリーセンサー	7.5A
16	—	—	—
17	—	—	—
18		ホーン	10A
19		フォグライト*	(15A)
20	—	—	—

	表示	装備	容量
21		バックアップ	15A
22		室内灯	7.5A
23		サブファン	(30A)
24		—	(40A)
25		オートスターター	(7.5A)
26		—	(7.5A)
27	—	—	—
28	—	—	—
29		バックアップ	(10A)
30		LAF センサー	(10A)
31		PGM-FI サブ	(7.5A)
32		右側ヘッドライト ロービーム	10A
33		左側ヘッドライト ロービーム	10A



■サブヒューズボックス

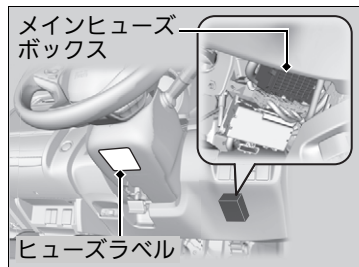
エンジンルーム内の助手席側に付いている、12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。

■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
a	バッテリーメイン	170A
b	RB メイン 1	60A
c	RB メイン 2	80A
d	デュアルクラッチ ドライブ	60A
e	EPS	70A
f	電動サーボブレーキ	40A

■ 室内運転席側のヒューズボックス



■ メインヒューズボックス

ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

※ 室内運転席側のヒューズボックス

■ メインヒューズボックス

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

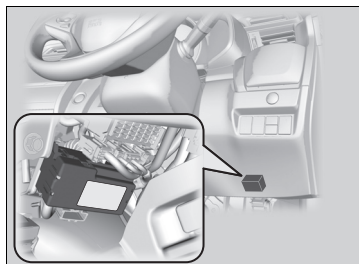
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 	ドアロック	20A
2 —	—	—
3 	Honda スマートキーシステム	(10A)
4 	左側ドアアンロック	15A
5 	右側ドアアンロック	15A
6 —	—	—
7 —	—	—
8 	運転席パワーウィンドー	20A
9 	助手席パワーウィンドー	20A
10 	助手席側 リヤパワーウィンドー	20A
11 	運転席側 リヤパワーウィンドー	20A
12 	左側ドアロック	15A
13 	右側ドアロック	15A
14 —	—	—
15 	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
16 	—	(7.5A)
17 —	—	—
18 —	—	—
19 	シートヒーター*	(20A)
20 —	—	—

表示	装備	容量
21 —	—	—
22 	ウォッシャー	15A
23 	リヤワイパー*	(10A)
24 	エアコン	7.5A
25 —	—	—
26 	スターター	(7.5A)
27 	ABS/VSA	7.5A
28 	SRS エアバッグシステム	10A
29 	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
30 	オルタネータ	10A
31 	パワーウィンドー	10A
32 	フューエルポンプ	15A
33 —	—	—
34 	メーター	7.5A
35 	ミッションソレノイド	7.5A
36 	アクセサリソケット	20A
37 	ACC	7.5A
38 	ACC キーロック	7.5A
39 	オプション	(10A)
40 	リヤワイパー*	(10A)
41 —	—	—
42 —	—	—

万1の場合には

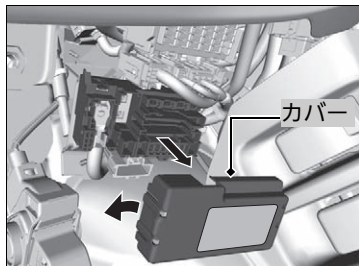
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



■サブヒューズボックス

室内のメインヒューズボックス下にあります。

カバーを開けてください。



☒サブヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

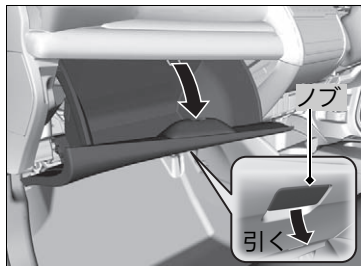
	表示	装備	容量
		リヤデフロスター	30A
		ヒーターモーター	30A
		ヒューズボックス (メイン 2)	50A
1		ABS/VSA	40A
		ヒューズボックス (メイン)	30A
		ヒューズボックス (メイン 3)	40A
	—	—	—
	—	—	—
2	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—

	表示	装備	容量
3	—	—	—
4	—	—	—
5		+B ABS/VSA	30A
6		フロントデフロスター	(10A)
7		オートリトラミラー*	(7.5A)
8	—	—	—
9		スモールライト	10A
10		アクセサリソケット (コンソール)	(20A)
11	—	—	—
12		—	(7.5A)
13		ヒータードアミラー	(10A)
14		—	(7.5A)
15		—	(30A)

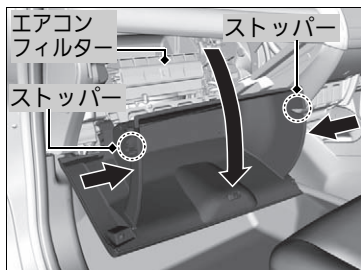
万
一
の
場
合
に
は

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開ける。



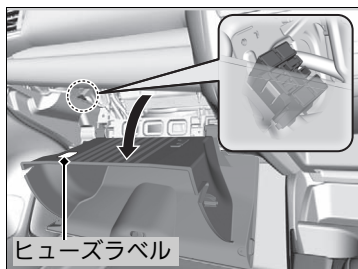
2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

▶ エアコンフィルターの左側にあります。

室内助手席側のヒューズボックス

グローブボックスに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

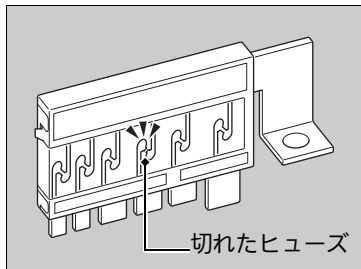
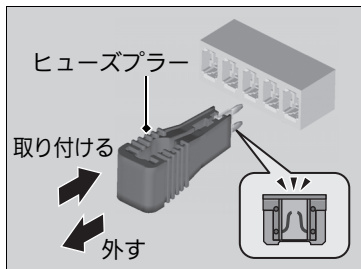
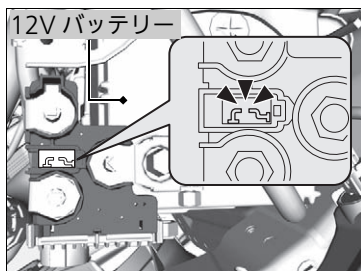
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		IG メイン	(30A)
2		DCT	10A
3		Honda スマート キーシステム	(10A)
4		IMA1	10A
5	—	—	—
6		IG メイン 2	(30A)
7		IMA2	15A
8	—	—	—

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. 12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のメインヒューズボックスのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。
6. 室内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

※ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

※各ヒューズの装備と容量

P.282, 283, 285, 287, 289

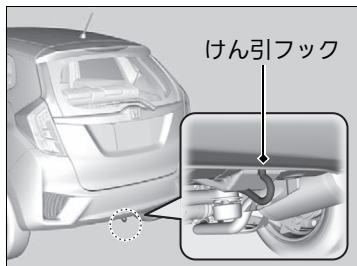
エンジンルーム内のメインヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。

ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車のけん引を行う場合、リヤバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。

❖非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

❖やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自転車より重い車のけん引は避けてください。

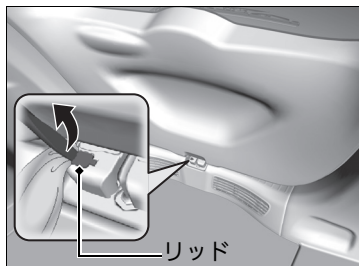
マルチインフォメーションディスプレイに「トランスミッション高温」のメッセージが出た場合は、安全な場所に停止してアイドルリングで冷やしてください。

❖マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.81

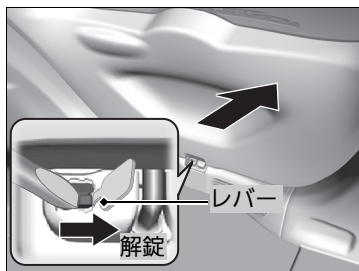
テールゲートが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様：Hybrid294

仕様：Hybrid

■仕様

名称	フィット	
排気量	1,496 cm ³	
車体形状	4ドアステーションワゴン	
乗車定員	5名	

■調節

点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	104mm 以上 [約 196N(20kgf) の力]
カーペットとのすき間 (参考値)	カーペットとのすき間	94mm 以上 [約 196N(20kgf) の力] (ペダル踏面右端)
	引きしろ	8~10 ノッチ
パーキングブレーキ		8~10 ノッチ [約 196N(20kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	32 ℓ ※1
	40 ℓ ※2※3

- ※1：2WD ドアミラーウィンカー非装備車
※2：2WD ドアミラーウィンカー装備車
※3：4WD 車

■エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■12V バッテリー

容量 / タイプ	28AH(5)/38B19L-MF※1 32AH(5)/44B19L-MF※2
----------	--

- ※1：ドアミラーウィンカー非装備車
※2：ドアミラーウィンカー装備車

■ウォッシャー液

タンク容量	1.1 ℓ ※1 2.0 ℓ ※2
-------	----------------------

- ※1：リヤワイパー非装備車
※2：リヤワイパー装備車

■電球

ヘッドライト※1	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-60W※7
ヘッドライト※2		12V-60/55W※7
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
車幅灯		12V-5W※3 LED※4
フォグライト*		12V-35W※7
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED※5 12V-5W※6
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
テールゲートガイドランプ		LED
番号灯		LED
マップランプ*		12V-8W
室内灯		12V-8W
カーゴスペース照明灯*		12V-5W

- ※1：オートライト装備車
※2：オートライト非装備車
※3：フォグライト非装備車
※4：フォグライト装備車
※5：ドアミラーウィンカー装備車
※6：ドアミラーウィンカー非装備車
※7：ハロゲンランプ

仕様：Hybrid

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4	
-----	-----------------------------------	--

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF-DW1	
規定量	2WD	1.3 ℓ (交換時)
	4WD	1.6 ℓ (交換時)

■デファレンシャルオイル **4WD 車のみ**

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ	
規定量	0.34 ℓ (交換時)	

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA NEXT ^{※1}	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 以上 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル、オイルフィ ルター同時交換時	3.3 ℓ

※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント	
規定濃度	50%	
規定量	3.8 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ 含む)	

■タイヤ

サイズ	185/60R15 84H ^{※1※3} 185/55R16 83V ^{※2}
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 220[2.2]/後輪 210[2.1]
リムサイズ	15×6J ^{※1※3} 16×6J ^{※2}

※1：2WD フォグライト非装備車

※2：2WD フォグライト装備車

※3：4WD 車

数字

4WD(四輪駆動機構)	197
7速マニュアルシフトモード	188

A

A/C(エアコン)	165, 247
ABS(アンチロックブレーキシステム)	
ABS警告灯	64, 201
AT	
(オートマチックトランスミッション)	183

C

CHARGE(チャージメーター表示)	85
CRUISE CONTROL	
(クルーズコントロール)	192

D

DCT(デュアルクラッチ トランスミッション)	184
----------------------------------	-----

E

ECONスイッチ	190
ECON表示灯	71
ECONスコア	7, 92
ECOドライブディスプレイ	91

EPS(電動パワーステアリング)	
システム警告灯	67, 279
ETC車載器	1
EV表示灯	70

H

Hondaインターナビシステム	別冊
Hondaスマートキー	111, 112, 113
Hondaスマートキーシステム警告灯	66
Hondaスマートキー持ち去り警告	130
緊急時のパワーシステム停止方法	272
電池交換	245
Hondaスマートキーシステム警告灯	66

I

IRカットガラス	250
ISOFIX	55

M

M(7速マニュアルシフトモード)	
表示灯	71
MIST	135
M表示灯	185

P

PGM-FI警告灯	62, 278
-----------------	---------

POWER(パワー表示)	85
POWERスイッチ	128

R

READY表示灯	70
----------------	----

S

SEL/RESETスイッチ	88, 89
SPORTメーター	95
SRSエアバッグ	38
エアバッグシステム警告灯	45, 64
Sモードスイッチ	190
Sモード表示灯	71, 185

U

USB/HDMIジャック	別冊
--------------------	----

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	196
VSA OFF警告灯	66, 197
VSA警告灯	66, 196

W

W(ワット)数	294
---------------	-----

ア

アームレスト	155
フロントシート	155
リヤシート	155
アイボルト	256
アクセサリ	217
アクセサリソケット	162, 261, 265
安全に関する表示	24
安全のための確認事項	27
アンチロックブレーキシステム(ABS)	201
ABS警告灯	64, 201
アンテナ	173
マイクロアンテナ	173
アンピエントメーター	6

イ

一酸化炭素の危険性	59
イモビライザーシステム	124
イモビライザーシステム表示灯	69
イルミネーションコントロール	137
インフォメーションスイッチ	88
インフォメーション表示灯	70

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	131
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	223

ウィンドウォッシャースイッチ	135
ウィンドーの開閉	126
ウェアインジケーター	240
運転	
クルーズコントロール	192
シフト操作	184
ブレーキ操作	199

エ

エアコン	165, 247
エアクリンフィルター	247
オートエアコンの使いかた	166
窓の曇りや霜の取りかた	168
エアバッグ	38
SRSエアバッグ	38
エアバッグシステム警告灯	45
エアバッグのお手入れ	46
サイドエアバッグ	41
サイドカーテンエアバッグ	43
エコアシストシステム	6
エマージェンシーストップシグナル	203
エンジンオイル	223
推奨エンジンオイル	223, 295
油圧警告灯	62, 277
エンジン作動表示	96
エンジンの始動	
ジャンプスタート	273
エンジンルーム内のメンテナンス	221

ウィンドウォッシャー液の補給	223
エンジンルーム内のメンテナンス項目	221
推奨エンジンオイル	223, 295
ボンネットを開ける	222
冷却水の点検と補給	275
エンジン冷却水	295

オ

追越合図(パッシング)	132
応急修理剤(タイヤパンク)	257
オーディオ装置	173
オートエアコン	166
オートリトラミラー	143
オーバーヒート	275
オドメーター	90
温度センサー	86

カ

カーゴスペース照明灯	157
電球の交換	234
外気温表示	86
鍵(かぎ)	111
カスタマイズ機能	98
ガソリン	214, 294

キ

キー

Hondaスマートキー	111, 112, 113
キー閉じ込み防止装置	118
キーナンバータグ	112
キーの種類と機能	111
キーレスエントリー	117
キーレスエントリーでドアが開かない	22
後席ドアが開かない	22
電池交換のしかた	245
内蔵キー	111
Hondaスマートキーの電池が切れたとき	271
キー閉じ込み防止装置	118
キーナンバータグ	112
キーレスエントリー	117
キーレスエントリー一体キー	
電池交換のしかた	245
キックダウン	183
給油	214
給油のしかた	214
指定燃料	214, 294
燃料計	90

ク

空気圧	295
グラブレール	3
クリーブ現象	183

クルーズコントロール	192
車の改造	217
グローブボックス	158

ケ

経過時間表示	88, 95
計器	60
警告灯	61
ABS警告灯	64, 201
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	67, 279
Hondaスマートキーシステム 警告灯	66
PGM-FI警告灯	62, 278
VSA OFF警告灯	66
VSA警告灯	66, 196
エアバッグシステム警告灯	64
高水温警告灯	67
シートベルト非着用警告灯	64
充電警告灯	62, 277
トランスミッション警告灯	63, 280
パワーシステム警告灯	67
ブレーキ警告灯	61, 279
ブレーキシステム警告灯	65
油圧警告灯	62, 277
警告灯の点灯/点滅	277
けん引	291

コ

交換

カーゴスペース照明灯電球	234
後退灯電球	232
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	232
室内灯電球	234
車幅灯電球	228
制動灯/尾灯電球	232
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	227
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	231
テールゲートガイドランプ電球	233
ハイマウントストップランプ電球	233
番号灯電球	233
フォグライト電球	229
ヘッドライト電球	224
マップランプ電球	234
ワイパーブレードドラパー	235, 237
工具	256
工具袋	267
交差点案内表示	97
高水温警告灯	67
航続可能距離表示	88, 94
後退灯	232
高電圧バッテリーの特性	198
高電圧バッテリー残量	96
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	232

コートフック	163
コンソールボックス	
センターコンソールボックス	158

サ

サービス診断記録装置について	24
サイドエアバッグ	41
サイドカーテンエアバッグ	43
サンバイザー	3

シ

シートの調節	144
アームレスト	155
フロントシート	144
ヘッドレスト	153
リヤシート	146
シートヒーター	164
シートベルト	28
アンカーポイント	37
シートベルトの着用	31
シートベルトの点検	37
シートベルト非着用警告灯	64
シートベルトプリテンショナー	30
シートベルトリマインダー	29
妊娠中のかたのシートベルト着用の しかた	36
時刻の設定	108
室内装備品	158

室内灯	156
指定燃料	214, 294
シティブレーキアクティブシステム	204
シティブレーキアクティブ システム表示灯	72
シフトインジケーター	185
シフトインジケーター表示灯	71, 185
シフトスイッチ	189
シフト操作	184
シフトポジション	
シフトポジション表示灯	71, 185
シフトポジション表示灯	71, 185
車外の清掃	251
ジャッキ	256, 267
ジャッキハンドルバー	256
ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ)	256
車内の清掃	249
車幅灯	228
車両接近通報装置	191
ジャンプスタート	273
充電警告灯	62, 277
瞬間燃費表示	88, 94
仕様	294, 295
衝撃感知ドアロック解除システム	120
ショルダーアンカー	33
親水ミラー	254

ス

スイッチ

ECONスイッチ	190
Sモードスイッチ	190
セレクト/リセットノブ	89, 137
フォグライトスイッチ	133
フロントガラス熱線スイッチ	138
ヘッドライトレベリングダイヤル	134
方向指示器(ウィンカースイッチ)	131
ライトスイッチ	132
リヤデフロスタースイッチ	138
ワイパー/ウォッシャー	135
スーパーUVカットガラス	250
ステアリング	139
スノータイヤ	244
スパークプラグ	294
スピードメーター	85
スポーツ ハイブリッドi-DCD (インテリジェント デュアルクラッチ ドライブ)	8

セ

清掃	249
制動灯	232
セキュリティシステム	124
イモビライザーシステム	124
セキュリティアラームシステム	124
セレクトポジション	184

セレクトレバー	
セレクトレバーの操作	185
センターコンソールボックス	158
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	227

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	231
-------------------	-----

タ

タイヤ	239
ウエアインジケーター	240
指定空気圧	240, 295
タイヤの点検	239
タイヤのローテーション	242
タイヤパンク応急修理キット	257
冬期のタイヤ	244
パンク	257
タイヤチェーン	244
タイヤとホイールの交換	241

チ

チェーン	244
チャージメーター表示(CHARGE)	85
チャイルドシート	
ジュニアシート	57
乳児のチャイルドシート	48
幼児のチャイルドシート	49

チャイルドブルーフ	121
駐停車操作	211

テ

テールゲートガイドランプ	233
停止表示板入れ	159
低水温表示灯	68
データの開示について	24
テールゲートの開閉	122
テールゲートが開かないとき	292
ドア/テールゲート開閉警告	27
デフロスター	168
リヤデフロスター	138
点火プラグ	294
電子制御ブレーキアシスト	202
電池交換	245

ト

ドアの施錠と解錠	111
Hondaスマートキー	111, 112, 113
キー閉じ込み防止装置	118
キーナンバータグ	112
キーの種類と機能	111
キーレスエントリー	117
キーレスエントリーでドアが開かない	22
後席ドアが開かない	22
車外でのドアの施錠/解錠	114
車内での施錠と解錠	119

衝撃感知ドアロック解除システム	120
チャイルドブルーフ	121
ドア/テールゲート開閉警告	27
ドアミラー	141
冬期のタイヤ	244
スノータイヤ	244
タイヤチェーン	244
時計の表示	86
トップテザーアンカレッジ	56
トップテザーアンカレッジシンボル	56
トップテザーストラップ	56
トラブルシューティング	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	22
オーバーヒートした	275
キーレスエントリーでドアが開かない	22
警告灯が点灯/点滅した	277
けん引してもらいたい	291
後席ドアが開かない	22
ジャンプスタートしたい	273
走行するとブザーが鳴る	23
ハイオクガソリンは使える?	23
パワーシステムが起動しない	269
パンクした	257
ヒューズが切れた	281
ブレーキを踏むと音がする	23
ブレーキを踏むと振動する	22
トランスミッション警告灯	63, 280
トランスミッションフルード	295
トリップメーター	90

ドリンクホルダー 160

ナ

内蔵キー 111

ネ

燃料 214, 294

燃料計 90

ハ

パーキングブレーキ 199

排気ガスの危険性 59

ハイビーム 132

電球の交換 224

ハイビーム表示灯 68

ハイマウントストップランプ 5, 233

ハザードスイッチ 0

発炎筒 256

パッシング 132

バッテリー

ジャンプスタート 273

充電警告灯 62, 277

容量 294

発話スイッチ 1

パニティミラー 3

パワーウィンドーの開閉 126

パワーシステム

パワーシステムの起動 177

パワーシステムの停止 178

パワーシステム警告灯 67

パワーシステムの起動

ジャンプスタート 273

パワーシステムが起動しない 269

パワー表示 (POWER) 85

パワーフロー 96

パワーモード

オートオフ機能 129

切り換えかた 128

警告ブザー 129

バンク 257

番号灯 233

ハンドル 139

ハンドル位置調節レバー 139

汎用型!SOFIXチャイルドシート 52

ヒ

非常点滅表示灯スイッチ 0

尾灯 232

ヒューズ 281

ヒューズの設置場所 281

ヒューズの点検と交換 290

表示灯 68

ECON表示灯 71

EV表示灯 70

M(7速マニュアルシフトモード)

表示灯 71

READY表示灯 70

Sモード表示灯 71

イモビライザーシステム表示灯 69

インフォメーション表示灯 70

シティブレーキアクティブ

システム表示灯 72

シフトインジケーター表示灯 71

シフトポジション表示灯 71, 185

セキュリティアラームシステム

作動表示灯 69

低水温表示灯 68

ハイビーム表示灯 68

フォグライト点灯表示灯 68

方向指示器表示灯 68

ライト点灯表示灯 68

フ

ブースターケーブル 273

フォグライト 229

フォグライトスイッチ 133

ブザー

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 22

走行するとブザーが鳴る 23

フューエルリッドの開けかた 214

プラスマクラスター 170

ブレーキ警告灯 61, 279

ブレーキシステム 199

ABS(アンチロックブレーキシステム).....	201
エマージェンシーストップシグナル.....	203
シティブレーキアクティブシステム.....	204
電子制御ブレーキアシスト.....	202
パーキングブレーキ.....	199
フットブレーキ.....	200
ブレーキ警告灯.....	61, 279
ブレーキを踏むと音がする.....	23
ブレーキを踏むと振動する.....	22
ブレーキフルード.....	295
ブレーキ警告灯.....	61, 279
フロントガラス熱線スイッチ.....	138
フロントシート.....	144
アームレスト.....	155
ヘッドレスト.....	153

へ

平均車速表示.....	88, 95
平均燃費表示.....	88, 94
平均燃費履歴表示.....	88, 94
ヘッドライト.....	132, 254
追越合図(パッシング).....	132
電球の交換.....	224
ハイビーム.....	132
ハイビーム表示灯.....	68
ライト点灯表示灯.....	68
ロービーム.....	132
ヘッドライトレベリングダイヤル.....	134

ヘッドレスト.....	153
フロントシート.....	153
リヤシート.....	153

ホ

ホイールサイズ.....	295
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル).....	256, 267
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	131
方向指示器表示灯.....	68
ホーンスイッチ.....	1

マ

マイクロアンテナ.....	173
マップランプ.....	157
マップランプ電球.....	234
マルチインフォメーションディスプレイ.....	87
メッセージ.....	74

ミ

ミラー.....	140
ドアミラー.....	141
パニティミラー.....	3
ルームミラー.....	140

メ

メーター.....	12, 85
SPORTメーター.....	95
スピードメーター.....	85
チャージメーター表示(CHARGE).....	85
燃料計.....	90
パワー表示(POWER).....	85
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	87
メンテナンス.....	218
Hondaスマートキー.....	245
エンジンルーム内のメンテナンス.....	221
清掃.....	249
タイヤの点検と整備.....	239
メンテナンスに関する注意事項.....	220
メンテナンスを安全に行うために.....	220
ライト類の点検と整備.....	224
ワイパーブレードドラバーの点検と整備... ..	235

ユ

油圧警告灯.....	62, 277
有料道路自動料金支払いシステム (ETC)車載器.....	1

ヨ

四輪駆動機構(4WD).....	197
------------------	-----

ラ

ライトスイッチ	132
追越合図(パッシング)	132
ハイビーム	132
ハイビーム表示灯	68
ライト点灯表示灯	68
ロービーム	132
ライト類の点検と整備	224
カーゴスペース照明灯電球	234
後退灯電球	232
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	232
室内灯電球	234
車幅灯電球	228
制動灯/尾灯電球	232
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	227
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	231
テールゲートガイドランプ電球	233
ハイマウントストップランプ電球	233
番号灯電球	233
フォグライト電球	229
ヘッドライト電球	224
マップランプ電球	234
ラジエーター	275, 276

リ

リザーブタンク	275, 276
リムサイズ	295
リヤカメラシステム	213
リヤシート	146
アームレスト	155
ヘッドレスト	153
リヤデフロスタースイッチ	138

ル

ルームミラー	140
--------------	-----

レ

冷却水	275, 276, 295
オーバーヒート	275
高水温警告灯	67
低水温表示灯	68
補給	275, 276

ロ

ロアアンカレッジ	55
ロービーム	132
電球の交換	224

ワ

ワイパー/ウォッシャー	135
ワイパーブレードドラバー	235

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名